

公益社団法人 日本技術士会 北海道本部防災委員会 設立 20 周年記念誌

技術者の心、絆



平成 28 年 4 月

公益社団法人 日本技術士会

北海道本部 防災委員会

創立 20 周年記念誌

技術者の心、絆

もくじ

I. 巻頭言	1
II. 防災委員会活動の思い出	3
初代 防災研究会会長 能登 繁幸	3
第2代 防災委員会委員長 高宮 則夫	5
初代 防災研究会副会長 大島 紀房	7
初代 防災研究会幹事長 松井 義孝	9
第2代 防災研究会幹事長 富澤 幸一	11
第3代 防災委員会幹事長 城戸 寛	12
第4代 防災委員会幹事長 林 宏親	14
III. 各部会・WGの思い出	15
初代 地盤部会会長 高橋 輝明	15
第2代 地盤部会会長 北 健治	17
初代 交通部会会長 花田 眞吉	19
第2代 交通部会会長 桑田 雄平	22
第3代 交通部会会長 木村 和之	23
初代 都市部会会長 高橋 徹男	24
都市部会 三木田 正則	26
初代 水工部会会長 井出 康郎	30
第2代 水工部会会長 瀬川 明久	31
第5代 水工部会会長 福間 博史	32
初代 情報部会幹事 森 隆広	33
防災教育ワーキング 小田 直正	35
IV. 20周年記念座談会	37
V. 写真で振り返る防災委員会の20年	52
VI. 資料集	69
防災委員会 活動概要(H7～H27)	69
防災委員会 活動年表(H7～H27)	75

I . 巻頭言

第3代 防災委員会委員長 浅野 基樹



日本技術士会北海道本部防災委員会の発足 20 周年記念誌の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当防災委員会は、平成 7 年の阪神・淡路大震災を契機に旧称防災研究会として発足し、その後 20 年に亘り、防災に関する情報収集と研究活動を行って参りました。その間、当委員会の活動にご尽力され、成果を挙げられて来た歴代の能登繁幸委員長や高宮則夫委員長をはじめ多くの諸先輩に敬意を表したいと思います。

当委員会は、防災に関する諸問題を調査研究し、北海道の災害を最小限に食い止める防災体制や防災型国土のあり方などを提言するとともに、災害発生地域への技術支援および情報提供することを目的としております。主な活動としては、平成 9 年に「技術士からの提言－地震災害に備えて」を発刊、平成 13 年度からは「都市型防災」をテーマに研究活動を行い、平成 17 年には防災研究会（旧称）設立 10 周年記念事業として「第 1 回全国防災連絡会議」を技術士会全国大会（札幌）に合わせ開催いたしました。その後、平成 19 年には「防災・減災カード」を発行、平成 21 年からは防災教育 WG メンバーが中心となり、一般市民を対象とした「防災教育セミナー」や「防災リーダー研修」などを開催してきております。また、平成 23 年の東日本大震災後の取り組みとして、平成 25 年 10 月に第 40 回技術士全国大会（札幌）にて「東日本大震災を教訓とした『北海道の防災』～教訓と提言～」と市民向けの「地震災害に関する Q&A 集」を発行・発表を行いました。現在も、4 部会 1 ワーキングの体制で、防災に関する研究活動と、市民防災活動の支援を行っているところです。

一方で、東日本大震災においては、日本学術会議、土木学会、地盤工学会、電気学会、日本都市計画学会、日本計画行政学会など多くの学会や団体から提言や宣言が発表されました。日本技術士会からも平成 24 年 3 月に「東日本大震災から 1 年 復興へ向けた技術士宣言」がとりまとめられ、その骨子の中では、1. 3つの視点（いのち、くらし、なりわい）、2. 復興支援技術士データベースの活用、3. 協定締結による自治体等との連携強化、4. 他分野の専門家との連携強化、5. 科学技術コミュニケーターとしての技術士、の 5 項目が取り上げられています。特に、「5. 科学技術コミュニケーターとしての技術士」において、「防災・減災対策については、日々の生活や仕事の現場の中で十分に理解を深め、地域社会全体の共通認識としていくことが肝要であり、技術士は、部門間や他分野の専門家と連携し、防災・減災に関する科学技術コミュニケーターとして地域社会に貢献していく」とされているところです。そのため、「東日本大震災を教訓とした『北海道の防災』～教訓と提言～」でも、被害の最小化には過去の災害やそのメカニズムや教訓などを「よく知り、よく備え、正しく恐れる」ことが重要であり、そのため科学技術コミュニケーターとしての役割を担いたいと結んでいます。

度重なる大規模災害を経験し、防災意識が深まり、多くの学術団体などから防災・減災に関する提言が出され、行政、市民などそれぞれにおいて、防災知識や対応能力が向上しつつある現在、より社会貢献が求められる技術士会として今後どのような活動を行っていくのか、新たに模索すべき時が来ているように思えます。

技術士とは、技術士法によると科学技術に関する高等の専門的応用能力を必要とする事項についての計画、研究、設計、分析、試験、評価又はこれらに関する指導の業務を行う者であり、公共の安全、環境の保

全その他の公益を害することのないよう努め、常に、知識及び技能の水準を向上させ、資質の向上を図るよう努めなければならないとされています。

日本技術士会の目的は、技術士の品位の保持、資質の向上及び業務の進歩改善を図るため、技術士の研修並びに会員の指導及び連絡に関する事務等の業務を行い、もって科学技術の向上及び国民経済の発展並びに国際交流の推進に寄与し、更には広く社会に貢献するとされています。この目的を達成するため、倫理の啓発、資質向上、技術士制度の普及・啓発、技術士法に基づく試験及び登録、技術士の業務開発及び活用促進、技術系人材の育成、国際交流及び国際協力活動並びに国際資格、科学技術を通じた社会貢献活動、科学技術についての行政施策への協力・提言・調査研究などに関する事項を事業としているところです。

ピーター・ドラッカー風に考えると技術士会の「顧客」は技術士であります。この「顧客」である技術士が何を求めているのかということを考えなければならないと思います。額面的には、「常に、知識及び技能の水準を向上させ、資質の向上を図るよう努めなければならない」という技術士の義務に応えるため、技術士会の目的である「資質の向上及び業務の進歩改善を図るため、技術士の研修並びに会員の指導及び連絡」を行い、更に「広く社会に貢献する」ことを達成することです。しかし、技術士会に入会するとその達成のための負担感だけが多くなっては元も子もないと思われます。技術士会の会員になって、なおかつ防災委員会の会員になって良かったと思える活動でなければなりません。

今後、このことについて、どのようにしていくことが良いのか模索しつつ、活動を意義のあるより良きものにしていければと感ずるところです。

Ⅱ. 防災委員会活動の思い出

初代 防災研究会会長 能登 繁幸



“20年も前のことか”

防災委員会が20周年?!ということは阪神淡路大震災から20年経ったのか。あの年、平成7年の1月17日、テレビに信じられない映像が流れていた。ビルが倒壊し、橋桁が外れ、高速道路が横倒しになり、至る所で火災が発生し、空は煙で真っ黒。呆然と画面を眺めながら、一介の土木技術者として、何かすべきではないのか、と考えた。そんな思いを抱いた連中が集まり、まずは座談会を開催した。そして次なる行動が「防災研究会」を立ち上げることだった。

研究会立ち上げの契機が阪神淡路大震災ではあったのは事実だが、その前にくすぶる時期はあった。2年前の平成5年に釧路沖地震、半年もしないで北海道南西沖地震、翌平成6年に北海道東方沖地震が立て続けに発生。被害はかなり甚大で多くの人命も失われた。このとき、安全・安心な社会の実現を目指す技術士として手をこまねいていいのか。草莽の士が集まって何かを始めるべきではないのか、そう思った技術士が数多くいたに違いない。

阪神淡路大震災から2ヶ月後、「阪神大震災に思う、そして…」と題する座談会が開催された。座談会の発案から実施に至るまで、「コンサルタンツ北海道」の編集を担当していた松井義孝さんや柴田悟さんが走り回ったものと推察される。また北海道技術士センター副会長の大島紀房さんや北海道開発局情報管理室長の大橋猛さんも強力に支援していたものと想像する。このとき私自身は北海道開発局開発土木研究所の構造部長であって、立場上災害対応の主査ではあったが、長年従事してきた地盤工学を専門とする一技術者として座談会に参加した、という程度の気持ちであった。座談会出席者は今から思えばそうそうたる面々であり、その後の「防災研究会」はもとより現在の日本技術士会北海道本部を支えてきた重鎮たちであった。

平成7年5月、日本技術士会北海道支部と北海道技術士センター共通の組織として「防災研究会」が設置された。この当時、日本技術士会の本部、各支部にも同様の組織は存在せず、日本国内で初めて防災を考える組織が立ち上がったことになる。ちなみに日本技術士会に災害対応に関する組織的窓口として「災害対応調査委員会」が設置されたのは、それから4年後のことである。私が初代の防災研究会会長となったが、誰がいつ決めたのか、全くもって未だに知らない。

研究会に5つの専門部会を設け、直ちにも活動する会員を募集した。驚いた。各部会とも20名を超える会員の申込があり、研究会総体では何と100名を超える会員が集まった。技術士資格を有する多くの技術者が、いかに焦燥感に振り回されていたのか、この数字が物語っている。5つの専門部会はそれぞれの分野に関する情報収集、研究活動、報告会やシンポジウムの開催に精力的に取り組んだ。やがて、2年間にわたる活動の成果として有益な資料が積み重なって行く。これらを整理し、推敲を加えて集大成し、出版してはどうかという声が上がると「言うは易し」。会員それぞれ会社に勤務していて、防災研究会の活動はボランティアである。日常業務多忙の中、果たして執筆作業は可能だろうか。

平成9年5月、第1期(平成7~8年度)活動報告書「技術士からの提言—地震災害に備えて—」(250ページ)とその概要版「地震災害に備えて—技術士からの27の提言—」(36ページ)が刊行された。マスコミに取り上げられ、全国的にも大きな反響があった。報告書の冒頭に、防災研究会会長として挨拶文を載せた

が、文末に「防災研究会会員には、2年間にわたる献身的な活動と本報告書のとりまとめに至るまでの労苦に対し、心からのねぎらいの言葉を贈りたい。」と記した。ここまでこぎ着けた多くの技術士仲間にとただ頭が下がる思いであった。

防災研究会の会長という肩書きのために苦労もあった。平成8年10月に釧路で開催された「地方公共団体職員と技術士との合同セミナー」は「地震に強い「まち」づくり」がテーマ。パネルディスカッションが計画され、防災研究会の会長なのだからということで私がコーディネーターに指名。されど地震防災だのまちづくりだの、ほとんど素人。立ち往生寸前でパネリストの斉藤和夫さん、加治屋安彦さん、木村和之さんから技術士仲間に使われた。平成12年9月には第3回北東3支部技術士交流研修会が札幌で開催。テーマは「積雪寒冷地の危機管理」で、防災研究会の会長なのだからということで特別講演を任された。積雪寒冷地の危機管理って何だ。さっぱり分からない。だけど任されたものは仕方がない。勉強した。本を読み、ネット検索し、笑いも入れて講演原稿を書き上げた。人間、為せばなる、である。

平成7年10月に第22回技術士全国大会が札幌で開催され、急遽「阪神大震災から学ぶこと」という特別分科会が設けられた。その裏方を務めたが、その場で交わされた多くの意見は防災研究会のその後の活動に大いに参考となった。平成8年2月に豊浜トンネルにて岩盤崩落があり、20名の尊い命が失われるという不幸な事故が発生した。その年5月に防災研究会が1周年を迎えるにあたり「斜面防災と予知」というテーマで特別シンポジウムを開催。防災研究会副会長の大島紀房さんにすべて仕切って頂いた。

防災研究会の会長は平成13年度の第IV期から高宮則夫さんにバトンタッチ。研究会の活動はますます活発となり、「全国防災連絡会議」を設けて全国各支部と防災ネットワークを構築するなど、その活躍ぶりはまさに賞賛に値する。手元に防災委員会の歴代メンバー一覧表があるが、順次代替わりしながらも熱い志を持った技術士の方々の想いが連綿と続いている様子が見て取れる。同時に早世した大橋猛さんや加治屋安彦さん、ニッ川健二さんらの思い出も浮かび、一抹の侘しさを感じたりもする。

阪神淡路大震災は凄まじい被害をもたらした。これほどの大地震はもうしばらくは発生しまいと誰もが思っていた。それが平成23年3月11日、想像を遙かに超える大地震が東北地方を襲った。人間がいかにかちっぽけなものであるかを改めて知らされる。自然を力づくで支配しようとするのは傲慢なのだ。自然に対し畏怖の念を持ち、自然と共生する心構え、それが大事なのだとつくづく思う。これから先も人知を越える災害が発生することだろう。防災委員会は技術士の英知を集め、国民の安全・安心を確保するため、防災・減災の情報を発信し続けることが求められる。防災委員会の今後ますますの活躍を祈念する次第である。

第2代 防災委員会委員長 高宮 則夫



防災委員会設立20周年に心からお祝い申し上げます。

防災研究会が、20年を経て今では日本技術士会の中で絶対的な実績と知名度をもつ「防災委員会」に成長されたことは、北海道本部の支援とともに防災委員会皆様の努力の賜物と思います。

私は、能登繁幸初代会長からご指名を頂いて平成13年4月から2代目会長職を引き継ぎました。以来、約13年間の長きに渡って防災研究会から防災委員会の委員長を力不足でしたが努めさせていただきました。その間、幹事長の富澤光一さん、城戸寛さん、林宏親さん、そして現在の小林正明さんには、会の運営・とりまとめにご尽力いただき、また、部会長そして多くの会員の方々にも支えられて無事委員長職を全うすることが出来ました。この紙面を借りて、改めて御礼申し上げます。

記念誌の編集にあたり、20年間の活動の思い出を幾つか振り返ってみたいと思います。

1つは、平成13年に引き継いだ防災研究会を今後どのように進めていくかでした。

これまでの阪神・淡路大震災による「地震災害」という大きなテーマに区切りをつけて、地震に限らず「都市型の自然災害」を新たなテーマに舵を切りました。私が札幌市の職員であったこともあり、札幌をターゲットにして都市の脆弱性を発見し、それに対する防災対策等について調査・研究を開始しました。約4年間の研究成果を2回に分けて「いま、都市が危ない」として、平成17、19年の第V、VI期防災研究会活動報告書にまとめました。このテーマには各研究部会が一丸となって取組み、大変な作業・苦労によって出来たものです。これらの成果は、現在、国や北海道・札幌市が防災政策として取り組んでいる「国土強靱化地域計画」の先駆けであると自負できるものです。

2つ目は、平成13年からの防災セミナーの開催でした。

技術士の21分野に「防災」という分野はなく、当時の工学系にも「防災」を専門とした学科はありませんでした。会員は、工学・理学系の技術士の集まりであり、防災の研究活動をする上で自分の専門領域を超えた防災に関する知識・情報が極めて必要となっていました。このような状況から、幅広く防災に係る専門知識や知見を得る機会となる「防災セミナー」を開催することとしました。平成13年11月に第1回の「実証検証に基づく戦略的リスクマネジメントの実践方法」を開催してから、昨年8月に第27回目の防災セミナー「防災の基礎は地形を知ること」を開催しました。継続は力、開催の裏方は大変ですが、30回、50回へと繋げて下さい。

講演者には、防災だけに関わらず多方面で活躍している方々にお願ひし、有意義なセミナーを開催してきました。このセミナーで、色々な分野の講師の方達と知り合うことができ、私にとっては、大きな財産となっています。講演者の一人である群馬大学教授の片田敏孝先生は、東日本大震災における「釜石の奇跡」につながった実績から、今では、防災教育の第一人者として活躍しています。講演していただいた先生方をテレビで拝見するととても懐かしく思います。

セミナーの開催は、各研究部会の持ち回りで行っており、各部会のアイディアだいで色々趣向を凝らしています。さらに、セミナー後の「情報交換会（ほとんど飲み会）」には、委員会メンバー外からの参加もあって、いつも盛況で楽しい情報交換会となっています。若き技術士にはセミナーへの参加とともに、ぜひ情報交換会にも参加して、普段の仕事上では話もできない大先輩技術士と名刺を交換し議論を交わして人脈を作って欲しいと思います。

3つ目は、第31回全国大会における「全国防災連絡会議」の誕生です。

平成16年9月、第31回全国大会では、防災委員会が第4分科会（「都市防災」をテーマ）を担当しました。基調講演には、超多忙の人と防災未来センター長の河田恵昭先生をお招きしました。阪神・淡路大震

災を経験して、今後の防災のあり方の講演には、その内容の深さと講演の力強さに感銘しました。第2部は、都市防災に係るパネルディスカッションでした。北大の岡田成幸先生、技術士会から山口豊様、山田俊満様に登壇していただき、論点があちらこちらに飛びつつも何とか目的地に着地できました。当日の、幾つかの分科会の中では、講演者の著名さとテーマが受けたのか、最も多い参加者を頂き大変盛り上がりしました。

そして第4分科会の「札幌宣言」で、今後予想される大震災に備えて全国の支部が防災に関する情報の共有の場となる「全国防災連絡会議」を提案しました。翌年、札幌で第1回目の全国防災連絡会議が開催され、以後、毎年全国大会で開かれ、昨年、第10回目が富山で開催されました。まさに、札幌発の「全国防災連絡会議」が全国を巡っています。

4つ目は、東日本大震災を教訓とした「北海道の防災～教訓と提言～」です。

震災直後に、東日本大震災に係る本部役員会議が開かれいろいろ議論の末、東北への支援等については現実的に無理であることを確認し、北海道としては、東日本大震災から得られた様々な教訓をもとに、新たな北海道の防災についての「提言書」まとめることとしました。平成9年の「地震災害に備えて」に次いでの大仕事となり、作業の中心は防災委員会が担うこととして、本部内にプロジェクト実行委員会が作られました。

しかし、現実の作業に入ると、教訓となるものが余りにも多く提言書の構成には大変苦労しました。2万人近い犠牲者からの教訓の一つに、「防災とは、人の命を守ること」であったといえます。この教訓が、今回の提言書の柱になっていると思います。

平成25年9月に、「『北海道の防災』～教訓と提言～」が発刊されました。また、市民向けの提言として「よく知り、よく備え、正しく恐れよう！」としております。この提言はとてもシンプルで分かりやすく、今後の防災教育のテーマになるものと思います。この提言書は、防災セミナー等の際に配布し市民の防災に対する意識向上に貢献していくものと期待しています。この大仕事を成し遂げた、プロジェクト実行委員会の全員に敬意を表したいと思います。

最後に、長々と思い出を振り返ってみました。防災委員会が20年間継続してきたのは、やはり、会員の結束力とコミュニケーションの良さだと思います。

今後も、浅野基樹委員長のもとに日本技術士会をリードする防災委員会であることを祈念しております。

初代 防災研究会副会長 大島 紀房



“発足前夜の物語”

－北海道南西沖地震と阪神大震災の役割－

研究会発足の引き金はもちろん阪神大震災。でも前段は釧路沖、北海道南西沖地震での旧北海道技術士センター（以後センターと呼称）会員の活動が光る。

平成5年1月に釧路沖地震（M=7.8）の直後に財団法人北海道道路管理技術センターの中に産・学・官による道路管理技術委員会が結成された。この委員会で、産（民）のメンバーは私などセンターの会員で構成され、防災研究会初代会長の能登現本部長も官側のメンバーであった。7月12日に北海道南西沖地震（M=7.8）が発生した。釧路沖、南西沖とも昭和58年5月に発生した日本海中部地震のM=7.7を上回る巨大地震であり、特に南西沖地震の場合、震源に近い奥尻島や対岸の日本海沿岸地域では、死者・行方不明200人を超えるという甚大な被害が発生した。南西沖地震の際には地震調査班を結成し、災害情報の収集や復旧に努めた。この時には技術士仲間の協力も大いに役立った。刀掛覆道およびトンネル直上の大規模不安定岩塊（25m×8m×10m）の転倒除去（写真-1）はその一つである。

平成7年1月には阪神大震災が発生した。この折にも道路管理技術委員会は現地調査に向かい精力的に被災状況調査に当たった。もちろん技術士センターの会員も走り回った。

－防災研究会の誕生!!－

北海道での大地震、阪神での大地震。これに奮闘するセンターの会員!! 今こそセンターの中にも“防災活動組織”を創るべき! 技術士なら誰もが思った一瞬である。

皆さんにはご承知と思われるが、センターは有資格者全員が活躍できる組織である。技術士会支部に創るか、センターに創るか議論があったところではあるが、当時の佐々木支部長（故人）、館谷センター会長、青木事務局長（故人）、斎藤事務局長のお力添えを得て5月にセンター内に発足した。初代会長には上述の道路管理技術委員会で私と共に委員をしていた能登さんが最適と判断し、私から要請し快く承諾していただいた。この時の特別講演は「北海道南西沖地震」（今は亡き当時の函館開発建設部の次長で現場の采配を振るった大橋猛氏）、「阪神大震災」などであった。そして情報、地盤、交通、都市、水工の5つの部会が発足し、この時の活動成果「技術士からの提言－地震災害に備えて－」は技術士会本部の「防災委員会」、東日本大地震では各地の技術仲間から引っ張りだこであった。今でも素晴らしい成果と自負している。

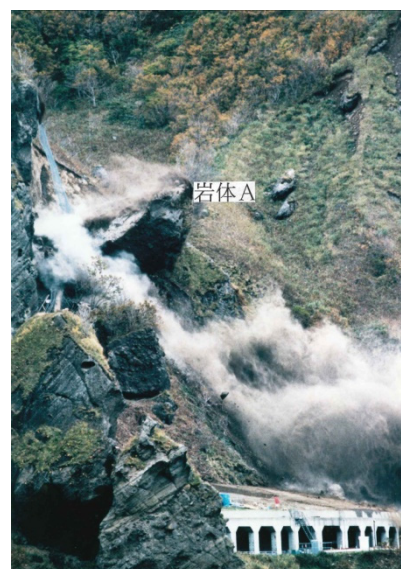


写真-1
不安定巨大岩体の転倒発破の瞬間

－発足直後の活動－

また、同年10月には北海道技術士センター30周年記念に当たり、高速道路と高架橋の倒壊で知られるサンフランシスコ地震（ロマプリータ地震1989年、M=7.1）、都市型ライフラインの被害のロスアンゼルス地震（1994年、M=6.7）の被災地であった「米国西海岸海外研修」を企画し、団長の私、当時の研究

会幹部を含め総勢 24（一般含む）名の精鋭部隊での（本当に真面目な？）研修でした。現地名案内役の野口氏には今でも感謝している。



写真-2 研修団の一行 ロスアンゼルスの高架橋工事現場、背後はロスのダウンタウン

また阪神大震災の後に設けられた札幌市の産・学・官による「地震対策土木技術委員会」においては、「技術的な提言」を行う立場として日本技術士会の支部長の立場で私が、防災研究会幹事長の立場で松井義孝氏が委員を務め、ライフライン、地盤、構造物のWGに分かれて緊急輸送路の地震対策の検討を行ってきた。皆、真剣に向き合い充実した委員会であった（現在は解散）。

活発な行動から 20 年、若い技術士も増え、これからの更なる活躍が楽しみです。

初代 防災研究会幹事長 松井 義孝

～私の防災技術は、阪神・淡路大震災に始まり

防災仲間によって育てられた～



防災委員会 20 周年記念誌の発刊に対しお喜びを申し上げます。思い起こしますと、1995 年 1 月 17 日阪神淡路大震災が発生し、それは未曾有の大震災でした。私は、その 4 日後の 21 日に現場に立ち、そのすさまじさを実感しました。その現地調査の後札幌に戻り報告発表会を行い、この多くの教訓は、北海道におき替え災害を最小限に食い止める提言組織として北海道技術士センターの中に「防災研究会」を発足するに至りました。発足当時の中心メンバーは、大島紀房技術士、故大橋猛技術士が旗頭になり、能登繁幸技術士を会長、私が初代幹事長として研究会が始まりました。その活動は、5 つの部会を成し総勢約 100 名の技術士が結集し、すさまじいほどの脈動感を感じる研究会の始まりでした。被災後 3～4 か月後になると多くの仲間らが神戸に支援という形でも行かれておりました。その結果、皆の知見を集め提言集を出そうということになり、約 2 年後の 1997 年 5 月 28 日に「技術士からの提言 地震災害に備えて」と「地震災害に備えて 技術士からの 27 の提言」を取りまとめました。当時は、各部会では毎月集まり「ケンケンガクガク」と、多くの討論・論議と宴席が催されたものでした。本編集を一次集計しますと 450 ページにもふくれあがり、それを 250 ページにまとめ直しましたが、これでも読まれる方は、大変だろうということになり、当時広報委員であった私と故加治屋安彦技術士の二人で、もう少しコンパクトにしようということになり 30 ページ程度の「技術士からの 27 の提言」をカラー刷りで作成しました。これらは、あっという間に売り切れ、増刷の運びとなりました。

その後、私は防災研究会副会長となり、同時に日本技術士会東京本部の現在防災支援委員会に関わり、これも今から数年前に副委員長で終えました。研究会設立当時、全国の技術士会の防災活動は、北海道支部防災研究会が突出しており、まず全国各支部に防災研究会を組織化しようということになり、最終的には 7 年位かかりました。その結果、技術士全国大会の前日には必ず「全国防災連絡会議」が開催され、かつ分科会に「防災」が持たれるようになりました。その全国防災連絡会議が一巡するまでは、私が各支部委員の指導的なお手伝いをするようになり、ここでも多くの防災仲間にも恵まれ、私の防災知識を大きく育てていただきました。



写真 1. 神戸市ピルツ橋の崩落



写真 2. 新潟県西倉道路の岩盤崩壊

さらに、本部防災活動として「2004年新潟県中越地震」に日本技術士会として派遣されたこと、同時に「減災と技術 災害の教訓を活かす」の書籍発刊に携わったことです。新潟県中越地震は、農山村地域を襲った直下型地震であり、神戸とはまた異なった命題があり、川口町の斜面崩壊、宅地崩壊、発電所の被害、土砂ダムなどが山間地域の特徴的な課題でした。しかし、そこでは阪神淡路大震災の教訓が活かされオープンスペースの活用、広域連携や新たな防災コミュニティの形成などが徐々に出来上がっていました。

最後に、2008年5月12日中国四川省大地震に中国政府国家外国専門家局の招聘で四川省政府、重慶大学、四川大学、西南交通大学、長安大学及び北京化工大学らとの調査

と意見交換を行なってきました。その被害には、日干し煉瓦住宅による被災死者が多いこと、社会主義国は復旧対応に強いこと、日本とは異なる中国の復興概念は新たなまちづくりを志向することなどは、インパクトの強いものでした。その被災1年後には、「復興記念シンポジウム」に講演依頼をうけ、「日本の技術士が見た中国汶川地震と減災への提案」を発表してきました。最近の東日本大震災は、私などがお話するほどではありませんので省略します。このように多くの仲間によって私の防災・減災技術を培わせていただきました。その口切りには、「防災研究会の発足」であり、多くの北海道の防災仲間との出会いにより育てられたことに感謝申し上げます。



写真 3. 中国四川省北川県の斜面崩壊

以 上

第2代 防災研究会幹事長 富澤 幸一



高宮前防災研究会会長の下で、約4年間第2代目の幹事長と約2年間第4代目の副会長を務めさせて頂きました。

定期研究会では、層々たるメンバーの各部会長の意見交換の進行と集約にいつも冷や汗をかいていた記憶があります。冊子の発刊にも微力ながら携わりましたが、近年の大規模地震や異常気象発生など、防災・減災テーマ研究の必要性を今更ながらに噛みしめています。

幹事長は、総会時の基調講演の防災専門家講師を選定するのも一つの役割でしたが、研究会の承諾は必要ですが比較的自由に決めさせて頂いた印象があります。

一度、当時の松井副会長と二人で札幌市石山通にある陸上自衛隊札幌駐屯地に、災害対応の基調講義をお願いしに行ったことがあります。正門で迷彩服を着た隊員に要件を告げるとその後ろには銃を肩にかけた別の隊員もいて、彼らに連行されるように迷路を歩かされて奥の建物の幹部室に案内され、ひどく緊張した思い出があります。基調講演の講師も迷彩服で出向かえ、その幹部室には非常に大きな日本国旗が掲げてあり、お茶を運んでくれた方も非常にごつい男性隊員であったことを鮮明に覚えています。

余談ですが、時の経つのは早いもので、浅野防災委員会委員長、高宮前防災研究会会長と同じく、現在その陸上自衛隊駐屯地の向かいにある北海学園大学工学部で非常勤講師を務めておりますが、今でも大学に行くたびに当時のことを思い出して自衛隊の建物の方に目が向くことがあります。

現在、防災は市民生活を守るための非常に重要な国策となっています。技術士の一人として、日本技術士会北海道本部防災委員会の益々の発展を切に願う次第です。

第3代 防災委員会幹事長 城戸 寛



はじめに - 二十年間の活動を振り返る -

1994（平成6）年12月7日、国立オリンピック記念青少年総合センター。足掛け5年、3度目の受験で、ようやく辿り着いた技術士口頭試験会場にいた。建設部門の道路、道路計画分野の質問が20分程で終了、感触は良かった。年末年始はとても心地良く過ごせたように記憶している。

松の内も明けた、1995（平成7）年1月17日火曜日、午前5時47分。淡路島北部沖の北緯34度36分、東経135度02分、深さ16キロメートルを震源としたマグニチュード7.3の兵庫県南部地震が発生。死者6,434名、行方不明者3名、未曾有の災害は、その後「阪神・淡路大震災」と呼称されることになる。

衝撃だったのは、神戸市内の阪神高速3号神戸線のピルツ形式の橋脚が、上部工もろとも600mに亘り、橋軸直角方向に倒壊した映像がテレビに流れた時だった。ちょうど一年前に発生した米国カリフォルニアのノースリッジ地震の折、やはり高速道路が崩壊するなど土木構造物が甚大な被害を受けていたが、わが国ではこうした事態にはならないだろうと、実は多くの日本の技術者は高を括っていたと思う。私もその一人だった。

2週間後の2月3日、技術士の合格通知が届いた。3月3日には登録が叶い、早速、「北海道技術士センター」に入会した。新年度から防災研究会を立ち上げるので、地方公務員である私にも参加しないかという勧誘があり、二つ返事で加入させていただいた。こうして大震災と資格取得を契機とした二十年間の活動がスタート、公務員として、技術者として大きな転換点となった。

「技術士からの提言」発刊に参加して

研究会は、もちろん交通系部会に所属。1年目の活動は、大震災に関する業後の勉強会や意見交換を二か月に1回程度、職務上では得られない貴重な情報や知見を吸収させていただいた。2年目は成果を提案書に取りまとめることになり、後半は「防災を前提とした札幌都市圏の総合交通ネットワークのあり方」の執筆活動に専心。打って変わって、多忙な年末年始だった。

1997（平成9）年5月、技術士からの提言「地震災害に備えて」とダイジェスト版「技術士からの27の提言」が発行された。自らも執筆に参加した原稿が印刷製本され、手元に届いたときは感無量で、この経験がこれまでの活動の礎となっている。その後、公務が多忙を極め、研究会のほうは、セミナーや勉強会に時折参加する程度の期間がしばらく続いた。

「技術士全国大会」開催に参加して

2004（平成16）年9月、「第31回技術士全国大会」が札幌で開催された。前年から事務局にて活動を再開しており、9年ぶり4回目の大会に深く関わる機会を得た。

第4分科会「都市防災」は防災研究会に企画運営が任され、基調講演には、当時、阪神淡路大震災記念人と防災未来センター長を兼任されていた河田恵昭京都大学教授をお招きした。パネルディスカッションで、司会者として一緒に登壇している写真は、大切な記念の一枚となった。

二日目のテクニカルツアーは、札幌ドームやモエレ沼公園など市有施設中心の視察ということもあり企画段階から参加。当日は案内役として、全国からの大先輩の方々と終日交流、様々な分野の幅広い見識に触れ、技術士資格を再認識する貴重な経験をさせていただいた。

「社会貢献 - 技術士は何ができるか、何をすべきか - 」

この大会テーマこそが、その後の活動の道標となり、現在までの展開に繋がっている。この年の12月4日、十年ぶりに口頭試験を受けた。翌年、総合技術監理部門での登録、4月からは、大会参加が誘因となり「日本技術士会」に正式入会。技術者としての新たな転換点となった。

おわりに - ミッションからライフワークへ -

2007（平成19）年11月、企画開催した防災セミナー「都市型災害に備えて - 今後の災害情報と防災教育を考える - 」は、現在に繋がる更なる転換点となった。群馬大学の片田敏孝教授に講演を依頼、パネルディスカッションの進行をご一緒頂いた。この時、片田教授が熱心に説かれた防災教育が、その後、非常に大きくクローズアップされることになる。

2011（平成23）年3月11日、「東日本大震災」である。

このセミナーを契機に、2009（平成21）年4月、防災教育ワーキンググループを立ち上げさせていただき、市民向け防災セミナーでの講演活動がスタートした。地域の防災力を向上させる自助、公助の視点から、分かり易さに配慮した情報発信を心掛けている。活動2年目に東日本大震災が発生したこともあり、この7年間で30回を超える講演依頼があり、1,600人におよぶ市民の皆様に参加をいただき、毎回、大変熱心に聴講をいただいている。

地道な社会貢献活動ではあるが、私はもちろんメンバー（現在9名）自体の満足度も高く、技術士として有意義な経験を積むことができていると思う。この活動、大切に取り組んでいくことにしている。ライフワークとして、シビルというよりは、シニアエンジニアとして。

防災委員会20周年記念誌への寄稿に際して、この二十年間の活動をあらためて振り返ることができた。提言執筆というミッションから防災教育というライフワークへ、そして、2016（平成28）年4月からは、次の転換点に向けて、*Re*スタートを切りたいと考えている。

第4代 防災委員会幹事長 林 宏親



「防災研究会に入って勉強せよ！」

平成8年の春、初代会長の能登繁幸さんに、こう声を掛けて頂いたのが、防災研究会に仲間入りしたきっかけです。能登さんは、新人の時の直属の上司として、仕事や技術士受験を常に温かく指導してくれた方ですので、ふたつ返事で入会を決めました。ちょうど「技術士からの提言」の執筆がピークの時期で、防災研究会全体が技術士の社会貢献のため、一直線に突き進んでいたのをよく覚えています。

「富澤幹事長を手伝うように！」

またもや能登さんからのお願い（命令？）でした。平成13年、高宮則夫委員長・松井義孝副委員長の新体制となり、職場の先輩である富澤幸一さんが幹事長になった時に、私が副幹事長になったいきさつです。この後、副幹事長を8年と幹事長を2年ちょっと務めました。

この間は、各部会が研究・議論してきた成果の社会へ発信を大いに実践した時期だったと思います。この年に始まった「防災セミナー」の開催、平成16年の「技術士全国大会」と翌年の「全国防災連絡協議会」の運営、「防災・減災カード」や「委員会報告書」の作成、「防災教育セミナー」の開催などなど、実にアクティブな活動でした。私自身は、富澤さんや次の幹事長の城戸寛さんのサポートをするくらいの貢献しかできませんでしたが、高宮委員長はじめ役員の方々の皆さん、部会長・幹事の皆さんの熱意を間近に感じることができ、本当に有意義な10年余を過ごさせて頂きました。

「スママセン。逃亡します。」

こんな感じで、平成23年8月に急きょ幹事長を降りることとなりました。当時、東日本大震災の対応に奔走していた土木研究所（つくば）の支援のため、つくば勤務を命ぜられたためです。その頃、防災委員会としても震災復興に貢献するべく、内部での議論や各機関との調整の真っ只中でしたので、まさに「逃亡」の体だったと思います。

大変有り難いことに、副幹事長だった小林正明さん（現幹事長）、新たに幹事をお願いした大浦宏照さん（現副幹事長）には、快く年度途中での交代を引き受けて頂きました。記憶では、簡単な打合せを一度しただけで、「後は、資料を読んでください。」といった乱暴な引継ぎだったと思います。理由はともあれ、まさに逃亡のような交代だったわけで、幹事のお二人だけでなく委員会全体にも随分とご迷惑をお掛けしたと、今でも心苦しく思っています。遅ればせながら、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

以上、つくばから戻った以降、取り立てて活動をしていない不良会員の思い出でした。

Ⅲ. 各部会・WGの思い出

初代 地盤部会会長 高橋 輝明



防災研究会（旧称）が発足したのは平成7年5月29日であるが、その背景には北海道内の3度の相次ぐ地震、阪神淡路大震災による被災があった。研究会が全国本部に先駆けて発足したのも、僅か1年10ヵ月余りの間に3度の甚大な被害を受けたのであるから当然の成り行きでもあったと言える。”防災”の観点からは被災経験から様々な教訓を学ぶことが重要であり、その学習の成果が様々な対策に反映され、被災軽減に寄与し、災害に対する耐性を強化してきた。しかし、それでも自然災害による被害は解消せず、人間社会の脆弱性がその都度暴き出される。道内被災の3地震はそれぞれに重要な教訓を与えてくれた。被災環境が現在の都市環境に近い状況になった戦後復興期以降、平成5年1月15日の釧路沖地震は寒冷期の地震被害として新たな経験といえよう。また、道路盛土・造成盛土等の人工地盤崩壊による被害は甚大であった。平成5年7月12日の北海道南西沖地震は、奥尻本島および日本海沿岸を襲った津波により甚大な被害を生じた。また、急斜面の崩壊、盛土崩壊、液状化等の地盤災害による被害の多発も特徴的であった。平成6年北海道東方沖地震は釧路沖地震を上回る規模の、1968年十勝沖地震のM8.2以来のM8代の巨大地震で北方四島に大津波が来襲した。また、釧路沖地震後の地震対策の耐震性を検証できた事例でもあった。これらの北海道近傍での地震被害対応を終える間もなく、平成7年1月17日兵庫県南部地震が発生した。大都市、大工業地帯を寸断した活断層の出現を伴う都市直下型地震は昭和19年の昭和東南海地震以来半世紀振り、戦後最大規模の被害を出した。被害は活断層沿いの震度7の狭い範囲に集中したが、冬季の早朝に発生したため自宅で就寝中の方が多く、6,400人を超える圧死者を出した。また、研究会発足当時を振り返る場合、忘れられないのは平成7年5月27日のサハリン北部地震である。1983年日本海中部地震・1993年北海道南西沖地震とともにサハリン-日本海東縁変動帯として日本列島の日本海側を南北に連なるひずみ集中帯に位置づけられる地震である。サハリン北部地震はサハリン北部のオハ油田の南に位置する油田採掘者の住む町ネフチェゴルスクの近郊を北限として南南西に約35Kmにわたって活断層を出現させた。私事であるが、兵庫県南部地震の4日後、野島断層を視察する機会を得た後、程なくネフチェゴルスクを視察する機会に恵まれ、地表に出現した活断層とこれに沿う被害の実態を相次いで目にする貴重な体験を得た。

前置きが長くなったが、このような短期間に相次いだ地震被害への対応に、まだ部会各位が慌ただしさを抱えながら、研究会としての最初の活動は地震災害に対する取り組みであり、防災講演会の開催および『技術士からの提言 地震災害に備えて』の編纂作業であった。本書の表題にあるように、前期の相次ぐ地震被害を背景に地盤系部会の編纂内容は、”地震による地盤災害の予防をめざして”、地震災害の概況およびハザードマップ整備、地震地盤災害予測評価システム、地盤災害の予防対策の各項目に関する現状、課題と提案をとりまとめた。さらにこれを本編として、ダイジェスト版『技術士からの27の提言』を刊行し、これをもとに各地での防災講演会を実施した。北海道における3大地震の発生による各自治体の防災行政見直しの動向や一般市民の防災意識の変化に対し、これらの活動は各自治体の防災対応、防災まちづくり等に大きな影響を与えることができたと感じている。この第Ⅰ期から第Ⅲ期（平成7年～平成12年）の活動の後、この間の成果を踏まえ、平成13年～平成14年の第Ⅳ期には都市型防災をテーマとして講演会やアンケート調査を実施した。この成果は同名の活動報告書として平成15年に刊行された。

これらの活動期間中にも全国的な災害対応に関する見直し、改善がなされたが、もっとも重要なのは“減災”の考え方であろうと思う。そのためのソフト対策の重要性、自助-共助-公助といったそれぞれの立場のあり方の再認識、避難行動、ボランティア活動等、防災対応の枠組みは格段に広い視点から見直されることになった。同時に、災害予防の観点から地震-津波に関する自然科学的基礎研究および観測技術等も研究会発足当時に比べて、著しい進展をみせた。

1983年日本海中部地震を契機に提唱された日本海東縁変動帯は、その後に発生した北海道南西沖地震や兵庫県南部地震さらにサハリン北部地震の発生によって、日本海東縁変動帯～新潟-神戸構造体、サハリン-日本海東縁変動帯等として日本列島西縁の地殻構造や地震-津波発生機構の解明に研究の力が注がれている。また、東北地方太平洋沖地震の発生によって太平洋側の沈み込み帯における地震-津波発生機構にもさらなる研究の目が向けられている。また、全国的なGPS観測網の整備による観測体制の充実、衛星からの観測技術の進展などにより、防災研究会活動の20年を含むこの約30数年の防災基礎研究の進展は実に目まぐるしい。これらの成果を踏まえながら新たな防災委員会としての今後の展開の場が多いに拓かれていると思われる。

私が地盤系部会に在籍した平成7年～16年の10年間は、目まぐるしく進展する防災対応の時間経過の一瞬に過ぎないが、当時から今に至る間で思う以下の感慨は重く受け止めている。

防災対策にとって、社会内の様々なレベルの縦割り構造は災害時の対応にとって障壁であり、災害情報の共有化が最重要な課題であると考えている。様々な専門分野の技術者を擁する防災研究会が連携して総合的に防災問題に取り組み、その成果を民間レベルから社会に発信し、大きな反響をあたえたことは、北海道の防災対応にとって歴史的にも非常に画期的であったと思う。

第2代 地盤部会会長 北 健治



部会活動については、報告書・提言書等のとりまとめや防災セミナーの企画運営に部会員が協力して対応し成果を残してきた事が強く印象に残っている。

また、数ヶ月に1回程度の頻度で開催される通常の部会では、1～数名の方から話題提供して頂き自由に議論、終了後は必ず情報交換会（飲み会）を実施するのが通例となっており、防災に関する話はもちろん、それ以外の分野に関わる極めて興味深い話・部会員の方々の経験談や考え方を聞くことができる貴重な場であった。

防災研究会・防災委員会活動の過程で、自分としては「防災の主役は住民・市民」という意識が常にあり、これに対応した取り組みを模索していた。

7年程前から、居住する地域の町内会活動に関わるようになり、本研究会・委員会で得た知見等を防災関連行事（町内防災訓練・研修）で生かしたいとの思いで試行錯誤を続けてきた。

3年前に無職となり、以降は一住民・市民として町内会活動に関与している。

ここでは上記活動の例として、平成27年9月27日（日）に実施した南麻生町内会第16回防災訓練・研修の内容について、防災部長としての各種対応や当日の状況等について紹介したい。

なお、会場は麻生地区会館、参加者は約30名（子供数名を含む）であった。

①AEDの取扱いを含む救急救命処置の体験講習（9：00～10：00）

北消防署と北区消防団の6名の方々の指導で、2セットのダミー人形・AEDを使って参加者が順次、人工呼吸・心臓マッサージ（胸骨圧迫）・AEDによる電気ショック等の「救命導入講習」を体験・受講した。最近「ためらう事なくAEDを使う」事の重要性が指摘されており、また、本町内や周辺にAED設置施設は約10箇所あるため受講の意義は大きいと考えている。

②防災クイズに挑戦（10：15～11：00）

6月に受講した北大地震火山研究観測センター主催の平成27年度公開講座「北海道の地震と防災」では、閉講式の際、講義内容の理解度を確認する目的で「振り返りクイズ」が実施された。

また、道危機対策課による防災教育HPでも中高生向けに「防災クイズ」が掲載されている。

これらがヒントとなり、クイズにより様々な角度から防災に関する理解を深めるのも有意義と考え、20の設問（短文）を作成しそれらの正否を○×で回答してもらった。

回答後、正答とその理由の説明を行い、自己採点とその評価（私の独断）も実施した。

なお、最初の3問は緊急地震速報関連とし、正答説明の際「NHKのチャイム音・アナウンス」を流した。伊福部達さんによるこの音で、会場は独特の緊迫感に包まれるようである。

久しぶりの「試験」に参加者はやや緊張気味であったが、昼食・懇親会の際に聞いた感想は概ね好評であった。

③防災DVDの視聴（11：10～11：50）

札幌市危機管理対策室による「札幌市防災DVD 今、あなたにできること。」については平成23年の第12回防災訓練・研修で視聴した。札幌市消防局による「防災教室 生と死のボーダーライン」は中学生向

けとされているが、東日本大震災の教訓を含みストーリー仕立てで一般市民にとっても興味深い内容であることから、平成 26 年の第 15 回防災訓練・研修で視聴した。

道危機対策課により平成 26 年に作成された「ほっかいどうの防災教育 DVD（知識編/実践編）」は、防災について体系的に学ぶ事ができる内容で、前述の防災教育 HP からダウンロード・DVD 化が可能である事から今回の訓練・研修では知識編（約 40 分）を視聴した。

④非常用備蓄食（アルファ米）の調理・試食（昼食時）

当初、北区役所が管理する備蓄食の内、保存期限が近づいた物を無償提供してもらう予定であった。クラッカー（調理不要）については参加人数分の提供を受けたものの、アルファ米は他のイベント等で使われたため在庫がなく、市販品（1 食当たり 300 円程度）を購入した。

昼食の直前に配布、地区会館の給湯室でお湯を注入後約 15 分で食べ頃になる、との想定であったが実際に「調理・試食」したのは数名のみでほとんどの参加者が「持ち帰り」となった。

懇親会でも軽食・オードブル・アルコール類を含む飲み物が出されたためと考えられる。

過去の防災訓練・研修の際も、必ず「共助」の前提となる地域の人間関係円滑化を図る意味で昼食と反省会を兼ねた懇親会を実施しており、今回もかなりの盛り上がり方であった。

以上、「部会活動の思い出」とは懸け離れた内容になってしまったがお許し願いたい。

防災委員会の今後の発展を祈念致します。

初代 交通部会会長 花田 眞吉



20年前の[知と汗]の活動をした交通系部会を顧みて

1. はじめに

1995年1月17日早朝のテレビで映し出された映像のショックは20年たった今でも鮮明に記憶している。阪神淡路大震災での黒煙を立ち上げて燃えさかるまち、倒壊した建物など映し出されていたが、専門柄一番のショックはピルツ形式の高架橋が約600mにわたって真横に崩壊転倒している映像であった。

地震発生後約2週間後に北海道開発局道路管理技術委員会の現地視察団に参加し、道路等土木構造物を中心に現地で2日間、インフラの崩壊状況を自分の目で見て肌で感じる事が出来た事は、以後の自分の土木構造物設計に対する心構えを大きく変えることになった。インフラの機能がまひした時に如何に都市機能がまひし、市民生活に考えられない程の不便を与え経済活動にも多大な支障を与えることか、を肌感じて戻ってきた次第であった。

調査は佐藤浩一教授(北大)を団長とし地震・地盤班、橋梁構造物班、道路・地下鉄班に分かれ行った。ホテルはどうか京都に確保し、1日目は陸路の交通手段が分からず大坂から神戸へはフェリーで渡った。神戸市の被災現場では、とりわけ橋脚の被害が大きく、RC橋脚の脚部での曲げせん断破壊による圧壊・倒壊や落橋には圧倒され、M7.2の直下型地震のすさまじい破壊力には頭をぶん殴られる程の衝撃であった。

札幌に戻り直ちに阪神大震災(兵庫県南部地震)被災状況調査写真集の編集に入る。構造物・道路関係の膨大な資料をどの様に編集するかを齊藤紘氏(故人)、木村和之氏(共に構研E)、榊哲雄氏(長大)の4人で議論し、1週間2回程度半日掛け一ヶ月以上掛けて構研の会議室を借りて行った。また同時に札幌市、ドーコン社内での講演会を行ったが、丁度その頃に防災研究会立ち上げと交通系部会長就任の話を大島紀房氏(構研E)から頂き千載一遇の機会と思い引き受ける事にした。総会、総合幹事会を経て第1回交通系部会が5月末に開かれ20数名の参加で活動を開始した。幹事には被災状況調査の経験があり写真集の編集を一緒に行った木村氏(構研E)にお願いした。

2. 交通系部会の活動について

2-1 阪神淡路大震災の知見を持ち込んだ活動方針の決定

「我々は何をすべきか、何が出来か」をキャッチフレーズに研究テーマの議論を開始した。阪神淡路大震災が神戸市という兵庫県の中心都市で起こった事、都市型直下型地震であった事を踏まえて、北海道の人口の約1/3が集中し経済の中心である札幌市とその周辺を含めた札幌圏を対象とした広域交通ネットワークが抱える課題の研究と対応の為の提言を行う事とした。

当初は月1回ペースの議論を進めながら、阪神淡路大震災では、地震直後からしばらくの間、阪神間の道路交通に大渋滞を生じ、救援活動や緊急物資輸送に大きな障害になったと言う知見より、①札幌市「ポパイ計画」にある緊急輸送路の内、最も重要と思われる内環状線が地震直後でも当初の機能を発揮するための具体的提案を行う事と②市民の防災意識向上と公共交通機関の震災時運用システムに関するアンケートを行い、冬期間を含めた震災時の交通手段のあり方や公共交通機関の活用方法を研究する事とした。

また札幌圏の広域交通ネットワークの重要性を理解する為に、③札幌圏が持つ北海道全体の地域産業の雇用や経済活動に対する役割とそれを支える交通網整備の課題及び交通網寸断が北海道経済に与える影響について、④道路、鉄道、海運、空港を含めたリダンダンシーの高い総合的交通ネットワークのあり方を藤井勝氏(ドーコン)を中心に研究をすすめて、これらの議論を通じて今後の防災計画に反映されるべく提案を行う事とした。

2-2 「知と汗」にまみれた活動を顧みて

1) 内環状線を自転車で現地調査を行う

内環状線に対する提案が机上のものとならないように、個人の目を通し、建物も含めて何処にどのような危険が存在するか現地調査を行った。緊急調査時にはバイク、自転車が非常に有効であるとの提案があり、自転車の有効性の確認も含めて自転車で内環状を一周した。

調査は、橋梁の耐震性能や土留め工、狭隘部や片側1車線の道路構造、救援施設としての学校や広場、交通障害の可能性のある林立する電柱、高压電線の鉄塔、駐輪場等について現地で自転車を降り、確認を行いながら実施した。小雨がくすぶる中、自転車チームである藤原朗氏(日本交通技術)、中野泰宏氏(地崎)、大那博司(ドーコン)、木村和之氏、岩倉敦雄氏(共に構研E)によって行った。20年前の若さ故に走行出来たものであるが、今でも頭が下がる思いである。

2) 市民の防災意識向上と公共交通機関の震災時運用システムに関するアンケート

アンケートは防災研究会会員を対象に行った。質問は回答者の考え方、感じ方が震災から間がない事を考慮して細目での質問は止めて自由回答形式とした。回答は多岐に渡り且つ詳しく述べられており回答者が今回の震災を我が身と感じて回答していると言う事をヒシヒシと感じる内容であった。回答が多岐で詳細である為、取り纏める担当者の苦労は大変なもので岡田正之氏(ドーコン)、柴田登氏(飛鳥)を中心に試案作りだけで数回会合を開いた記憶がある。苦労を重ねてとりまとめた主な内容は

(1) 冬期の震災時交通確保に対しては、課題として雪害による交通障害が半数以上占めており、軽減対策として震災時の除排雪体制の整備は勿論のこと事前シミュレーションの実行や路上駐車に対する強制排除の免責方策の確立の提案が高い割合を占めていた。

(2) 地下鉄に対しては、地上交通の制約が著しい冬期においても確実な輸送能力があり、地震の被害が地上に比べ軽く、基幹交通として有効活用が期待できる事より、緊急輸送(物資、医療、災害緊急要員等)や24時間運行等による交通確保の提案や終点駅舎や主要結節点駅舎の多目的利用(避難施設、緊急物資置場、情報ステーション等)機能を持たせ、その為の改善対策の提案が高い割合を占めていた

(3) 地下鉄以外の公共交通機関の活用に対しては、飛行機・ヘリコプターによる緊急輸送(物資、医療、災害緊急要員等)が最も多く、鉄道、バスがそれに続いている。震災時の代替性の高い多重・多様な交通システムの構築の必要性が強く求められており、改善対策として札幌圏内の石狩湾新港と丘珠空港の機能強化について議論を行った。

(4) 以上の他に震災時のモラルある市民行動の為の提案や総合交通ネットワークのあり方に対する提案を行い、これらを全て含めて交通系部会として「技術士からの27の提言」に6提言を行った。

3. あとがき

近年、「大規模災害に伴う交通規制の実施及び緊急通行車両等事務取扱要領の制定について(平成24年12月18日)」の通達が出され緊急交通路上の車両の強制排除が可能となった事や札商が「丘珠空港を防災

拠点に」(2013年9月13日)と言う整備構想案をまとめるなど「技術士からの27の提言」の内容が実現に向かっている事は喜ばしいことである。また、今顧みて、20数名の技術士が職場を超えて議論し協力し合い、新たなネットワークを作ったことは「技術士からの提言～地震災害に備えて～」を出版できた事と同じくらいに皆様が貴重な財産を得たと感じている事と思います。紙上を借りて20年の経験を加えた交通系部会員皆さまのご健康とご健勝をお祈り申し上げます。

第2代 交通部会会長 桑田 雄平



<防災研究会都市系部会時代（H7～H12）>

平成7年1月17日の阪神・淡路大震災で神戸の実家が被災したため、当日午後札幌を立ち、伊丹空港経由で翌18日午前3時頃東灘区内の実家にたどり着きました。幸い両親は無事でしたが、発生から10数時間後の被災地の惨状を目の当たりにし、都市型災害の実態に驚くとともに、考えさせられることも多くありました。そんなことで防災研究会の都市部会に加えていただき「27の提言」のお手伝いをしたのがスタートです。災害の感覚も生々しく興奮状態が続いていた頃です。

<防災研究会交通系部会長（H13～H18）>

前交通系部会長のお誘いもあり、高宮会長のもとで交通系部会長をさせていただくことになりました。毎年「防災セミナー」が2回ほど各部会持ち回りで開催され、道内外から有識者をお迎えし、大いに知識を深めると共に活発な議論が展開されました。また、様々な有識者との人脈も広がりました。その間、交通系部会も年間数度開催し、部会の仲間と勉強し、親睦も深まりました。活動結果は年度末に必ずまとめ翌年の防災研究会総会で発表し、また、年間数度の幹事会に出席するなど大変でしたが充実した活動を続けさせていただきました。

平成16年には技術士全国大会が札幌で開催され「防災」が第4分科会として取り上げられ、翌年には技術士会における「第1回全国防災会議」が札幌で開催されるなど、北海道の防災研究会の活動が全国に波及し、その存在感を大いに高めた時期であったと思います。

<防災委員会副委員長兼交通部会長（H19～H20）>

その後、防災研究会は防災委員会に改組され委員会の副委員長と交通部会長を兼務でさらに2年間勤めさせていただきました。この間も各部会持ち回りの「防災セミナー」、防災委員会総会、幹事会、さらに交通部会活動は続いていきました。また、神戸の被災地の復興を地元の方の案内で見学する機会にも恵まれ、防災委員会に所属していたからこそ可能となった貴重な経験もさせていただきました。

この頃から、防災等に関する知識習得、勉強の積み重ねに加えて、その知識、技術をどのように社会に役立てていくか、災害時、平時にどのような活動をすべきかといった「技術士の社会貢献」の問題が議論となり始めましたが、なかなか難しい問題でもあり、試行錯誤が続いているところです。

いずれにしても技術士会の「防災委員会」は私の建設コンサルタント生活の重要な一部でした。活動を通じて多くの方にお世話になりました。ありがとうございました。

第3代 交通部会会長 木村 和之



忘れない思い～1995

あの日テレビが映し出した神戸の様子は大きな衝撃でした。その1年半前、北海道南西沖地震の災害対応で奥尻島に渡り、初めて目にする津波被災地に言葉を失くしましたが、高度に発展した大都市が壊滅的とも言える被害を受けるなど、あのような映像はまさに信じ難い、しかし今、間違いなく起きている現実であることが恐ろしくなりました。一方、橋梁技術者としては黙っていられず、高架橋が倒れ桁が落ちた要因は何か？ 耐震設計は不十分だったのか？ まず現地状況を自分の目で見るべき、との思いに駆られていました。

因らずも、開土研(現・寒地土研)の研究者と共に調査に出よとの命を受け、西宮、芦屋、神戸、宝塚の主要被災地を4日間歩きました。鳴り続く緊急車両のサイレン、大渋滞の国道、臨時バスを待つ人の行列、住民の日々の暮らし。それまでの単なる橋梁技術者ではなく、もっと広く社会を考え役に立つ真の「土木技術者」を目指さなくては、との思いを抱きながら札幌に戻りました。

防災委員会のスタートには、このような「技術者の使命感」が結集したように思います。ちょうど技術士資格を取得したばかりの私は、初代副会長にお誘い頂き、勇んで参加しました。「技術士からの27の提言」を執筆した第1期(H7～H8)は、平均すると実に二か月に一回以上の頻度で交通部会を開催しましたが、これも部会員の高いモチベーションが支えであったと思います。

当時は私も含めて「元気なオジサン」が多く、耐震対策の課題調査のため、ママチャリで環状通り一周に汗を流したり、休日も厭わず集まり提言執筆の追い込み作業に打ち込んで頂きました。

その後、提言書完成10年を経て、第VII期(H19～H20)は防災・減災対策の進展や社会情勢の変化を踏まえた「交通系6提言のフォローアップ」を行いました。手前みそではありますが、満足のいく仕上がりになりましたので、ぜひ行政側の皆さんにも御一読願いたいと思います。

今後も継続的かつ活発な防災委員会とするため、将来を担う若手部会員の確保という課題もありますが、昨年、第11期活動開始に合わせて私より8才若い安達君に第四代部会長をお願いしました。防災・減災に関心ある若い技術士にはぜひ参加してもらいたいです。私も1995年、あの時の思いを忘れずに防災委員会の活動を続け、技術士の社会貢献に努めたいと考えます。

最後になりましたが、ご指導とお力添えを下さいました、花田初代部会長、桑田第二代部会長に紙面をお借りして御礼申し上げます。また多忙な中、部会運営に尽力された中川幹事、積極的に参加頂いた交通部会員の皆様には深く感謝いたします。

(以上)

初代 都市部会会長 高橋 徹男



「防災研究会」が日本技術士会北海道支部（現在：本部）で活動を始め、現在は「防災委員会」と名称も変わり全国規模の活動組織となりました。北海道本部がこの分野で先駆的な役割を果たしていることを会員の1人として嬉しく思います。

思い出

阪神・淡路大震災に直面して、土木や建築、機械・電気等々の技術者は、その専門的知識・経験が復旧、復興に役立つものと市民からの大きな期待が寄せられていました。しかし“技術士”という資格を有する技術者に対しては、一般市民の知名度が低く、「技術士って何？ 何ができるの？」との評価だったように思えました。そこで「各専門分野の知識・知見を横断的、総合的に活かして、技術士として何か役立つことが出来る筈だ」との思いと、技術士の存在感を示す試みが「防災研究会」発足の契機と記憶しています。

私が担当したのは5つの部会の内、都市系部会です。他の四つの部会と比べ、対象とするものが少々曖昧模糊として、容易に絞り切れずにおりました。当初は、上下水道などのライフラインを対象として、防災上の課題の検証そして対策の検討と余り深くは考えておりませんでした。しかし、グループ内で議論を進めて行くうちに、検討すべき課題はインフラ施設そのものだけではなく、生命を守るための都市のあり方や様々なシステム、それらの連携性等々と広がり、如何にして議論を収束させたら良いかと悩むことになりました。

それは、阪神・淡路大震災の特徴が都市インフラの整備された大都市が、初めて受けた直下型の大地震であり、建築物・道路・鉄道・その他諸々の近現代都市生活を維持するシステムに甚大な被害を与え、都市機能を麻痺させたからです。各所で崩壊した木造家屋から火災が発生し、水道施設の破損による断水で、消防活動の麻痺状態と重なり延焼を大きくしました。また、医療活動にも重大な支障をきたしました。一つのシステム破壊が他のシステムに機能障害を与えてしまうのです。

震災直後は、人的物理的被害の甚大さに目を奪われていましたが、長期避難生活を余儀なくされた被災者には、大勢の心身不調者が発生しました。下水道の復旧の遅れで水洗トイレが使えず飲食を抑えて体調が悪化したり、自家用車での寝起きよってエコノミー症候群が発症したり、ライバシーを守れない集団生活による精神的不調等々の問題が現れてきました。

都市系部会の検討では、このような被災実態や避難生活状況を踏まえ、都市インフラ特に、ライフライン等の施設や設備などの物理的防災対策だけではなく、「生命を守る。避難した場所で2～3日間は生きていく」という緊急段階、応急段階に対応する防災拠点（避難所）の整備が重要であるとの結果に至りました。そしてライフラインの復旧、復興を考慮した統合的な対応を時間軸と空間軸との両面から考慮されなければ、真の防災対策にはならないとの結論に至ったのであります。更に積雪寒冷地である北海道、札幌の地域特性を考慮し、より困難な条件を想定して防災拠点の条件と防災拠点への避難移動、避難所での生活を検討することとしたのです。

雑感

- ① 防災対策は総合的アプローチが必要

正常な都市生活を維持するためには、様々なシステムが適正に整備され、的確に管理されていることが必要です。どのシステムも他のシステムと複雑に連携し合って管理されていることが、阪神・淡路大震災を経験して強く認識されました。

道路・鉄道の破壊が、物流や人の流れを困難にし、経済活動に悪影響を与えました。水道施設の損壊が消防や医療活動を機能不全に陥れました。また下水道施設の機能不全が、水洗トイレを使用不可能にし、結果として体調不良になった避難所の人たち大勢発生しました。

災害からの復旧・復興は、地域、都市のあり方を地域の住民と一緒に考えて、徐々ではあるが着実に柔軟性、強靭性を高めることが求められます。防災対策での様々な政策、施策を総合的に組み合わせて対処することが何よりも重要だということを阪神・淡路大震災は改めて知らせてくれたと思います。

② 耐震強化の防災対策から機能保全の減災対策へ

日本中何処にでもある活断層が動く発生確率は、数百年から数千年に一度程度であります。これに比べ、都市のインフラ施設の耐用年数は、高々50年～100年程度です。全国一律にすべての施設の耐震化を高めるは、果たして合理的な政策かと疑問を抱き、阪神・淡路大震災の数年後に開催された下水道のパネルディスカッションで「耐震強化ではなく、壊滅的損傷を避ける減災対策を検討すべきではないか」と提案したことがあります。耐震強化による防災対策が盛んに主張されていた中で少しばかりの抵抗を試みたのですが、周囲は当然の如く冷やかで否定的な雰囲気でした。もう数年後であればもっと温かい目をもらえたかも知れません。

③ 分野の技術士との交流で視野を広げる

都市系部会でも異なる専門分野の技術士が、様々な観点から議論を繰り広げました。メンバー各自が持っている知識・経験・見識は広く深いものの、専門分野外になると思いの外知らないことがいろいろとあることが判りました。でも皆技術士ですから、工学的理解力は備わっており議論を通して知識見識がどんどん膨らみ、視界が広がってくることを実感できました。

私自身は、大学では衛生工学を学び、社会に出てからは下水道事業を専門としましたので、「関わる分野は広いが、専門性は浅い」というのが特色柄、専門性の高い人たちからは沢山のことを教えてもらうことができました。様々な分野の専門家との交流が如何に有意義なものかを改めて納得し、感謝する次第です。

④ 市民へのアピール

第一期の報告書と同時に、「技術士からの27の提言」という概略版も作成しました。これを基に、道内各地で防災セミナーを開催し、関係機関団体からも高い評価を受けたものと思っています。またこのセミナーを通じて技術士会の存在も広く認知されたいと思います。阪神・淡路大震災の後も、地震、津波、洪水、土石流など日本は多くの災害を受け、市民の防災に対する関心も高まっています。今こそ科学的に正しい知識経験に基づく避難対策や防災、減災対策の周知を図るには良いタイミングではないでしょうか。

これからも技術士会がその中核的組織の一つとして、安心・安全な国土を創造すべく、市民への啓蒙活動を続けることが重要と思います。

都市部会 三木田 正則



当部会における最近の活動の主軸として、第Ⅶ期（平成19年度）からほぼ毎年開催している「防災研修会」が挙げられます。

防災研修会では、北海道外で発生した自然災害を対象として、その爪あとや関連施設、加えて災害発生当時から現在に至るまで復興に係わる方々のところへ実際に足を運び、『自分たちで見て・聞いて・考える』ことを理念として継続してきました。

これまでの開催概要を下表に整理します。参加者は、主催する都市部会メンバーを中心に、防災委員会全体の行事として、他の部会などからも積極的に参加いただいています。

また、訪問先でお会いしたことをきっかけに、その後、K-TEC（神戸防災技術者の会）や尾鷲市の方々、宮城県東松島市に派遣された北海道職員の方が、当委員会の防災セミナーの講師として北海道にお越しいただく等の継続的な技術交流も活動の一環としています。

No	開催年月日	視察対象地域（テーマ）	延べ参加数	おもな特徴、キーワード
1	H19.11.09~10	神戸市復興状況視察	10名	区画整理と再開発事業、K-TECとの意見交換
2	H21.11.12~14	南海地震防災関連施設等 といなむらの火を訪ねて	8名	尾鷲市の津波対策、避難施設（錦タワー他）、 地域に根づいた防災教育（稲村の火の館）等
3	H22.09.16~18	富山市、黒部ダムと中越地震の爪あとを訪ねて	8名	コンパクトシティ構想、黒部ダムの電源開発、 山間部における地震災害と地域復興
4	H24.11.15~17	東日本大震災の被災地を訪れて	11名	津波被害の実状、被災自治体へのヒアリング、 民間活用による復興事業（南三陸PMモデル）
5	H25.11.21~22	福島県いわき市の被災地を訪れて	11名	津波被災地（沿岸）の現地視察、北東3地域 本部技術士交流研修会への参加
6	H26.10.09~11	おもに岩手県の被災地を訪れて	8名	岩手県内各地域の被災規模と復興状況
7	H27.11.19~21	阪神・淡路大震災20年	14名	神戸市内（人と防災未来センター 他）視察、 淡路島（北淡震災記念公園 他）視察

以降では、これまで延べ7回開催した防災研修会の中から、上表中のNo.2（南海地震の防災関連施設）、No.4（東日本大震災）および、No.7（阪神・淡路大震災）についてご紹介します。

南海地震防災関連施設等と「いな 2 泊 3 日むらの火」を訪ねて（平成 21 年度） 参加 8 名、

空路にて中部国際空港に到着した参加者は、2 台のレンタカーに分乗し途中、伊勢神宮で昼食をとった後、三重県大紀町の「錦タワー」（最大 500 人を収容できる津波避難・備蓄・防災学習施設）を見学しました。



大紀町「錦タワー」

その後、尾鷲市の防災危機管理室を訪問し、津波避難に関する住民との連携や継続教育に関してお話を伺いました。東南海地震が発生した場合、この地域では 11 分後に津波が到達するため、『津波は、逃げるが勝ち』をスローガンとした、国や三重県のハード対策と連携した多様な取り組みを紹介いただきました。

翌日は、和歌山県へ入り、国内唯一の津波対策として事業化された那智勝浦バイパスの供用区間を経由、世界遺産「熊野古道」を巡りました。

最終日は、広川町にある「稲むらの火の館」を訪れました。

当時、醤油醸造業を営んでいた濱口 梧陵は、安政南海地震津波（1854 年）の際、収穫したばかりの稲藁に火をつけて、襲いかかる津波から村人を避難誘導して多くの人命を救ったり、私財を投じて防潮堤を建設するなどしました。防潮堤は現存しており今も地域の防災教育に大きな意義を持つ施設となっています。



三重県尾鷲市 防災危機管理室でのヒアリング実施状況

この施設を含めた周辺の史跡を散策しました。

本研修会の報告は、平成 22 年 1 月 20 日の防災セミナーで行うとともに、コンサルタンツ北海道 124 号にも投稿しました。

東日本大震災の被災地を訪れて（平成 24 年度）

参加 11 名、2 泊 3 日

空路にて仙台空港に到着した参加者は、2 台のレンタカーに分乗して目的地に向かいました。

最初の視察地は児童 74 名が犠牲となった宮城県石巻市釜谷地区の大川小学校です。校舎の屋上を超える津波に襲われ破壊された惨状等から、改めて被害の甚大さを実感しました。

次に、南三陸町では、復興街づくり事業をプロジェクトマネジメント（PM）方式で受託する JV 企業担当の方からお話を伺った後、被災した防災対策庁舎や学校グラウンドの仮設住宅などを一緒に案内していただきました。



「稲むらの火の館」全景（パンフレットより引用）



被災した南三陸町 防災対策庁舎前で説明を受ける

翌日は、北海道庁職員が派遣されている東松島市復興政策部を訪ねてヒアリング調査を行い、集団移転等の復興計画を進める上では、単体の事業ではなく、それぞれが良い面・脆弱な面をもつ事業の組み合わせで展開することが肝要である、等の貴重なお話を聞かせていただきました。

最終日には、津波によって辺り一帯ほとんどの家屋が消失してしまった名取市閑上地区を訪れ、地元ボランティアの女性より直接お話を伺うことが出来ました。



東松島市でのヒアリング実施状況（団長から挨拶）

阪神・淡路大震災 20 年（平成 27 年度） 参加 14 名、2 泊 3 日

阪神・淡路大震災から 20 年が経過したことを契機に原点回帰の精神で、平成 19 年度初めて実施した防災研修会の訪問地、兵庫県神戸市等へ再び視察に赴きました。

初日には、神戸空港から公共交通機関を乗り継いで、「人と防災未来センター」や「神戸港震災メモリアルパーク」等を見学しました。

翌日、レンタカー 2 台に分乗して神戸市を出発し、淡路島へと向かいました。最初に「北淡震災記念公園」で屋内保存されている野島断層などを視察し、その後、島の南端に位置する「福良港津波防災ステーション」を見学しました。

同施設は、南海地震に伴う津波を想定した緊急避難場所としてだけでなく、福良港の樋門等の遠隔操作や周辺地域への情報連絡、平常時の防災学習・防災訓練など、多くの機能を有しています。

最終日は、姫路市まで足を延ばし、5 年半の大改修工事を終えて平成 27 年 3 月にグランドオープンした姫路城を見学しました。



野島断層に延長 140mの屋根を架けて保存



福良港津波防災ステーション 制御室で説明を受ける

今回の防災研修会についても、これまで同様、活動報告をコンサルタント北海道などに寄稿する予定です。

防災研修会は自分の目で被災地を見つめ、防災に関わる知見の蓄積を行い、技術士としてどう防災に取り組むべきかをテーマとして実施しています。

この精神でこれからも継続的に“防災研修会”を開催しますので、より多くの方に参加頂ければ幸いです。



明石海峡大橋を背景に参加者全員で記念撮影

初代 水工部会会長 井出 康郎



水工部会発足にあたって

平成7年1月17日早朝、兵庫県南部地震により引き起こされた阪神・淡路大震災にひどく驚愕しました。多くの住宅やビル等の被災ばかりでなく、鉄道、高速道、ガス、上下水道等の都市施設がことごとく機能マヒに陥ってしまったことに大変驚きました。

当時、私は開発土木研究所（現寒地土木研究所）の河川研究室長をしていまして、研究所におられた能登さんから、技術士会で防災研究会を立ち上げるからテーマを考えろと、宿題を頂いたと記憶しています。そのころ、平成5年の釧路沖地震を始め、南西沖地震、東方沖地震等北海道周辺ではその数年前から相次いで地震が起こっていましたが、幸いなことに壊滅的な被害には至っておりませんでした。

それまでは、洪水、地震、津波、暴風雪等の災害の外力や対策はそれぞれ個別に設定され、また、想定外力に対する対策が一般的でした。また地震と暴風雨、暴風雪などの複合的な災害に対しては、考えられていませんでした。幸いなことに、釧路沖地震は非出水期だったし、南西沖地震では大きな出水がなく、堤防等の大規模な被災の2次災害はありませんでした。

水工系部会での検討すべき課題は、水工系のインフラ施設の安全性はどのように考えるか、複合的な災害に対してはいかにあるべきか？また防災、減災に対して、水工系インフラ施設の果たすべき役割・機能はどうあるべきか？避難の在り方や誘導方法などのソフト対策などを研究のテーマにして、取り敢えず、走りながら具体的な研究活動計画をまとめようということになりました。まずは河川管理施設から始めようということで、堤防やダム等の安全度の考え方や設計手法の変遷を調べ、何度か勉強会を開いたように記憶しています。勉強会の後は、必ず近くの居酒屋で意見交換会を開いたものです。また、朝里川温泉で泊まり込みの研究会も行い、夜を徹して、議論した覚えがあります。水工部会として、具体的な研究活動計画を取りまとめようとしている最中、平成8年の春に東京へ転勤となり、急遽、瀬川さんに、部会長を引き受けて頂いた次第です。実際、具体的な研究計画は新メンバーで取り纏められました。

瀬川さんをはじめ部会メンバーの方々にこの場を借りて深く感謝する次第です。

第2代 水工部会会長 瀬川 明久



私の水工部会長の期間は、1997～2008年までの12年であり、その後も続く多くの技術士との幅広い交流は、私の技術者人生にとり新しい考え方などが聞ける貴重な場になっています。

部会の研究テーマを思い起こすと、1995年1月17日の阪神・淡路大震災を契機に、今までの河川の洪水や内水による氾濫を主体とする災害対策から、地震災害などを含めた新しい河川総合防災のあり方について考えるものでした。その後は、都市型防災、防災から減災とテーマが進展していた中途の2011年3月11日に東日本大震災が発生したため、大震災を教訓とする防災・減災対策および一般への啓蒙教育活動へと部会員の協働による研究と実践が行われました。

研究の主旨である地震災害と河川側の対策を模索した場合、それを支援し安全性向上に寄与できる素材は、水、水面、広大な敷地、長大な堤防や管理用道路、植生帯などであり、つまり「河川環境機能の総合的な活用が地震防災や複合災害に大いに役立つ」と云うことになります。

その期待する機能は、河口から支派川を含む上流部までの植生帯や敷地、近隣の公園、学校、公共施設などの植生帯や敷地などを活用し、「水源、避難や物流のための水上および陸上交通路、ヘリポート基地などの防災空間」、「運動やレクリエーション、水面および景観などの親水・健康空間」、「水面、草地、樹林などの生態系保全空間」を連携させて有機的に防災効果を発揮させようとするものであります。

研究題目については「環境防災都市河川構想」と設定し、2005年から都市河川周辺で寸断された水面や植生帯などの環境機能と防災への活用性を把握するため、現地調査をベースとした多面的な検討を始め、2007年3月の第VI期の報告書で提示しました。その研究過程では、地形・地質、河川と都市の関わり、生態系、気象、地震、洪水、大雪、災害と社会現象など、広い分野の専門的な知見や考え方に触れることができました。

以上、難しい話しになりましたが実際の部会における最も楽しく貴重な時間は、閉会後の「呑み会」であり、流石は「水商売」の集団と心の中でニヤニヤしていました。当時、幹事であった渡辺敏也さんは、専門的な資料を毎回揃えて丁寧に説明して下さったのですが、私は「ソコソコにして、早く飲めないかな」と不埒なことを考えていました。

そのワタクシメも古希を迎え、酒量は大幅に落ちましたが「呑み会」の中で聞く部会員の話しは大変参考になることが多く、今後も積極的に部会に参加し、少しばかりの知見吸収によるボケ防止と酒税納付および防災委員会と水工部会の発展に貢献したいと考えています。

第5代 水工部会会長 福間 博史



中林さんに誘われ、私が水工部会に初参加したのは平成18年（2006）の夏でした。期待と不安の初部会では、瀬川さん、井出さんの実経験に基づく河川管理の様々な話題を興味深くお聞きしました。また渡辺さん、大熊さんなどの諸先輩より、阪神淡路大震災を契機に活動を始めた頃は、「技術士からの27の提言」の作成で、夜を徹し議論をしたと聞き、その行動力に圧倒されました。また平成14・15年には27の提言で挙げた【提言23】の実例検討として、過去に小河川が流下していた札幌市の円山界川地区を現地調査事例とし、「環境防災都市河川」とも呼べる小河川の復元可能性を探るなど、精力的な活動がなされたそうです。当時の部会での技術士の熱い交流が、最善の技術研鑽の場となっていた事を羨ましく思います。

その後、平成20年度頃からは「提言フォローアップ」や「防災セミナー」の運営等が部会活動の中心となる中で、若手技術士加入もありました。平成21年度より部会幹事を仰せつかる中、平成22年秋には留萌市にて水工部会現地見学会を開催し、大和田遊水地、留萌ダム、留萌港の巨大テトラポット等を視察する事で、現地で語り合う大切さと楽しさを知る機会となりました。

「津波対策」も当初から水工部会では取り上げてきました。平成18年度は松岡さんに、冬季津波発生時の流水による被害拡大の可能性を「複合災害」として話題提供頂いたり、奥尻島での津波記憶風化防止策を議論するなど、部会内でも度々津波は話題となりました。しかし、平成23年3月11日に発生した東北大地震の津波災害は、私たちの想像を上回るものでした。水工部会のネーミングを生かし、道内で津波対策に携わる若手技術者に部会参加を呼び掛け、津波対策に関する情報交換と交流ができた事で、部会が貴重な情報源になることを痛感しました。

平成22年度に水工部会担当で開催した第21回防災セミナーでは北海道大学名誉教授の新谷先生に「地域に眠る災害情報と防災専門家の役割」を講演頂き、防災専門家として我々技術士がなすべき対外的な役割を考える機会となりました。また、平成26年の広島市や、支笏湖札幌間での土砂災害など、地球温暖化の影響と思われる降雨パターン変化がもたらした激甚な水害や土砂災害の発生も水工部会としては見逃せない「気象災害への備え」とも言える課題となりました。

平成27年度より渡辺前部会長より受け継ぎ、渋谷部会幹事に支えて貰う体制ができた事で、ベテラン部会員のみなならず、若手部会員の話題提供による勉強会活動が活発化され、発足当時の活発な議論が蘇りつつあります。これからも水工部会は部会委員の皆様とともに、「水考部会」として「気象災害」等を話題として研鑽交流ができる場にして行きたいと考えております。

初代 情報部会幹事 森 隆広



1. はじめに

情報部会（当初の名称は情報系部会）は防災研究会の5つの専門部会の一つとして、加治屋安彦部会長の下に建設、電気、応理、水道、農業、情報の各部門の技術士総勢19名により活動を開始し、部会長が病に倒れるまでの平成20年度まで活動した。防災委員会20周年の節目に情報部会活動の思い出を執筆するのに最もふさわしい部会長が居られないのは実に残念である。情報部会の活動を振り返ってみると故加治屋部会長の企画力とリーダーシップによって部会が成り立っていたことが強く印象に残っている。

2. 活動を振りかえって

7期約14年間の活動を振り返って印象に残っている活動成果を以下に時系列に列記する。そして、これらのほとんどが加治屋部会長のアイデアから始まっていることを改めて実感させられたことを付記しておく。

- (1) 第Ⅰ期（H7～H8年度）：
 - ① 提言書の原稿作成……「技術士からの提言～地震災害に備えて」、「地震災害に備えて～技術士からの27の提言」（平成9年5月刊行）
 - ② HPの活用と防災ライブラリーの整備
- (2) 第Ⅱ期（H10年度）：メーリングリストの運用提案……EPOメーリングリスト
- (3) 第Ⅳ期（平成14年度）：市民の防災意識と災害対策に関するアンケート調査
- (4) 第Ⅴ期（平成15年度）：
 - ① 市民の防災意識と災害対策に関するアンケート調査の発表……「寒地都市における市民の防災意識と災害対策に関するアンケート調査」（平成15年11月第19回寒地技術シンポジウム）
 - ② 第二弾防災アンケート調査（H15十勝沖地震後）と発表……土木学会北海道支部「平成15年度年次技術研究発表会（第Ⅳ部門）」（平成16年2月）
- (5) 第Ⅵ期（平成18年6月）：ブログによる「北の暮らしに役立つ防災コラム&豆知識」および「北海道の災害年表」の掲載
- (6) 第Ⅶ期（平成19年度）：
 - ① 「防災・減災カード（地震サバイバル編）」の作成……第14回防災セミナー（平成19年11月5日）にて配布開始
 - ② 災害情報の共有化に関する6つの提言についてのフォローアップ原稿作成……「都市型防災に備えた防災・減災対策」（平成21年3月）

前述の活動の思い出として強く印象に残っているのは、最初の「技術士からの27の提言」原稿作成、H15十勝沖地震の前後に行ったインターネットによるアンケート調査、そして「防災・減災カード（地震サバイバル編）」の作成である。

1) IT技術の進歩を感じる「技術士からの27の提言」

技術士の社会貢献活動と防災研究会の存在を世間に知らしめることとなったこの提言書において、情報部会では、災害情報の共有化に向けて6つの提言を書いている。当時はまだポケベルが使われており、技術士の電子メール使用割合がまだ半数程度であった。そのような環境であったが、IT技術に長けている加治屋部会長の指導下で防災研究会のHPの立ち上げ、携帯電話による輻輳問題への注意喚起、インターネットを

利用した防災ライブラリーやハザードマップの提供の必要性、電子メールの活用・メーリングリストによる情報共有効率化など、今では普通に浸透しているIT技術を災害情報の共有化に向けて活用することを提案し、当時は一生懸命議論して原稿を作り上げていった記憶がある。第Ⅰ期はスタートでもあり、この提言の制作に多くの精力を費やしたため、続く第Ⅱ期、第Ⅲ期は新たな制作活動を行っていない。

2) H15 十勝沖地震の前後に行ったアンケート調査

部会としては市民の防災意識はどうなっているのか、現状を把握する必要があるとしてインターネットを活用して防災意識に関するアンケート調査を行おうということになった。最初のアンケート調査がH15 十勝沖地震の前年であったことから、偶然であるが、十勝沖地震の発生前と発生後の防災意識を調べることができた。そして、当時は珍しかったが、検討結果を情報部会として寒地技術シンポジウムと土木学会北海道支部の年次技術研究発表会で発表した。この発表論文はその後、平常時から災害の備えの大切さや危機意識の大切さを示す既往研究として防災関連の様々な論文で活用されている。（以下に一部を紹介しておく）

- ・池田健一 他（筑波大学大学院システム情報工学科）：
つくば市の一般家庭における地震リスク対策（2008年）
- ・原岡智子 他（浜松医大 地域医療学）：
平常時における防災への知識・意識・行動の関連（保健医療科学（2009年））
- ・藤村一美 他（大阪市立大学大学院看護学研究科）：
災害サバイバル市民を目指すセルフケア支援（大阪市立大学看護学雑誌（2013年））

3) 「防災・減災カード（地震サバイバル編）」の作成

一番苦労した思い出となっているのがこの「防災・減災カード」の作成である。当時、日本技術士会作成の「防災カード」はあったが、使い勝手の良い大きさに改善した札幌版（北海道版）の「防災カード」を作成しようということになったのが最初だったと思う。部会のメンバーも交代等があり、その当時は13名となっていた。まずはWEBなどから見えそうな情報の収集から始め、折りたたんで財布や名刺入れに入ること前提にコンテンツの作成と絞り込みを繰り返した。1回の部会が3時間を超えることもあり、多いときは月に数回集まって意見を交わした記憶がある。とにかく何回も書き直した記憶が残っている。こうして出来上がった「防災・減災カード」原稿は、最後に防災委員会（幹事会）のチェックを経て印刷された。

苦労してできあがった「防災・減災カード」は、第14回防災セミナー（H19.11.5）の目玉として配布され、その後改訂され、現在も町内会やイベント主催者から配布要望の問い合わせがきており、日本技術士会北海道本部並びに防災委員会の社会貢献および宣伝ツールとして有効に使われている。

3. おわりに

年に1~2回旧情報部会の有志が集まる機会があるが、情報部会の活動の思い出として「防災・減災カード」作成当時の苦労が印象深く残っているメンバーが多いようである。

現在の防災委員会には情報部会が存在していないが、そこから生まれた「EPOメーリングリスト」、
「防災・減災カード」が今も活用されていることやアンケート調査結果が最近の研究にも活かされていることに部会メンバーの一人として誇りに思うと共に故加治屋部会長の先見の明に改めて感心している次第である。

最後に本原稿を作成するに当たって、当時のエピソードや資料の提供、文章の校正に協力していただいた宴会の友である旧情報部会の有志の皆さんに感謝いたします。

[以上]

防災教育ワーキング 小田 直正



2009年8月22日土曜日の昼下がり、清田区民センターにおいて防災教育ワーキンググループ（WG）による初めての「防災教育セミナー」を開催し、WGメンバーの3名（城戸、大浦、小田）が講師をつとめました。プログラムは、「阪神・淡路大震災を知ろう」「札幌直下型地震が起きたら・・・」「清田区の防災対策」「防災・減災カードを活用しよう」の4演題で、一貫して地域の自主防災活動による「自助」「共助」の重要性を説きました。参加者は清田区在住の市民38名で、セミナー終了後のアンケートでは「地震はいつか必ず起きると肝に銘じた」「自分で自分の身を守ることが大切だと感じた」等の感想をいただき、市民への防災意識の啓発という活動の目的が果たせたことに安堵しました。

こうして記念すべき第1回目の防災教育セミナーを終了しましたが、そもそもこのWGが誕生したきっかけは、清田区民センターが区民を対象とした防災セミナーを企画し、その講師を技術士会に依頼したことに始まります。かねてより技術士の社会的貢献として市民に対する防災教育の必要性を感じていた城戸氏がこの依頼に応じ、防災委員会のメンバーに対して講師を募ったところ他の2名が趣旨に賛同しWGが結成されました。これを契機に市民を対象とした啓発活動を継続的に行うことを確認し、「防災教育ワーキンググループ」が防災委員会の一組織として誕生しました。

WGの発足にあたり、活動の目的を①防災教育を技術士の社会貢献として位置づけ、調査研究および講演活動を展開する②地域防災力を向上させる自助・共助の観点から、市民向けの分かり易い情報を発信する③札幌市の区民センター、区役所、町内会等が主催する防災セミナーや研修を支援することとしました。また、セミナーのなかで技術士制度の紹介を行い、知名度の向上をはかることにしました。

このようにして始まったWGの活動は、阪神・淡路大震災の発生で関心がたかまった「震災への備え」をテーマとする防災教育セミナーの開催が主体でした。その後、日本各地で集中豪雨による水害や土砂災害が頻発したことから、これら気象災害をテーマに加えたり、災害図上訓練（DIG）を取り入れるなど、セミナープログラムのバージョンアップを行ってきました。また、2011年3月の東日本大震災による未曾有の災害の発生を受け、札幌市の防災対策の強化がはかられ、町内会単位での防災リーダーを養成するための「防災リーダー研修」での講師依頼を受けるようになりました。これらの他にも、区役所主催の援護者支援事業や連合町内会主催のまちづくり会議等の機会に防災教育セミナーを開催しました。これまでの活動は下表のとおりで、31回のセミナーまたは研修を実施し、延べ1,571名の市民の参加を得ました。



防災教育セミナーの様子



防災リーダー研修でのDIGの様子

防災教育 WG の活動実績

年度	防災教育セミナー（参加人数）	防災リーダー研修（参加人数）
2009年度（H21）	清田区民センター事業（38名） 東区民センター事業（47名）	
2010年度（H22）	清田区民センター事業（17名）	
2011年度（H23）	清田区民センター事業（60名） 中央区まちづくり会議（80名）	清田区防災リーダー研修（157名） 中央区防災リーダー研修（77名） 豊平区防災リーダー研修（123名）
2012年度（H24）	清田区民センター事業（29名） 手稲区要援護者支援事業（31名） 厚別区要援護者支援事業（17名）	清田区防災リーダー研修（115名） 豊平区防災リーダー研修（121名） 白石区防災リーダー研修（75名）
2013年度（H25）	清田区民センター事業（19名）	豊平区防災リーダー研修（90名） 清田区防災リーダー研修（94名） 白石区防災リーダー研修（70名）
2014年度（H26）	清田区民センター事業（17名） 中央区民センター事業（10名）	豊平区防災リーダー研修（99名） 清田区防災リーダー研修（94名）
2015年度（H27）	清田区民センター事業（91名）	

2009年8月に防災教育WGが発足してすでに6年がたちました。当初3名であったメンバーは、活動範囲の拡大とともに増員をはかり、現在は城戸リーダーを筆頭に9名を数えます。今後も市民のニーズを踏まえたテーマを設定しながら活動を継続するつもりですので、賛同される方は是非、防災教育WGにご参加ください。

IV. 20周年記念座談会

1. 座談会の主旨と参加者

防災委員会の20周年記念誌は、これまでの過去の活動を取りまとめて記録するという性質があります。その一方で、防災委員会はこれからどうあるべきなのか、過去の記録を振り返って今一度議論する場があっても良いのではないかとということで、座談会を開催しました。

ですので、座談会は各部会からできるだけ若い方を中心にメンバーを選出していただいた上で、これまでの活動を良く知っている総合幹事会のメンバーを加えた構成で実施しました。座談会に先立ち、各参加者にはこの記念誌に対して寄稿していただいた原稿のゲラ刷りを配布し、ある程度これまでの活動の流れや、設立当初の気持ちなどが伝わるように工夫しました。

座談会に参加していただいた方は、次のとおりです。なお所属はいずれも当時のものです。

防災委員会 20周年記念座談会参加者（敬称略）

種別	氏名	部門	所属
地盤部会	清水順二	応用理学・建設	明治コンサルタント(株)
交通部会	安達幸弥	建設	(株)構研エンジニアリング
都市部会	宮田善郁	建設	(株)ドーコン
水工部会	渋谷義仁	総合・建設	(株)ドーコン
防災教育ワーキング	村瀬尚久	建設	札幌市
委員長	浅野基樹	総合・建設	(独法) 土木研究所寒地土木研究所
副委員長	渡辺敏也	総合・建設	(株)水工技研
幹事長	小林正明	建設	(株)ドーコン
司会・副幹事長	大浦宏照	総合・応用理学	

実施日時

平成28年2月27日 15:00～17:00

実施場所

TKP ガーデンシティ札幌駅前 カンファレンスルーム 2E

プログラム

- a. 委員長の挨拶
- b. アイスブレイク（自己紹介）
- c. あなたは防災委員会の活動としてこれまでどんなことをやってきましたか
- d. これまでの防災委員会の活動を振り返って良かった点・悪かった点を教えてください
- e. これからの防災委員会はどうなことをやっていくと良いでしょうか
- f. まとめ

5. 実施の記録

a. 委員長の挨拶

本日はご多忙の中、お集まりいただきありがとうございます。

防災委員会の設立から 20 周年を迎え、今までの活動を振り返ったアーカイブ的な記念誌を作ろうということになりました。その一環として、防災委員会の将来に向けて、若手を中心としたメンバーに集まっていただき、フリーにディスカッションしようということで、本日お集まりいただいた次第です。

記念誌への寄稿に関して、初代委員長の能登さんとかにご挨拶に回っていろいろなお話を伺いました。当初、防災委員会はゼロからのスタートだから、何をやってもいいだろうということで、熱意ある人たちが集まりました。ちょうど阪神淡路の災害の後でしたので、技術士からの 27 の提言をつくりました。それはどちらかというと行政への提言でした。その後いろいろセミナーをして勉強を積み重ねてきました。それでまた東日本大震災の時にも、何かしないといけないということで再度提言を作りました。この 2 回目の提言は、一般市民に向けたものということでまとめたものです。

最近の動きとしては、技術士会の社会貢献ということで、防災教育ワーキングを中心とした市民に向けた活動が重要視されてきました。かたや、技術士って日頃忙しいでしょう？マンパワーも限られて、災害の時には自分の本業がすごく忙しいはずで。社会に求められていることと我々の現状が、なかなか一致しないということがあり、その辺が私としては問題だと思っています。

そのような中で、我々が今後どうしていくかということを探る時期に来ているだろうと思っています。そういったことが、これからの議論になるのではないかと思っていますが、それにかぎらず日頃のいろいろな事を話していただければと思います。どうかよろしく願いいたします。



b. アイスブレイク（自己紹介）

【(株)ドーコン 防災保全部 宮田技術士 都市部会】

防災委員会には、上司に進められて加入しました。入って一年しかたっていないので、活動内容の全容はまだ把握できておりません。現時点、具体のミッションを与えられていないため、この場（今回の座談会）で他の部会の活動状況等を伺い、今後、提案出来ればと考えております。道路防災、斜面調査などが専門です。



【明治コンサルタント(株) 清水技術士 地盤部会】



技術士会に入ったきっかけは、いろいろな分野の方とお話をし、ものの考えかたのバランス感覚を養いたいと思っていました。入ったからには、いろいろな方と接点をもつ部会に参加しようと思い、横田技術士の紹介で地盤部会に参加させて頂くことにしました。防災委員会のHPをみますと、社会と係りが深い活動をしているようです。会社で防災の業務をやっていますが、仕事以外で防災の経験をしたみたかったというのが入会のきっかけです。専門は地質なのですが、地すべり関係などの斜面防災業務を主にやっています。

【(株)ドーコン 河川環境部 渋谷技術士 水工部会】

水工部会に入ったのは、昨年まで水工部会長だった渡辺技術士に誘われました。北海道で技術士の全国大会が開催される少し前で、手伝いは多いほうがよいということだったと思います。



【札幌市 都市計画課 村瀬技術士 防災教育WG】

清田区土木センターに勤務していた時に上司からの誘いで入り、防災教育ワーキンググループでの活動を2010年から行っています。下水道部門の技術士として、いろんな知識を蓄えて技術を向上していきたいと考えています。

防災教育ワーキンググループでの活動においては、行政機関の新たな情報や防災対策に係る新たな知見が増えて変わっていることがありますので、そういったことをみなさんに正しくわかりやすく、実践してもらえるように伝えることが、被害を最小にすることに繋がるのではないかと考えています。

現在は都市計画の仕事を担当していますが、計画を策定するだけではなく、実際に実施していくことが大事なことと理解しています。清田区土木センターに在籍していた時には、行政ができることや市民のみなさんができることなどを話し合い、行政と市民が、お互いの理解を深めながら、地域とともに除雪の在り方を考えていくことを行っていました。防災対策についても、災害発生時には行政の限界があることから、行政の実情を理解してもらい、市民の意見を聞きながら一緒に考え、取り組んでいくことが大切だと思います。そのことを実践できるのが、防災教育ワーキングの活動であると思いますので、参加して良かったと思います。



【構研エンジニアリング(株) 安達技術士 交通部会】



平成 19 年度から交通部会に参加しています。

前交通部会長が同じ会社で、当時の幹事でした。その方から勉強になるので参加してみないかと誘われて参加しました。防災委員会の活動内容も分からず、勧められて入った経緯があります。

技術士の資格を取る前までは、会社の中で業務をやっていましたが、技術士を取得してから社会貢献的なものを考えるようになりました。どちらかというと、日々追われる業務をこなしていましたが、会に参加してみて社会貢献に対する意識の高さに刺激を受け、私の技術者としての考え方の基礎を作って頂いたのかなと感じています。

社会貢献の重要性は技術士倫理で勉強しましたが、技術士になる前は、日々の業務をこなすことが精一杯でした。会に参加して技術士のみなさんのいろんな考えを聞くことで社会貢献の大切さを教えてもらい大変感謝しています。

【幹事長 (株)ドーコン 交通事業本部 小林技術士】

防災委員会では幹事長を務めており、都市部会にも所属しています。

入会したきっかけは、札幌開催の第 31 回技術士全国大会の第 4 分科会(防災)の運営を防災研究会が担当することになり、その際に立ち上げた運営ワーキングのメンバーの一人に上司からの推薦があり、半ば業務命令のような感じで平成 16 年に入りました。翌年、事務局に入ってもらえないと言われて、現在に至っております。

業務だけをやっていると情報が偏ったり、新しい情報が入りづらいので、委員会活動を通じて社会の流れに遅れないように活動してきたつもりです。



【委員長 独立行政法人 土木研究所 寒地土木研究所 浅野技術士】

自分に対して当時の高宮委員長に頼まれたのは副委員長。防災委員会に入ったのは、交通部会に入っていたからかな？技術士をとったのは、平成 10～11 年ころで、それからしばらくは交通部会員として過ごしてきました。その後いろいろあって、今は委員長をやっています。

なぜ交通部会かというと、私はずっと道路屋さんでしたし、研究所のチームで交通安全をやっていきます。特に防災については詳しくない。先輩の名を汚さないように参加したいと思います。

【副委員長 (株) 水工技研 渡辺技術士】



今日、参加している中で設立当初からいる人は意外と少なく、高宮技術士と私になると思います。私は水工部会に参加し幹事長をしていました。

研究会立ち上げのときは、会社の仕事で南西沖地震をやっており、そのあとに阪神淡路大震災があり、その時に「これは何かやらないといけない」と言う感情が湧き出たのを覚えています。会員の皆さんも同じ意識だったのですんなりと運営できたと思います。メンバーのほとんどが、会社の中心を担う世代の40代で構成していました。

水工部会の活動はもともと河川のインフラに関わる研究です。特にダム、河川の施設の根本的な安全に関する問題を見直す必要があると思いました。

阪神淡路大震災の教訓として、震災直後の水不足が話題となりました。札幌の円山・界川流域、旭ヶ丘高校あたりで現地調査をしまして、生活用水、防火用水の可能性を見極めるため、湧水の位置とかどのような利用があるかなどいろいろ調べた記憶があります。現地で気付いたのですが、札幌オリンピックを契機に、中小河川の多くを暗渠にしていきました。それをもう一度、小川に戻せば、より多くの非常用水が確保できる。その中で「防災都市河川」としての水路網構想を大上段で話し合いました。実現性については土地の確保など、なかなか難しかったのですが、大きな提案ができたなど自負しております。

そのような中で、発足から20年経ちまして、この時の世代が60代となったことから、そろそろ、新陳代謝をする時期と考え、水工部会長を福間さん、幹事長を渋谷さんにバトンタッチすることにしました。

【司会】



入会の動機としては、途中から入った方は人に勧められた方が多くて、当初からのメンバーは阪神淡路大震災を受けて使命感に燃えた方が多いという二つのパターンがあったようですね。

委員会に期待していることは、社会貢献や自分の視野を広げていくということがあったようです。

あと、入る前は何をやっている部会かよくわかっていなかったとか、何かミッションがあってそれをやるような形になっているのかなと思って入ってきたのだけど、意外とミッションがないとか、これからのあり方に繋がりそうなお意見もいただきました。

c. あなたは防災委員会の活動としてこれまでどんなことをやってきましたか

【渋谷技術士】

年に数回の部会への参加、総会や防災セミナーに参加しています。

今年度から水工部会の幹事長になったので、部会の活性化を図りたいと思いました。それでやったのは、部会員に順番に話題提供してもらい、意見交換を行うというものです。平成27年度は3回実施し、参加者も多く活性化が図られたと思います。

平成28年度は、札幌近郊で現地勉強会を開催したいと考えています。

【村瀬技術士】

ちなみに市内ですと、どのあたりが話題になっていますか。

【渋谷技術士】

真駒内川の河川改修状況や平成 26 年に豪雨があった滝野や支笏湖を考えています。

【司会】

どんなメンバーで行かれますか？

【渋谷技術士】

水工部会で計画を立て、防災委員会に周知したいと考えています。

【安達技術士】

平成 20 年度だと思いますが、技術士からの 27 の提言のフォローアップをやったと思います。交通部会のみなさんとワーキングを何回かやり、意見交換をしたことが印象に残っています。その一部について自分が執筆したのが、最初の一番の大仕事だったと思います。浅野さんにも助言をいただいて、交通部会の担当のテーマが 5~6 個あった中で、総合交通ネットワークについて執筆をしたのが、最初の大仕事です。



【司会】

そもそも 27 の提言って何？

【浅野技術士】

技術的な提言、こういう技術を適用してはという提言。相手先はそれを採用する行政とか・・・そういうところに向けてこういう技術があるからこういう技術をつかってはどうですか？という形の提言だと記憶しています。

【小林技術士】

各部会 4~6 個の提言がなされ、例えば情報系部会からの提言の一つに「災害発生時のメディア活用と情報の共有化」というのがあります。行政向けの提言だったという話を聞いています。防災委員会のホームページに詳しいものが掲載されています。

【村瀬技術士】

これまでの防災教育ワーキングでの活動ですが、2009 年から清田区区民センターの防災セミナーを始めとして、主に清田・白石・豊平区で毎年、町内会単位での防災リーダー育成のお手伝いをしています。

札幌市の各区役所が各町内会の防災リーダー研修を行っており、そのプログラムの一部として活動させていただいております。また、それ以外にも町内会が独自に防災に係る講習会を実施しているので、個別の依頼により、講演などを行っております。

当初は、阪神淡路大震災を契機として地震対策を中心とした防災教育活動をしていましたが、風水害や雪害など、地域のニーズやその年に発生した災害などを考慮しながら、その内容を変えています。開催方法も講演や座談形式、ワークショップ形式など、皆さんに考えてもらい、参加して頂くよう、効果的な実施方法を検討しながら展開しています。

近年では、コンテンツが多くなってきましたが、さらに増やしていく考えです。

【清水技術士】

昨年防災委員会に入ったばかりでして、あまり経験がありません。

活動としては、27年度地盤部会の防災セミナーの担当だった時、申し込みの受け付けに関するお手伝いをしました。27年度のセミナーは「地形を知れば災害がわかる」といテーマでした。自分自身このテーマに興味があり、今後、地形と災害といったテーマがあれば是非やってみたいと考えてます。

一番は、地道な基礎的なところをくり返しやるようなことを何かやってみたいです。啓発するにも繰り返しが大事だと思っています。もう一つは地質リスク評価という言葉が出てきて、杭の偽装の話もありますがそういうリスクに関するテーマがあればやってみたいと思っています。



【司会】

やりたいことがあれば、「こんな先生がいる」などを調べておいていただければ、セミナーの企画がまわってきたときに実現するかもしれませんね。

【宮田技術士】

都市部会では、阪神淡路大震災から20年ということで、被災地への視察研修を実施しました。20年間でどのように復興したか、当時を振り返りながら各所を現地視察しました。

技術士会について少々、気になっているのは、年会費が2万円（高額）であることを理由に、まわりの友達が徐々に退会していることです。年会費の割にリターンが少ない印象があるので、何か入会メリットを感じられるミッションが無いかと考えております。機会があったらこのようなミッションに携わってみたい。



【司会】

ミッションについては、皆さん忙しい中、時間をとって執筆などをやって下さっています。宮田さんのように、自ら手を挙げて下さる方がいたら勇気百倍です。

【浅野技術士】

今まで何をしてきたかという、交通部会の際は交通部会の活動についていった。

副委員長になったときは、全国大会用の提言のとりまとめをやっていた。当初、イメージがかたまってなかったので「27の提言」のイメージのように何かを提言するのかと思っていました。委員会の活動目的からしても、北海道の災害を最小限にいくとめる防災体制や防災型国土ありあかたなどを提言するのかなど。そこまでいけるのか？行こうと思って活動していましたが他の団体、土木学会等が、バタバタと提言書を出していました。そこでそういう提言を全部読んだ。読んでみたら、ほとんどの事が網羅されていた。

それをみて、我々はどうしようか？

最後の提言は3つのキーワードだけにしよう。「よく知り、よく備え、正しく恐れる」におちついた。有珠山の時も、発生メカニズムをよく知っていたので被害を防げた。よく知って備えることを提言しようとなった。

今の技術士会の活動の中で、提言型の防災活動には限界があるという問題意識をもっています。



【渡辺技術士】

防災委員会は、地震防災に関する研究と提言をやっていたが、水工部会はこれに加え、風水害についても研究していました。気象あるいは流域防災を含めてきちんとやろうということで、平成21年くらいからそのような研究をやっています。

縁があって留萌川でケーススタディをしました。留萌川流域は比較的コンパクトで遊水地、ダム、港湾と見るべき施設がありました。一泊二日で関係者の方にたくさんの説明を頂き、充実した遠征ができたと思います。特に流域全体をみて、治水がどうあるべきかを体験ができたことは、本当に良かったと思います。

今後もそのような視察をやりたいのですが、なかなか大変です。



【司会】

視察に行くときの大変さってどのようなものがありましたか。

【渡辺技術士】

現地に行ってただ見るだけでなく、関係者との意見交換を含めた、企画作成が大変でした。

【小林技術士】

ずっと事務局として防災委員会の運営や全国大会の大きなイベントにも携わってきました。

平成16年技術士全国大会（札幌）の第4分科会にて、札幌宣言の中に“来年第1回目の全国防災連絡会議を札幌で開催する”と打ち出しました。翌年、全国防災連絡会議の運営に参画しました。その

後、平成 25 年に札幌で開催されました「第 40 回技術士全国大会／第 4 分科会（防災）」「第 9 回全国防災連絡会議」を企画・運営し、あわせて 2 回の全国大会を経験させていただきました。

2 年前から、松井義孝さんから引き継いで統括本部で開催されています防災支援委員会に北海道本部の代表として参画しています。この会は関東を中心とした統括本部からの委員と全国の本部代表一名が集まり、全国での防災の取り組みや活動状況などの情報共有や意見交換などを行っており、年に 4 回開催されています。

d. これまでの防災委員会の活動を振り返って良かった点・悪かった点を教えてください

【宮田技術士】

メリットとしては、社外の人脈ができたり、情報交換ができるようになったこと。
デメリットは今のところ特に感じていない。

【渋谷技術士】

人脈はそのとおりですが、防災セミナーへは参加しやすくなり、毎回参加しています。

【村瀬技術士】

まず、良かった点ですが、ワーキンググループの中で意見交換をした際に、いろいろな考えをそれぞれの方がもっていて、その話を聞くことで、自分にとっても「新たな気づき」があり、考えが広がったことが良かったと感じています。

市民向けのセミナーをやる中で、市民の方が我々の説明をしっかりと理解してくれているというのは驚きで、今はそこに手応えや、やりがいを感じています。

悪かった点についてですが、今年度は自分自身の仕事が忙しく、全くと言っていいほど、防災教育ワーキンググループの活動に参加できず、グループの皆さんに大変申し訳なかったと感じています。

【安達技術士】

最初にも話しましたが、良かったことは、技術者としての考え方を部会・ワーキングを通じて学べたことです。

悪かったことですが、ここ数年、仕事がとんでもなく忙しくて、なかなか部会にも参加できないことがありまして、普段の業務との両立が難しいと感じています。基本的にはアフターファイブでやっていますが、出張や夜も仕事をやっていることがあったりすると、両立が難しいと感じています。

【渡辺技術士】

悪かったことは家庭に迷惑をかけた事です。未だに家庭で「防災委員会」と言いますと拒否反応が起こります。

私の専門は「河川計画」です。防災委員会に入って 20 年になりますが、この間、専門外の多くの情報を吸収することができました。技術者として多少幅



が広がり、仕事をする上で大きな力となりました。それと飲み会、これは毎回充実しています。今後も皆勤賞で行きたいと思います。

【清水技術士】

防災委員会の活動は、災害とか地震とかに対応して成果を残しているのがいいなあと思いました。継続して発信していて、誰もが閲覧できるように公開しているのがすごくいいなと思っています。

それから、行政の方と営利と関係のないところで、いろいろと議論できるというのがここならではの、市民とのつながりや接点が強いところがすごく良いと感じています。

悪い点としては、技術士会の外に大きく拡散していない気がします。自分の受信の仕方が悪いのか、会として発信の方法が弱いのか、もっとアピールが必要と感じています。

【浅野技術士】

やっぱり研鑽ですね。いろいろ知るといふことを通じて、知らないことがわかるということがメリット。

ネットワークというか、誰が何をやっていそうだとわかるというのはいい。

あとは、技術士の社会的位置づけの向上が一つの目標。達成はしてないが、集まってやっていることはそのような事に繋がっている気がしています。

それに毎回、美味しいものを食べられるし。

やっぱり世の中の構造というか、役所にずっといると、案外世の中のことをよくわかっていないと気づくのがメリット。

e. これからの防災委員会はどんなことをやっていくと良いでしょうか

【渋谷技術士】

水工部会では継続して部会を盛り上げていきたいと思っています。

皆さん仕事が忙しいので、部会活動が負担にならない範囲で活性化していきたいと思っています。

活性化には新入会員の入会も欠かせません。人脈が深まったとか、みなさんがおっしゃったような、防災委員会の活動をして良かったと実感できる活動をしたいと思っています。



【宮田技術士】

入ったばかりのため、私の理解不足かと思いますが、設立から20年とのこと、もう一度、目的とか基本方針とかを明確化・更新して具体的に何をやる場であるか、再確認してはいかがかと思いました。

会員になるメリットについて、技術士の方々は、CPDを集めたいと考えていると思いますので、技術士会のイベントで、寒地土研の方や北大の先生の勉強会を開催するというのはいかがか。以前、名

古屋にいた時、月一回程度の頻度でイブニングセミナーというものが開催されていた。時々行くだけでも CPD が貯まるので、そのようなイベントを企画するのはどうでしょうか？

【渋谷技術士】

水工部会では部会のたびに CPD の証明を出しています。

【村瀬技術士】

防災教育ワーキングということであれば、ちょうど活動を開始してから、あと数年で 10 年になります。H28 年度は、今後の活動展開を考えて、10 年を区切りとした目標を立てたうえで、その目標に向かって取組を進めていくのが良いのではないかと考えています。

今後は、これまで以上にコンテンツの充実を図るとともに、女性の視点を取り入れた防災教育の在り方について、工夫していこうと思います。現在、実施している市民対象セミナーでは、参加者は高齢者が多いので、こうした工夫で対象者を広げ、若い人や女性に多く来てもらうことが必要なのではないかと考えています。

防災委員会の中でも各部会での課題を集めたり、他の防災活動をしている団体と繋がりながら情報発信と収集を行うなど、防災プラットフォームのようになればよいのではないかと思います。

また、今後は人口減少、超高齢社会が到来すると推計されています。都市の構造や住まい方、年齢構成が大きく変化する状況では、防災対策を見直していく必要があるのではないかと思います。今後はこのような状況に対して各部会で課題を洗い出し、その対応策などを考えて整理し、発信していくことも必要なのではないかと考えます。

最後になりますが、東日本大震災から 5 年、阪神淡路大震災からは 20 年が経過しました。既に様々な方がご検討されているかもしれませんが、もしかしたら、阪神淡路大震災をもう一度おさらいすることで、東日本大震災における今後の取り組みとして、何をすべきかというヒントを得られるのではないかと思います。

【安達技術士】

防災委員会の活動目的から照らし合わせていくと、調査研究を行い、北海道の災害を最小限にいくとめる防災のあり方を提言するというのが目的となっています。

かなり大きい目的で、世の中の防災意識が高まってきている中で、行政側もいろんなことを考えていますし、市民の方もいろいろ取り組んでいます。土木学会などでも様々な提言を出しています。そんな状況ですから、技術士会が新たに何かを提言するというのは難しくなっているかなと思います。

防災教育 WG が行っている市民向けの取り組みは、非常に大事だと思います。それは技術士として継続してやっていかないといけないと思いますが、何か行政に対して提言するというのは、役目としては終わっているのかなと思います。



その中で、防災に関して技術士として何か社会貢献をしていかないといけないと考えると、各自の技術の研鑽というものが一番なのかなと思います。防災委員会で得た技術を通じてそれぞれのフィールドで、社会貢献をしていくというのが我々の使命なのかなと考えています。



私は、今年から交通部会の会長をやっていますが、今後の活動をどうしていくかという悩みがあります。交通部会の活動として、先生を呼んで講演していただいただけなく、テーマを決めてディスカッションでもしましょうかという話もあります。そのような活動を通じて、技術の研鑽に努めていく、というあり方でもいいのかなと思います。自分のフィールドに戻ったときに、それを技術力として社会に還元していくというあり方でもいいのかなと考えています。

【清水技術士】

最新のトピックスをタイムリーに情報を貰えると得た気分になるというのが一つあります。もう一つは、現場の技術力の向上という意味で現場の見方、フィールドの見方、ツボみたいなのをたくさん経験されている方から伝承して頂ける、そんな活動があれば参加しがいがあると思いました。

もう一つ、人脈を広めたい、ネットワーク作りというところもあったので、あえてそれに特化した



活動をやってみてもいいのかなと思います。お酒を飲むと仲良くなれますよということではなく、ネットワーク作りをお手伝いしますよという、あえてそういう活動をするのもいいのかなと思います。どんな活動でも、技術者と市民と行政が参加して良かったなというような活動があれば、いいなと思っています。

【小林技術士】

技術士の社会貢献とよく言われていますが、本当に社会貢献というのは市民に向けた活動だけが社会貢献なのかなと思っています。本来の技術士というのは、日々の仕事の中で社会貢献をしているはずですけど、一般の方にはあまり分からない。昔は無かったけれど今の時代は、各機関や団体、自治

体などで防災情報や提言などを出していたり、マスコミとかもよく取り挙げていたり、いろんなところに多種多様の情報がいっぱいあります。我々も発信することは大事ですけど、これが本当の役割なのか、ということをおぼろげに確認したり再認識したりする必要があるのではないかと感じています。

防災教育 WG の方はかなり積極的に活動されていますが、これらの活動が我々の本業にフィードバックできる仕組みがあると担い手も増えていったり、活動も活発化していくのではないかと考えています。防災の活動と本業とがうまくサイクル化ができないかと考えていました。

【司会】

富山の全国大会では、防災教育を一回をやったら CPD を何点かもらってもいいのではないかとこの話がありましたね。

【小林技術士】

富山の全国防災連絡会議の中で、CPD とか表彰をしたらいいのではないかとこの話がありました。実現するには時間がかかるかも知れません。



【渡辺技術士】

一般の人たちと技術士の間には、技術レベルに関するギャップがあるのではありませんか。市民は、明日地震が起きたらどうすべきかを聞きたいのかと思います。

【司会】

エンジニアはどうしてもメカニズムだとか、対策だとかといった話をしたいのですが、一般の人たちは、地震が起きたら自分たちはどうしたらよいかということを知りたい。ただ、そこだけ話すと内容のないものになってしまうので、そこを上手く埋めて相手の聞きたいことを話してあげる必要があります。

【渡辺技術士】

市民もいろいろな人がいるので、全員を満足させるというのはできません。その中の何割かが興味を持って聞いてくれればそれはそれで良いと思います。

【司会】

防災教育のコンテンツって、元々座学で一方的に伝えたいことを伝えていたのが、ワークショップ形式を使ってみんなが参加できるような形にもトライしている。でも、それだけだと、やっていく本人が伝えたいことが伝わらないというジレンマも出てくる。

【渡辺技術士】

各部会で、一般の人たちへの伝え方も含めて、バックアップする必要があります。

【司会】

先ほど、水工部会の方が現場を歩いて言っていました、それは市民もけっこう面白いコンテンツです。川ってこんなところにこんなところにあったのかとか。それが街の防災とどんな関係があるのかという話にすれば、ある程度人も集まる。都市計画の人は、どうしてこの街がこんな作りになっているのかという話をしてくだされば、市民は結構興味を持ってくれます。

技術士って結構いろんなコンテンツを持っているんですね。

先日の防災教育ワーキングの話し合いでは、市民向けの防災講座をいざやろうとすると結構大変で、他の団体の人たちとくっついて、人を集めるところは誰かにお願いして、我々はコンテンツを提供するみたいなやりかたをすれば、ハードルが下がるだろう、という話もしていました。



【渡辺技術士】

阪神淡路大震災から 20 年経ったのですが、各団体からの提言が出尽くした後は、研究する課題が見つげにくくなりました。阪神淡路大震災だけでは活動を続けにくく、大体、5~6 年くらいが限度と感じました。その後の平穏な時期の活動テーマ設定が難しく、部会では大変苦勞していました。

非災害時には継続的に将来に向けた取り組みを考えていく時期で、東日本大震災から 5 年ですの、そろそろそういう時期に入ってくると思います。

【浅野技術士】

どこかで本業に役に立つというところは、技術士会の活動としては大切なことだと思います。防災委員会に限ったことではないですが、会員であることのメリット、技術士会に入ること活動することのメリット、差別化をどうするのか。そういうことを考えていかないといけないと思いました。

技術士の大半は、災害時は本業で非常に忙しいので、平常、アフターファイブで何ができるのか、という企画が大切だと思います。

部会活動以外に技術士が自分で何かを発信する場を設けてあげて、聞いている人は他分野についての知識が深まって、話している人は 2 倍の CPD がとれてとかいう方法をなども検討の余地があるなと思いました。

f. まとめ

【司会】

これまでの話を少しまとめてみます。

東日本大震災から 5 年がたち、継続的に実施すべき活動をじっくり考える時期にきているという話

がありました。

活動を考えていく上では、会員であることのメリット、技術士の仕事にフィードバックできる活動を考える必要があるというお話がありました。特に平常時、アフターファイブでできることはなんなのかということを考えながら社会貢献というものを考える必要がある。

例えば会員が保有する専門分野に関するスキルを、アフターファイブに発表してもらうような取り組みとかも考えられそうだという意見がありました。異分野の方の全然聞いたことのない話が聞けて、CPD もついてくる。

またアフターファイブの活動としては、人材とかネットワーク作りには特化した場があっても良いのではないのかという話もありました。

本日はご多忙の中ご参加いただきありがとうございました。



V. 写真で振り返る防災委員会の 20 年

1. 平成 7 年 3 月 15 日 北海道技術士センター座談会「阪神淡路大震災に思う」



会場風景



阪神高速 3 号 ピルツ橋台の倒壊



阪神電鉄 鉄道高架橋の破壊



神戸市三宮地区 4 階建てビルの倒壊

～この座談会の後に、北海道技術士センターで「防災研究会」の発足が決議される～

2. 平成 7 年 10 月 第 22 回技術士全国大会（札幌開催）



特別分科会 「阪神大震災から学ぶこと」

3. 平成8年5月20日 防災研究会1周年記念シンポジウム「斜面災害の予知」



会場風景



シンポジウム

4. 平成9年11月25日 地震防災に関する地域シンポジウム（函館）

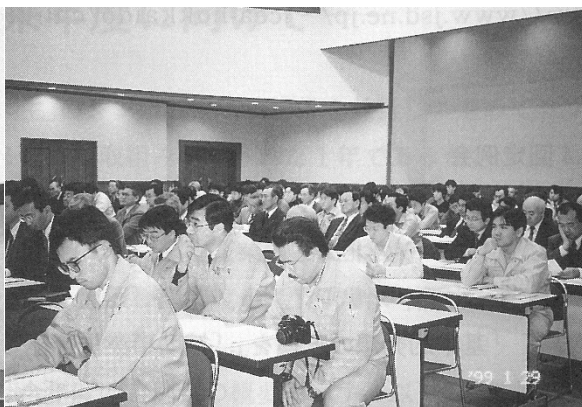


会場風景

5. 平成11年1月29日 地震防災に関する地域シンポジウム（室蘭）



高橋徹技術士の挨拶



会場風景

6. 平成 11 年 11 月 2 日 防災とまちづくりに関する講演会

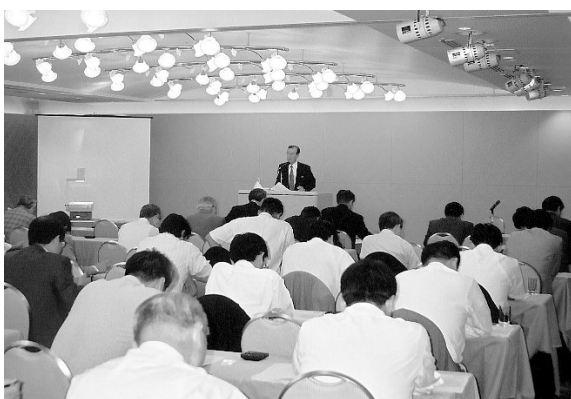


会場風景



情報交換会

7. 平成 13 年 7 月 30 日 防災研究会総会・基調講演「札幌市の防災計画について」



講演 札幌市 徳増澄夫氏



情報交換会

8. 平成 13 年 11 月 26 日 第 1 回防災セミナー 「リスクマネジメントに関する講演会」



講演 (株)インターリスク総研 府川均氏



情報交換会

9. 平成 14 年 8 月 1 日 第 2 回防災セミナー「2000 年有珠山噴火災害復興計画について」



講演 北海道総合企画部 樺澤孝氏



会場風景

10. 平成 14 年 12 月 5 日 第 3 回防災セミナー 「雪対策」



講演 北海道旅客鉄道(株) 小西康人氏



講演 応用地質(株) 増田博昭氏

11. 平成 15 年 3 月 13 日 第IV期活動報告書「都市型災害」のとりまとめ



講演 松井義孝技術士



IV期活動報告書「都市型災害」の報告

12. 平成 15 年 8 月 26 日 第 4 回防災セミナー「社会貢献する陸上自衛隊」



講演 陸上自衛隊北部方面総監部防衛部防衛課
田口孝二氏・後藤賢昭氏



情報交換会

13. 平成 15 年 10 月 20 日 情報部会 Docomo (札幌市) オペレーションセンターの見学



オペレーションセンター全景



災害時の対応方法に関する説明

14. 平成 15 年 12 月 8 日 第 5 回防災セミナー 「2003 年十勝沖地震災害調査・検証」



講演 開発土木研究所土質基礎研究室長 西本聡氏



講演 開発土木研究所構造研究室長 池田憲二氏

15. 平成 17 年 3 月 4 日 第 6 回防災セミナー 「防災とまち（ひと）づくり」



講演 地域シミュレーター長特別補佐 平野哲氏



講演 ニセコ町長 逢坂誠二氏

16. 平成 16 年防災研究会総会 講演会 「まちづくりと防災を考える」



講演 開発土木研究所道路部長 西村泰弘氏



情報交換会

17. 平成 16 年 9 月 15 日 第 31 回技術士全国大会第 4 分科会 「都市型防災～明日の防災戦略を考える」



京都大学防災研究所巨大災害研究センター長
河田恵昭氏
講演「これからの都市震災対策～
市民一人ひとりの立場から～」



パネルディスカッション

18. 平成 16 年 11 月 29 日 第 7 回防災セミナー 「災害管理とトリアージ」



講演 札幌医科大学救急センター教授
浅井康文氏



「平成 16 年度新潟県中越地震調査報告」
松井義孝技術士

19. 平成 17 年 4 月 27 日 平成 17 年防災研究会総会



開会挨拶 高宮則夫技術士



地盤部会活動報告 北健治技術士

20. 平成 17 年 9 月 16 日 第 25 回地域産学官と技術士との合同セミナー

「都市型災害に備えて-減災と技術を考える-」



講演 独立行政法人消防研究所理事長 室崎益輝氏
「減災と技術 -災害の教訓を生かす-」



パネルディスカッション

21. 平成17年11月25日 第8回防災セミナー「都市型災害に備えて-地下空間の防災を考える-」



パネルディスカッション



展示資料 豊平川氾濫シミュレーション

22. 平成18年3月8日 第9回防災セミナー「都市型災害に備えて-札幌の地下構造を考える-」



講演 北海道大学大学院 教授 鏡味洋史氏
「札幌の地下構造と地震防災を考える」



パネルディスカッション

23. 平成18年5月31日 防災研究会総会 講演会「地震災害の減災対策を考える」



情報部会活動報告



講演 飛島建設(株) R & Dセンター主任研究員
池田 隆明氏

24. 平成 18 年 8 月 29 日 第 10 回記念防災セミナー 「国土学の視点から災害を考える」



講演 財団法人国土技術研究センター理事長
大石久和氏



会場風景

25. 平成 19 年 5 月 31 日 平成 19 年防災委員会総会

講演会「阪神淡路大震災が教えたもの - 本当の教訓は何だったのか -」

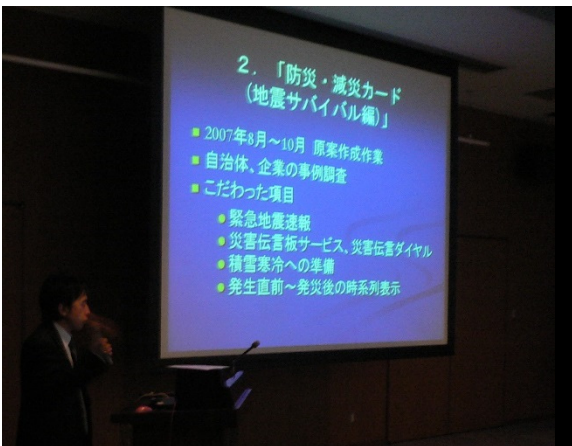


講演 北海道大学特任教授 隈本邦彦氏



質疑

26. 平成 21 年 5 月 27 日 平成 21 年防災委員会総会



情報部会活動報告 森隆宏技術士



報告「中国四川大地震から 1 年が過ぎて
～地震復興と技術協力～」 松井義孝技術士

27. 平成22年5月20日 平成22年防災委員会総会 講演会演「気象庁の津波防災への取り組み」

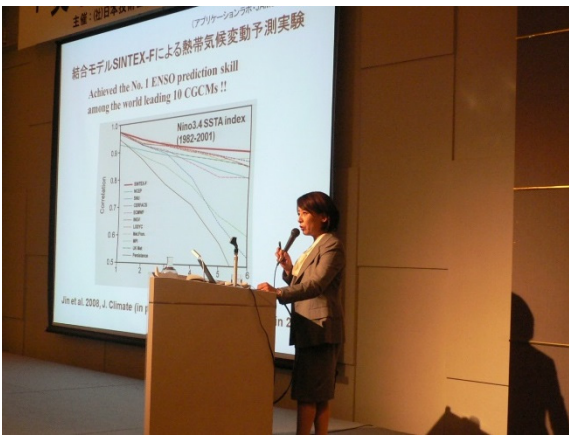


都市部会活動報告 梶澤勝則技術士



講演 札幌管区気象台地震情報官 山本剛靖氏

28. 平成22年9月7日 第20回記念防災セミナー 「災害から身を守る」



講演 (独)海洋研究開発機構 高橋桂子氏
「気象災害予測のための
シミュレーションの最前線」



講演 三重県尾鷲市防災危機管理室 川口明則氏
「地域防災力の向上を目指して
～尾鷲市の取り組みについて～」

29. 平成22年10月15～16日 水工部会 視察・見学会 「留萌川大和田遊水地、留萌ダム他」



留萌ダム



留萌港

30. 平成 23 年 5 月 18 日 平成 23 年防災委員会総会 講演会



話題提供 紺野寛技術士
「北海道南西沖地震 奥尻青苗地区
復興計画の初期対応について」



講演 (株)北海道建設新聞社 矢部育夫氏
「一建設専門紙記者から見た被災の現場」

31. 平成 23 年 7 月 2 日 防災教育ワーキング 清田区防災セミナー「震災に備えて」



講演 城戸寛技術士
「自助・共助のすすめ」



会場風景

32. 平成 23 年 7 月 26 日 地盤部会



話題提供 大津直技術士
「北海道で想定されている
500 年周期メガ津波について」



会場風景

33. 平成 23 年 10 月 26 日 第 22 回防災セミナー 「東日本大震災に学ぶ」



講演 (元) 東北地方整備局仙台河川国道事務所所長
川崎博巳氏
「東日本大震災の対応状況 ～大震災の教訓～」



講演 群馬大学大学院 教授 片田敏孝氏
「想定外を生き抜く力～大津波から生き抜いた
釜石市の児童・生徒の主体的行動に学ぶ～」

34. 平成 24 年 2 月 20 日 第 23 回防災セミナー

「世界的な北海道の地質～変動する島弧-海溝系の地質システム～」



講演 北海道大学理学部准教授 新井田清信氏



質 疑

35. 平成 24 年 5 月 15 日 平成 24 年防災委員会総会

講演会「北海道における巨大地震と大津波」



交通部会活動報告 木村和之技術士



講演 北海道大学大学院理学研究院 教授
地震火山研究観測センター長 谷岡勇市郎氏

36. 平成 24 年 10 月 13 日 防災教育ワーキング 北野防災研究会 防災街歩き



河川堤防付近の災害要因の説明



防災資材倉庫の見学

37. 平成 24 年 11 月 29 日 第 24 回防災セミナー

「北海道における防災・減災のあり方～東日本大震災の経験を踏まえて～」



「緊急支援物資のロジスティクス
-東日本大震災の記録-」



「こころのケアという観点から見る
大規模災害への備え」

38. 平成 25 年 5 月 17 日 平成 25 年防災委員会総会

講演会 「H 2 4 年度防災研修会報告」～東日本大震災の被災地を訪れて～



講演 星野利幸技術士 「研修会の概要」



講演 宮川隆雄技術士 「現地視察」

39. 平成 25 年 10 月 3 日 第 9 回全国防災連絡会議（札幌）

「巨大地震に備えて～技術士は何をすべきか、全国防災連絡会議を振り返る～」



講演 統括本部防災支援委員会 旭勝臣技術士
「東日本大震災復興支援等への取組み～
リスクコミュニケーションの必要性～」



講演 東北本部防災委員会 佐藤真吾技術士
「丘陵地造成宅地の耐震評価技術が果たした
役割と今後の地震防災対策への取組み」



講演 北海道本部防災委員会 城戸寛技術士
「市民向け防災教育を目指した取組み」



パネルディスカッション

40. 平成 25 年 10 月 4 日 第 40 回技術士全国大会（札幌）

第 4 分科会（防災）「未曾有の災害に備えて～よく知り、よく備え、正しく恐れよう～」



講演 北海道大学名誉教授 平川一臣氏
「巨大津波履歴：歩いて、観て、考える」



パネルディスカッション

41. 平成25年11月28日 交通部会 「道東における自然災害と防災のあり方に関する研究報告」



講演 北見工業大学 特任教授 大島俊之氏



会場風景

42. 平成26年7月30日 第25回防災セミナー

「誰が生徒か？先生か？～防災教育に果たすエンジニアの役割を考える～」



講演 慶応義塾大学 准教授 大木聖子氏
「これからの地震防災教育学ぶ側からアクターへ！」



パネルディスカッション

43. 平成26年11月4日 第26回防災セミナー

「宮城県に学ぶ震災復興～北海道の防災を考える～」



講演 宮城県土木部 部長 遠藤信哉氏
「宮城県における震災復興」



空知総合振興局札幌建設管理部 松本範之氏
「東松島市への災害応援派遣を振り返る」

44. 平成 26 年 11 月 14 日 防災教育ワーキング



会場風景

豊平区防災リーダー研修

「災害図上演習～平成 26 年 9 月 11 日豪雨を振り返る」



災害図上演習 DIG

45. 平成 27 年 1 月 29 日 交通部会



講演 北海道大学大学院 准教授 岸邦宏氏
「食糧供給機能に着目した
北海道の道路ネットワークについて」



会場風景

46. 平成 27 年 2 月 20 日 交通部会



講演 室蘭工業大学 准教授 有村幹治氏
「避難行動の観測とシミュレーション
～ 室蘭シェイクアウト訓練の事例～」



会場風景

47. 平成 27 年 5 月 13 日 平成 27 年防災委員会総会 講演会



新委員長挨拶 浅野基樹技術士



講演 (株)ドーコン環境事業本部 田近淳氏
「平成 26 年広島災害からみた北海道の土砂災害」

48. 平成 27 年 8 月 5 日 水工部会

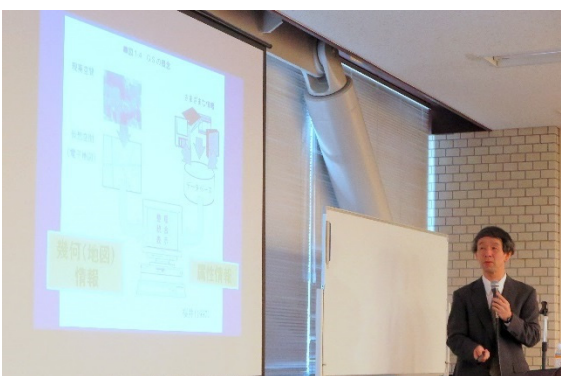


講演 中本篤嗣技術士
「高感度カメラを用いた河川流量観測」



講演 吉崎昌彦技術士
「遊水地の管理計画を踏まえた遊水地計画」

49. 平成 27 年 8 月 25 日 第 27 回防災セミナー 「防災の基本は地形を知ること」



東京大学空間情報科学研究センター長教授 小口高氏
「デジタル地理情報の地形学と土砂災害への応用」



北海道地図 (株)開発企画室 室長 関洋祐氏
「防災マップにおける地図表現と手法」

防災委員会 活動概要(H7～H27)

1. 防災委員会（旧防災研究会）の設立背景

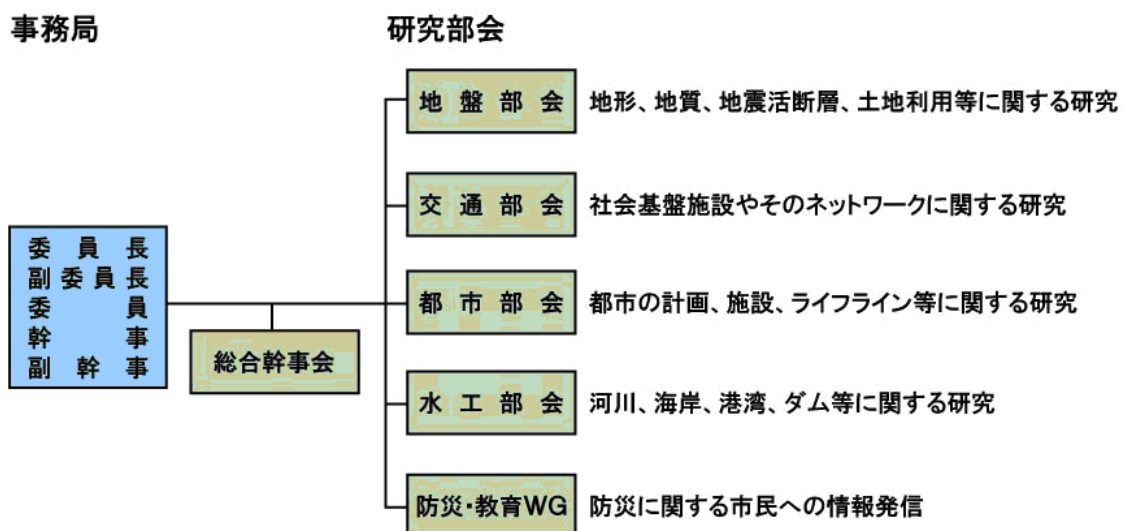
防災委員会は、平成7年の阪神・淡路大震災を契機として全国本部に先駆けて、前身である防災研究会として同年5月29日に発足しました。平成19年4月に研究会から実行委員会への昇格に伴い、防災委員会として活動を継続しています。

2. 防災委員会の活動目的

科学技術者の集まりである公益社団法人日本技術士会北海道本部の会員（会友も含む）で、防災に関する諸問題を調査研究し、北海道の災害を最小限に食い止める防災体制や防災型国土のあり方などを提言するとともに、災害発生地域への技術支援および情報提供を目的とする。

3. 防災委員会の活動組織

- ①事務局は会全体の運営事務を行う。
- ②研究部会は、防災に関する各々の部会の専門事項を研究する。
- ③総合幹事会は、研究部会の連携及び調整及びとりまとめを行う。
- ④総合幹事会の組織内に防災教育WGを設置し、市民への情報発信を行うとともに、各研究部会や事務局活動を支援する。



4. 防災委員会の活動概要

- ①防災に関する情報及び研究活動を行う。事務局は会全体の運営事務を行う。
- ②発足した平成7年～8年では、防災研究会の5分科会（情報系・地盤系・交通系・都市系・水工系）に関する分科会防災講演会を積極的に実施（計7回開催）した。

- ③平成9年5月に『技術士からの提言－地震災害に備えて』及び本書のダイジェスト版『技術士からの27の提言』を出版した。
- ④本書を用いて北海道内各地で講演シンポジウムを開催し、各自治体の防災・都市計画活動のサポートを行った。
- ⑤平成13年から「都市型防災」をテーマとして取り組み、「第1回防災セミナー」を開始するとともに、平成16年9月の第31回技術士全国大会（札幌）第4分科会（防災）を開催・運営し、札幌宣言を提言した。
- ⑥札幌宣言で提言した「第1回全国防災連絡会議」を翌年9月に札幌で開催・運営した。
- ⑦「都市型防災－減災技術と情報発信－」をテーマに、『都市型災害に備えた防災・減災対策』を平成21年3月に発刊、『防災・減災カード』の作成・配布を平成19年11月から開始、市民を対象とした『防災教育セミナー』『防災リーダー研修』を平成21年から開催している。
- ⑧平成23年度から、「東日本大震災を教訓とした北海道の防災」をテーマに研究活動を行っている。
- ⑨平成25年9月に「東日本大震災を教訓とした『北海道の防災』－教訓と提言－」（「よく知り」・「よく備え」・「正しく恐れる」ために）及び市民向けに分かり易い「－地震災害に関するQ&A集－」を発刊した。
- ⑩本書「－教訓と提案－」「－地震災害に関するQ&A集－」の内容について、同年10月4日開催・運営した第40回技術士全国大会（札幌）第4分科会（防災）にて発表した。

5. 防災委員会の活動詳細

■第Ⅰ期（H7～H8年度） 「地震防災」をテーマに設定

- ・「地震災害に備えて」を発刊（平成9年5月、240ページ）

【目次】 ●発刊にあたって

- 第1章 防災研究会の概要
- 第2章 災害情報の共有化に向けて
- 第3章 地震による地盤災害の予防を目指して
- 第4章 災害に強い交通ネットワークへの提言
- 第5章 積雪・寒冷地における安全なまち（都市）づくり
- 第6章 北海道における巨大地震と河川総合防災のあり方
- あしがき
- 執筆者並びに協力者一覧

- ・「技術士からの27の提言（ダイジェスト版）」を発刊 ～全国的にも大きな反響あり～

- 情報系部会：災害情報の共有化について（6提言）
- 地盤系部会：地震による地盤災害の予防を目指して（5提言）
- 交通系部会：災害に強い交通ネットワークの提言（6提言）
- 都市系部会：積雪寒冷地における安全安心なまちづくり（4提言）
- 水工系部会：防災拠点としての河川の活用（6提言）

■第Ⅱ期～第Ⅲ期（H9～H12年度）

- ・全道ブロックでシンポジウムを開催（提言書を基に、6回開催：札幌・函館・帯広・室蘭・奥尻・札幌）

■第Ⅳ期～第Ⅴ期（H13～H16年度） 「都市型防災」をテーマに設定

・ 防災に関する講演会を「防災セミナー」に名称変更して再開（平成13年から開始）

※H13～H27年度：27回・2,404名

・ 「都市型防災」を発刊（平成15年3月）

- 【目次】 ● 1. 活動の趣旨について ● 2. 各部会の活動報告
● 3. （社）日本技術士会の災害対応への取り組み ● 4. 防災研究会活動報告
● あとがき ● 組織図

・ 「都市型災害に備えて- いま、都市が危ない -」を発刊（平成17年4月）

- 【目次】 ● 発刊にあたって
● 第1章 いま、都市が危ない ● 第2章 都市型防災とは
● 第3章 これからの都市型防災 ● 第4章 技術士からの提言
● あとがき ● 組織図

・ 第31回技術士全国大会（札幌）第4分科会（防災）の開催企画・運営

日時：平成16年9月15日（水）9：30～ 場所：ロイトン札幌

[第1部 基調講演]

『これからの震災対策- 市民一人ひとりの立場から - 』

阪神淡路大震災記念/人と防災未来センター長 河田 恵昭 氏

[第2部 パネルディスカッション] テーマ：『都市防災- 明日の防災戦略を考える -』

[パネリスト] 北海道大学大学院工学研究科助教授 岡田 成幸 氏
東京いのちのポータルサイト副理事長 山口 豊 氏
都市災害に備える技術者の会副理事長 山田 俊満 氏

[アドバイザー] 阪神淡路大震災記念/人と防災未来センター長 河田 恵昭 氏

[コーディネーター] 防災研究会 会長 高宮 則夫 氏

◆札幌宣言

- ・ 防災特別委員会を常設委員会とし、全国各支部との防災ネットワークを強化・構築する。
- ・ 2005年（翌年）、北海道技術士センター防災研究会の活動10年を記念し、（仮称）「全国防災連絡会議」を札幌で開催する。

■第Ⅵ期～第Ⅷ期（H17～H22年度） 「都市型防災 - 減災技術と情報発信 -」を踏まえて活動

・ 第1回全国防災連絡会議の開催企画・運営（平成17年9月16日、テーマ：「都市型災害に備えて- 減災と技術を考える -」）

※第10回地域産学官と技術士の合同セミナー及び防災研究会設立10周年記念事業の共同開催

・ 「都市型災害に備えて- 防災から減災へ -」を発刊（平成19年3月）

- 【目次】 ● 巻頭言 ● 1. 各部会の活動報告
● 1-1 情報系部会 ● 1-2 地盤系部会 ● 1-3 交通系部会
● 1-4 都市系部会 ● 1-5 水工系部会
● 2. 「防災から減災へ」-第Ⅵ期防災セミナーを振り返る-
● 3. 事務局の活動報告 ● あとがき ● 組織図

・『防災・減災カード』を作成・配布（平成19年11月から開始） ※平成23年10月、平成H25年9月に一部改定

【構成】 ●緊急地震速報だ！ ●グラッときたら（屋内編） ●グラッときたら（屋外編）
●ゆれがおさまったら ●災害用伝言ダイヤル ●災害用伝言板サービス
●災害時の備忘録 ●救助活動の豆知識(1) ●救助活動の豆知識(2)
●積雪寒冷への準備 ●日頃からの準備

・市民を対象とした『防災教育セミナー』『防災リーダー研修』等を開催（平成21年から開始）

※防災教育WGメンバー9名が中心となって活動（H21：2回・85名、H22：1回・17名、H23：7回・497名、H24：8回・388名、H25：6回・273名、H26：7回・300名、H27：2回・187名、計33回・1,747名）

※主なセミナー内容： 「東日本大震災と緊急地震速報」 「札幌直下型地震が起きたら」
「清田区の防災対策について」 「自助・共助のすすめ」
「近年の地震災害と気象災害」 「札幌市の避難所計画」

■第Ⅸ期～第Ⅹ期（H23～H26年度）「東日本大震災を教訓とした北海道の防災」をテーマに設定
・北海道本部と一体となって取り組み、防災委員会がエンジン役として活動

【取り組み方針】

- (1) 東日本大震災を教訓とした「北海道の防災」について取り組む
- (2) 防災・減災に向けた社会貢献を行う
- (3) 「技術士からの提言」（提言書）を取りまとめる
- (4) 防災委員会がエンジン役として総括調整を行う

・「東日本大震災を教訓とした『北海道の防災』—教訓と提言—」（「よく知り」・「よく備え」・「正しく恐れる」ために）を発刊（平成25年9月）

【構成】 ●Ⅰ. 「よく知る」

- I-1. 東日本大震災等の巨大地震・津波災害の被害と発生メカニズム
- I-2. 北海道における地震・津波災害と発生メカニズム
- I-3. 北海道において想定される地震・津波災害について

●Ⅱ. 「よく備え」・「正しく恐れる」

- II-1. 各団体からの提言類
- II-2. 東日本大震災等からの教訓・提言
- II-3. 市民が「よく備え」・「正しく恐れる」ために
- II-4. 技術士の役割

・「東日本大震災を教訓とした『北海道の防災』—地震災害に関するQ&A集—」を発刊（平成25年9月）

【構成】 ●「地震のしくみ」 ●「地震の被害」 ●「災害の教訓」

●「地震に備える」 ●「発災時（地震だ!）」 ●「避難」 ●「冬の災害」

※北海道本部の関連する各委員会・研究会の代表者から構成される「東日本大震災プロジェクト実行委員会」を立ち上げ（3回開催）、“—教訓と提言—”を審議

・第9回全国防災連絡会議の開催企画・運営（平成25年10月3日、テーマ：「巨大地震に備えて～技術士は何をすべきか、全国防災連絡会議を振り返る～」）

・ 第40回技術士全国大会（札幌）第4分科会（防災）の開催企画・運営（テーマ：「未曾有の災害に備えて～よく知り、よく備え、正しく恐れよう～」）

- ・ 日時：平成25年10月4日（金）9：30～ 場所：ロイトン札幌
- ・ 基調講演：「巨大津波履歴：歩いて、観て、考える」北海道大学名誉教授 平川一臣氏
- ・ パネルディスカッション：
 - ・ コーディネーター：高宮則夫氏（北海道本部防災委員会委員長）
 - ・ パネリスト： 中嶋幸夫氏（統括本部防災支援委員会委員）
 吉川謙造氏（東北本部本部長）
 石川浩次氏（近畿本部 防災支援委員会委員長）
 浅野基樹氏（北海道本部防災委員会副委員長）
- ・ アドバイザー：平川一臣氏（北海道大学名誉教授）

※本全国大会にて、「東日本大震災を教訓とした『北海道の防災』－教訓と提言－」と「－地震災害に関するQ&A集－」を発表

■ 第XI期～（H27年度～） 「東日本大震災を教訓とした北海道の防災」のテーマを継続

- ・ 「防災研究会/防災委員会20周年記念誌」を発刊（平成28年4月）

6. 防災委員会（旧防災研究会）総合幹事会 歴代メンバー

【敬称略】	防災研究会←→防災委員会													
	H7~H8	H9~H10	H11~H12	H13~H14	H15~H16	H17~H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
防災研究会・会長 防災委員会・委員長	能登 繁幸													
防災研究会・副会長 防災委員会・副委員長	大橋 猛	大島 紀房												浅野基樹
防災研究会・幹事長 防災委員会・幹事長		松井 義孝			富澤 幸一									浅野基樹
防災研究会・副幹事長 防災委員会・副幹事長		柴田 悟	林 宏親	林 宏親	城戸 寛	城戸 寛	城戸 寛	林 宏親	小林 正明	小林 正明				小林 正明
防災研究会・副幹事長 防災委員会・副幹事長		小林 正皓	林 宏親	林 宏親	林 宏親	林 宏親	小林 正明	小林 正明	小林 正明	大浦 宏照				大浦 宏照
防災委員会・参与		清水 誠一												
防災委員会・委員		田川 輝昭												高宮 則夫
地盤部会・会長			高橋 輝明					北 健治						榎本 義一
地盤部会・幹事		二ツ川 健二		北 健治					河村 巧					
交通部会・会長		花田 真吉				桑田 雄平				木村 和之				安達 幸弥
交通部会・幹事														中川 泰孝
都市部会・会長		高橋 徹男								花澤 勝則				星野 利幸
都市部会・幹事		高宮 則夫			川上 忠義									伊藤 仁
水工部会・会長	井出 康郎		立石 彰		花澤 勝則									渡辺 洋一
水工部会・幹事					瀬川 明久					中林 一				渡辺 敏也
情報部会・会長														福間 博史
情報部会・幹事														福間 博史
気象・情報WG・窓口														森 隆広
防災・教育WG・リーダー														森 隆広
														金田 安弘
														城戸 寛

防災委員会 活動年表(H7～H27)

防災研究会／防災委員会 年表(1995[平成7]年～2015[平成27]年)		防災研究会／防災委員会			情報系部会／情報部会	地盤系部会／地盤部会	交通系部会／交通部会	都市系部会／都市部会	水工系部会／水工部会	防災教育WG		
年度	●総会	●総合幹事会など	●防災セミナーなど	●研究成果/講演企画・運営など								
平成7年度 (1995年度) 【※平成7年 (1995年)1月 17日(火) 阪 神・淡路大震 災】	05/29 ○防災研究会「発足 総会」 ・第1ワシントンホテ ル3F「ラベンダー」 ・特別講演1「北海 道南西沖地震～阪 神淡路大震災を考 えるー防災国土構造へ の転換をー」北海道 開発局情報管理室 長 大橋猛氏 ・特別講演2「兵庫 圏南部地震における 活断層調査とヘリコ プターの役割」 ①「活断層の空中 (放射線・磁気)探査 について」(株)エー スヘリコプター空中探 査技術研究所長 奥 野孝晴氏 ②「ヘリコプターの 役割と今後の災害に 向けて」(株)エー スヘリコプター運航部技 術審査課長 似内陽 一氏 ・参加者100名	○総合幹事会 ・各部会主催講演会 の開催について ・各部会の調査研究 の内容について ・計5回開催	07/03 ○第1回分科会講演会(地盤系分科会主催) ・KKR札幌 ・講演「空中写真による活断層の認定と実例」北 海道立地下資源調査所環境資部長 山岸宏光 氏 ・報告「沖積平野の地盤と液状化について(液状 化の予測図と事例)」ニッ川健二氏(北海道土質 コンサルタント(株))、齊藤和夫氏(基礎地盤コン サルタンツ(株)) ・参加者65名	09/06 ○【大会企画】「第22回技術士全国 大会(札幌)特別分科会」 ・札幌後楽園ホテル ・テーマ「阪神大震災から学ぶこ と」 ・パネルディスカッション ・コーディネーター:能登繁幸氏(北海 道開発局開発土木研究所) ・パネリスト:高橋輝明氏(北海道開 発コンサルタント(株))、伊藤雅夫 氏(日本交通技術(株))、木村正彦 氏(日本原燃(株))、杉井謙一氏 (株)神戸製鋼所)、松原宏一氏 (松原技術士事務所)、小野武彦氏 (清水建設(株))	5月～3 月 ○情報系分科会会議 ・分科会講演会の内容につ いて ・調査研究テーマについて ・5回開催	5月～3 月 ○地盤系分科会会議 ・分科会講演会の内容につ いて ・調査研究テーマについて ・5回開催	5月～3 月 ○交通系分科会会議 ・分科会講演会の内容につ いて ・調査研究テーマについて ・5回開催	5月～3 月 ○都市系分科会会議 ・分科会講演会の内容につ いて ・調査研究テーマについて ・5回開催	5月～3 月 ○水工系分科会会議 ・分科会講演会の内容につ いて ・調査研究テーマについて ・6回開催			
			09/04 ○第2回分科会講演会(交通系分科会主催) ・かでの2・7 ・講演1「道路防災を考える～札幌市の現状と課 題～」札幌市道路課 城戸寛氏 ・講演2「被災後半年を経過した神戸周辺の交 通実態報告～現地派遣技術者の実感～」飛鳥建 設(株) 柴田登氏 ・参加者65名		11/06 ○第3回分科会講演会(情報系分科会主催) ・かでの2・7 ・パネルディスカッション「災害時の情報と技術者 との係わりについて」 ・コーディネーター:加治屋安彦氏(防災研究会地盤 系分科会会長) ・パネリスト:加藤誠輝氏(小針土建(株)常務取 締役)、北田義孝氏((株)札幌エレクトロニクスセ ンター事務局次長)、小嶋富男氏(NHK札幌放送 局放送部副部長)、佐竹正治氏((財)日本気象協 会北海道本部調査部長) ・参加者70名	11/06 ○第3回分科会講演会運営 (情報系分科会主催)	07/03 ○第1回分科会講演会運営 (地盤系分科会主催)	09/04 ○第2回分科会講演会運営 (交通系分科会主催)	01/26 ○第4回分科会講演会運営 (都市系分科会主催)	04/10 ○第5回分科会講演会運営 (水工系分科会主催)		
			11/06 ○第3回分科会講演会(情報系分科会主催) ・かでの2・7 ・パネルディスカッション「災害時の情報と技術者 との係わりについて」 ・コーディネーター:加治屋安彦氏(防災研究会地盤 系分科会会長) ・パネリスト:加藤誠輝氏(小針土建(株)常務取 締役)、北田義孝氏((株)札幌エレクトロニクスセ ンター事務局次長)、小嶋富男氏(NHK札幌放送 局放送部副部長)、佐竹正治氏((財)日本気象協 会北海道本部調査部長) ・参加者70名									
			01/26 ○第4回分科会講演会(都市系分科会主催) ・かでの2・7 ・講演1「阪神淡路大震災の現地状況並びにそ の後の動向について」北海道開発コンサルタント (株) 桑田雄平氏 ・講演2「札幌市の防災対策の取り組みにつ いて」札幌市消防局防災部 堀義文氏 ・講演3「神戸市の上下水道被災・復旧状況等 について」日本下水道事業団北海道総合事務所 高橋徹男氏 ・参加者51名									
			H8.04/ 10 ○第5回分科会講演会(水工系分科会主催) ・かでの2・7 ・講演1「地震津波特性と防災対策について」 ①「津波災害特性について」北海道開発土木 研究所環境水工部長 水野雄三氏 ②「後志・檜山高潮対策事業の概要について」 北海道土木部河川計画係長 野坂俊夫氏 ・講演2「阪神淡路大震災の復興計画における 河川の役割」ハシフィックコンサルタンツ(株)震災 復興部 高尾浩氏 ・参加者70名									

年度	防災研究会／防災委員会				情報系部会／情報部会	地盤系部会／地盤部会	交通系部会／交通部会	都市系部会／都市部会	水工系部会／水工部会	防災教育WG	
	●総会	●総合幹事会など	●防災セミナーなど	●研究成果／講演企画・運営など							
平成8年度 (1996年度)	05/20	○H8年度防災研究会「総会」 ・後楽園ホテル ・1周年記念特別シンポジウム「斜面防災の予知」 ・コーディネーター：大島紀房氏(防災研究会副会長) ・ハネリスト： ・「斜面不安定化への予兆現象」横山俊治氏(川崎地質(株)技術研究所) ・「岩盤斜面の不安定化例」藤藤正俊氏(日本工営(株)大阪支店) ・「地震時における斜面崩壊」横田寛氏(株)構研エンジニアリング	○総合幹事会 ・第1期(H7～H8)活動報告集の発刊について ・ホームページ開設について ・第2回合同分科会講演会(交通系・都市系)の開催について ・「技術士からの提言」の編集・とりまとめについて ・計5回開催	○「地方公共団体職員と技術士との合同セミナー」(日本技術士会北海道支部主催)の参加支援 ・釧路市観光国際交流センター ・テーマ「地震に強い「まち」づくり」 ・講演「震災における特命事項～想定外事項の対応について～」和泉昌裕氏(北海道開発局建設部道路計画課開発専門官) ・話題提供(防災研究会からの参加のみ記載) ・コーディネーター：能登繁幸氏(防災研究会会長) ・ハネリスト： ・「地盤の液化化被害と予測」齊藤和夫氏(地盤系部会) ・「防災と情報の関わり」加治屋安彦(情報系部会) ・「地震被害の予測と軽減」木村和之(交通系部会)	○情報系分科会会議 ・第1期(H7～H8)活動報告書「技術士からの提言—地震災害に備えて—」の作成・とりまとめ ・ダイジェスト版「技術士からの27の提言」の作成・とりまとめ ・テーマ「災害情報の共有化に向けて」	○地盤系分科会会議 ・第1期(H7～H8)活動報告書「技術士からの提言—地震災害に備えて—」の作成・とりまとめ ・ダイジェスト版「技術士からの27の提言」の作成・とりまとめ ・テーマ「地震による地盤災害の予防を目指して」	○交通系分科会会議 ・第1期(H7～H8)活動報告書「技術士からの提言—地震災害に備えて—」の作成・とりまとめ ・ダイジェスト版「技術士からの27の提言」の作成・とりまとめ ・テーマ「災害に強い交通ネットワークへの提言」 ・6回開催	○都市系分科会会議 ・第1期(H7～H8)活動報告書「技術士からの提言—地震災害に備えて—」の作成・とりまとめ ・ダイジェスト版「技術士からの27の提言」の作成・とりまとめ ・テーマ「積雪寒冷地における安全なまちづくり」	○水工系分科会会議 ・第1期(H7～H8)活動報告書「技術士からの提言—地震災害に備えて—」の作成・とりまとめ ・ダイジェスト版「技術士からの27の提言」の作成・とりまとめ ・テーマ「北海道における巨大地震と河川総合防災のあり方」		
		○「寒冷地における斜面災害」高橋輝明氏(北海道開発コンサルタント(株)) ・参加者300名		○第1回合同分科会講演会(地盤系・水工系・情報系の3分科会合同主催) ・かでの2・7 ・講演 ・「ハザードマップ整備に関する検討」齊藤和夫氏(地盤系分科会) ・「地盤災害予測評価システムの検討」北健治氏(地盤系分科会) ・「道内の地震災害と堤防の耐震性について」佐藤謙司氏(水工系分科会) ・「情報系専門部会の活動とわらわら」加治屋安彦氏(情報系分科会) ・「災害時における情報と課題」根本榮一氏(情報系分科会) ・「防災と情報の関わり」中山清一氏(情報系分科会) ・参加者70名							
				○第2回合同分科会講演会(交通系・都市系の2分科会合同主催) ・かでの2・7 ・講演 ・「神戸の500日」柴田登氏(都市系部会) ・「災害に強い交通ネットワークの提言」～札幌圏を例とした大都市周辺の交通ネットワーク～ ①「緊急輸送路としての内環状の現状と課題」木村和之氏(交通系部会幹事) ②「市民の防災意識に関するアンケート調査」岡田正之氏(交通系部会) ③「総合ネットワークへの提言」城戸寛氏(交通系部会) ・積雪寒冷地における安全・安心なまちづくり 太田清澄氏(都市系部会) ・参加者40名		○第1回合同分科会講演会運営(地盤系・水工系・情報系の3分科会合同主催)	○第1回合同分科会講演会運営(地盤系・水工系・情報系の3分科会合同主催)	○第2回合同分科会講演会運営(交通系・都市系の2分科会合同主催)	○第2回合同分科会講演会運営(交通系・都市系の2分科会合同主催)	○第1回合同分科会講演会運営(地盤系・水工系・情報系の3分科会合同主催)	
平成9年度 (1997年度)	05/28	○H9年度防災研究会「総会」 ・後楽園ホテル ・特別シンポジウム「技術士からの提言—地震災害に備えて—」 ・報道機関：一般紙・業界紙、TV放映(複数社) ・報告・ディスカッション ・「災害情報の共有化に向けて」加治屋安彦氏(情報系部会) ・「地震による地盤災害の予防を目指して」高橋輝明氏(地盤系部会) ・「災害に強い交通ネットワークへの提言」花田真吉氏(交通系部会) ・「積雪寒冷地における安全なまちづくり」高橋輝明氏(都市系部会) ・「北海道における巨大地震と河川総合防災のあり方」瀨川明久氏(水工系部会) ・参加者280名	○総合幹事会 ・「技術士からの提言」を受けた地域シンポジウム開催(道南・道東)について ・地域シンポジウムのテーマと派遣メンバーについて ・計4回開催	○「地震防災に関する地域シンポジウム」(道南) ・地震災害に備えて 技術士からの27の提言— ・ホテル法華クラブ函館 ・講演 ・「災害情報の共有化に向けて」金田安弘氏(情報系部会) ・「地震による地盤災害の予防を目指して」ニッ川健二氏(地盤系部会幹事) ・「災害に強い交通ネットワークへの提言」藤井勝氏(交通系部会) ・「積雪寒冷地における安全なまちづくり」高橋輝明氏(都市系部会) ・「北海道における巨大地震と河川総合防災のあり方」瀨川明久氏(水工系部会) ・参加者120名	○情報系部会 ・地域シンポジウム開催支援 ・調査研究の情報収集	○地盤系部会 ・地域シンポジウム開催支援 ・調査研究の情報収集	○交通系部会 ・地域シンポジウム開催支援 ・調査研究の情報収集	○都市系部会 ・地域シンポジウム開催支援 ・調査研究の情報収集	○水工系部会 ・地域シンポジウム開催支援 ・調査研究の情報収集		
			○「地震防災に関する地域シンポジウム」(道東) ・十勝プラザ ・全体テーマ「被害想定～大地震被害の具体像を知る～」 I 道東6市防災対策研修会 ・一地震災害に備えて 技術士からの27の提言— II 防災シンポジウム ・基調講演「わが身とわが町・わが国をまもるために」北海道工学部助教授 岡田成幸氏 ・パネルディスカッション「地震災害に対する自治体・住民の対応方法・心構えについて」 ・ハネリスト参加支援：北健治氏(地盤系部会)、奈良義明氏(情報系部会)、太田清澄氏(都市系部会) ・参加者300名	●第1期(H7～H8)活動報告書「技術士からの提言—地震災害に備えて—」発刊 ●ダイジェスト版「技術士からの27の提言」発行							

年度	防災研究会／防災委員会				情報系部会／情報部会	地盤系部会／地盤部会	交通系部会／交通部会	都市系部会／都市部会	水工系部会／水工部会	防災教育WG						
	●総会	●総合幹事会など	●防災セミナーなど	●研究成果／講演企画・運営など												
平成10年度 (1998年度)	OH10年度防災研究会「総会」	○総合幹事会 ・H10事業計画について 「技術士からの提言」を受けた地域シンポジウム開催(道央)について ・防災アンケートとりまとめについて ・計5回開催	01/29 02月	○「地震防災に関する地域シンポジウム」(道央) ・室蘭市建設会館 ・講演「地震災害に備えて－技術士からの27の提言－」中山清一氏(情報系部会)、齊藤和夫氏(地盤系部会)、山陰修氏(交通系部会)、高橋徹男氏(都市系部会長) ・参加者170名 ○「地震防災に関する地域シンポジウム」(奥尻島懇話会) ・奥尻島 ・「地震災害に備えて－技術士からの27の提言－」	01/25 03/01	●「防災アンケート調査」(道内212市町村へ協力要請) ・提言集やシンポジウム等の研究会活動の受け止め方・今後への期待など ・115市町村から回答	5月～3月	○情報系部会 ・地域シンポジウム開催支援 ・防災アンケート作成支援 ・調査研究の情報収集	5月～3月	○地盤系部会 ・地域シンポジウム開催支援 ・防災アンケート作成支援 ・調査研究の情報収集	5月～3月	○交通系部会 ・地域シンポジウム開催支援 ・防災アンケート作成支援 ・調査研究の情報収集	5月～3月	○都市系部会 ・地域シンポジウム開催支援 ・防災アンケート作成支援 ・調査研究の情報収集	5月～3月	○水工系部会 ・地域シンポジウム開催支援 ・防災アンケート作成支援 ・調査研究の情報収集
平成11年度 (1999年度)	OH11年度防災研究会「総会」	○総合幹事会 ・防災アンケート調査解析検討について ・道内防災ネットワーク構築の検討について ・計3回開催	11/02 11月	○防災研究会講演会 ・KKR札幌 ・基調講演「防災とまちづくり」三船康道氏(技術士会本部 災害対応調査委員会委員) ・話題提供1「北海道とサハリンの地震」鏡味洋史氏(北海道大学大学院教授) ・話題提供2「北海道の防災と技術士～防災アンケート結果～」松井義孝氏(防災研究会幹事長) ・参加者180名 ○「地震防災に関する地域シンポジウム」(防災とまちづくり) ・札幌市 ・「地震災害に備えて－技術士からの27の提言－」	10月	●「防災アンケート調査解析結果報告」 ・コンサルタント北海道89号にて報告	5月～3月	○情報系部会 ・防災アンケート作成支援 ・調査研究の情報収集	5月～3月	○地盤系部会 ・防災アンケート作成支援 ・調査研究の情報収集	5月～3月	○交通系部会 ・防災アンケート作成支援 ・調査研究の情報収集	5月～3月	○都市系部会 ・防災アンケート作成支援 ・調査研究の情報収集	5月～3月	○水工系部会 ・防災アンケート作成支援 ・調査研究の情報収集
平成12年度 (2000年度)	OH12年度防災研究会「総会」	○(緊急)総合幹事会 ・有珠山噴火活動状況について ・近隣自治体への防災・復興等の支援策について ○総合幹事会 ・来期構想と来期人事について ○総合幹事会 ・新規プロジェクトの発掘について	04/11 09/25 02/19 3月末	○「北東3支部技術士交流研修会(札幌)」(日本技術士会北海道支部主催)の参加支援 ・特別講演「積雪寒冷地の危機管理」能登繁幸氏(防災研究会会長) ・講演「北海道におけるITSへの取り組み」加治屋安彦氏(情報系部会長)	04/21 09/11	●「有珠山噴火に伴う技術相談窓口」開設 ・技術士会北海道支部/北海道技術士センターのホームページ内開設 ○「企画支援」地震時緊急点検集中管理システムによる模擬訓練支援(札幌市地震対策土木技術検討委員会)	5月～3月	○情報系部会 ・有珠山噴火技術相談支援 ・次期(第IV期:H13～H14)研究テーマについて ・調査研究の情報収集	5月～3月	○地盤系部会 ・有珠山噴火技術相談支援 ・次期(第IV期:H13～H14)研究テーマについて ・調査研究の情報収集	5月～3月	○交通系部会 ・有珠山噴火技術相談支援 ・次期(第IV期:H13～H14)研究テーマについて ・調査研究の情報収集	5月～3月	○都市系部会 ・有珠山噴火技術相談支援 ・次期(第IV期:H13～H14)研究テーマについて ・調査研究の情報収集	5月～3月	○水工系部会 ・有珠山噴火技術相談支援 ・次期(第IV期:H13～H14)研究テーマについて ・調査研究の情報収集
平成13年度 (2001年度)	OH13年度防災研究会「総会」 ・H12活動報告・H13活動方針 ・新組織体制採択 ・講演「札幌市の防災計画について」札幌市消防局防災部長 徳増達夫氏 ・話題提供1「スバイクタイヤ規制10年」北海道開発土木研究所交通研究室長 浅野基樹氏 ・話題提供2「都市防災と情報伝達」(株)ドーン防災対策室長 川北稔氏 ・出席者70名	○第1回総合幹事会 ・第IV期プロジェクト「都市型防災」(新規開始)、「会員」確定 ○第2回総合幹事会 ・部会研究活動報告 ・第1回防災セミナーテーマなど ○第3回総合幹事会 ・新年交流会 ・部会研究活動報告、H13活動総括 ○第4回総合幹事会 ・H14活動計画 ・H14総会講テーマなど	06/19 09/26 01/22 02/19	○「第1回防災セミナー」 ・札幌ガーデンパレス ・講演「実施検証に基づく戦略的リスクマネジメントの実践方法」(株)インテリス総研 上席コンサルタント 府川均氏 ・参加者200名	11/26	○「企画支援」地震時緊急点検集中管理システムによる模擬訓練支援(札幌市地震対策土木技術検討委員会)	5月～3月	○情報系部会 【主研究テーマ】 ・札幌市都市防災・「ニセコ・羊蹄」街道について ・雪問題勉強会、「さっぽろ光ネット21構想」について ・「スマート札幌ゆき情報実験2002」について ・部会開催:計3回	5月～3月	○地盤系部会 【主研究テーマ】 ・都市型地震による地盤災害について ・地質汚染の現状と問題点の研究 ・部会開催:計2回	5月～3月	○交通系部会 【主研究テーマ】 ・減災型防災の提案と危機管理について ・防災施設の事前評価、札幌ドームの交通対策 ・部会開催:計2回	5月～3月	○都市系部会 【主研究テーマ】 ・自立コミュニティ構造モデルプラン検討 ・部会開催:計2回	5月～3月	○水工系部会 【主研究テーマ】 ・都市型防災における河川環境と維持管理 ・IT技術の利用・異常気象・地震津波対策 ・台風・豪雨災害対策 ・部会開催:計3回
平成14年度 (2002年度)	OH14年度防災研究会「総会」 ・H13活動報告・H14活動方針 ・講演「札幌ドームの交通対策」札幌市城戸寛氏 ・出席者45名	○第1回総合幹事会 ・部会活動報告 ・第2回防災セミナー内容について ○第2回総合幹事会 ・「都市型防災」の取りまとめ ・第3回防災セミナー内容について ○第3回総合幹事会 ・H15活動計画 ・H15総会講テーマなど	06/25 11/14 02/20	○「第2回防災セミナー」 ・札幌ガーデンパレス ・講演1「2000年有珠山噴火災害復興計画について」北海道総合企画部有珠山活動災害復興対策室 参事 榎澤孝氏 ・講演2「危機迫る首都圏防災に向けて、そして三宅島では！」日本技術士会 本部災害対応調査委員会 副委員長 山口豊氏 ・参加者120名 ○「第3回防災セミナー」 ・北海道開発土木研究所 ・講演1「鉄道(JR北海道)の豪雪対策について」北海道旅客鉄道(株)鉄道事業部 構造エンジニアリング 小西康人氏 ・講演2「航空関係の豪雪対策」応用地質(株)札幌支店技術顧問 増田博昭氏 ・参加者50名 ○第IV期(H13～H14)活動報告セミナー ・札幌ガーデンパレス ・活動(報告書) ・情報系部会(加治屋安彦部会長)、地盤系部会(高橋輝明部会長)、交通系部会(桑田雄平部会長)、都市系部会(高橋徹男部会長)、水工系部会(瀬川明久部会長) ・講演「日本技術士会の防災対応」松井義孝氏(防災研究会副議長) ・参加者80名	08/01 12/05 03/13	●第IV期(H13～H14)活動報告書「都市型防災」発刊	5月～3月	○情報系部会 【主研究テーマ】 ・札幌市地域防災・市民参加、雪問題、WEBアンケート等 ・部会開催:計8回	5月～3月	○地盤系部会 【主研究テーマ】 ・災害弱者・有珠山噴火・土砂災害・地震リスク等 ・部会開催:計5回	5月～3月	○交通系部会 【主研究テーマ】 ・都市交通ビジョン・GPS・豪雪対策・冬期都市内防災等 ・部会開催:計4回	5月～3月	○都市系部会 【主研究テーマ】 ・リスク論環境問題・自然災害・GIS・札幌市防災計画等 ・部会開催:計2回	5月～3月	○水工系部会 【主研究テーマ】 ・自然災害・都市再活性化 ・界川・円山川の現地踏査(9月13日、参加者9名)等 ・部会開催:計4回

年度	防災研究会／防災委員会				情報系部会／情報部会	地盤系部会／地盤部会	交通系部会／交通部会	都市系部会／都市部会	水工系部会／水工部会	防災教育WG
	●総会	●総合幹事会など	●防災セミナーなど	●研究成果／講演企画・運営など						
平成15年度 (2003年度)	05/19 OH15年度防災研究会「総会」 ・H14活動報告・H15活動方針 ・講演「地下鉄施設の防災対策の現状」札幌市交通局 北川正彦氏 ・出席者45名	05/08 ○第1回総合幹事会 ・第V期(H15～16)体制と活動方針・総会内容について	08/26 ○「第4回防災セミナー」 ・KKR札幌 ・テーマ「社会貢献する陸上自衛隊」 ・講演1「陸上自衛隊北部方面隊の活動概要」 ・講演2「有珠山噴火災害派遣の概要」陸上自衛隊北部方面隊監部防衛部防衛課 田口孝二氏・後藤賢昭氏 ・参加者106名		5月～3月 ○情報系部会【主研究テーマ】 ・寒地シンポ2003論文報告・防災アンケート・NTT見学 等	5月～3月 ○地盤系部会【主研究テーマ】 ・ワーキング(地震・斜面・沈下・汚染・地下・活断層 等)	5月～3月 ○交通系部会【主研究テーマ】 ・豪雪と豪雨・河川氾濫都市型災害・最近の自然災害情報 等	5月～3月 ○都市系部会【主研究テーマ】 ・防災計画評価・防災体制と救援活動・提言Part2方針 等	5月～3月 ○水工系部会【主研究テーマ】 ・都市内河川の危機管理・ライフライン ・円山川・堺川現地踏査(9月4日、参加者8名) 等	
平成16年度 (2004年度)	05/20 OH16年度防災研究会「総会」 ・H15活動報告・H16活動方針 ・H16第31回技術士全国大会(札幌)第4分科会(防災)テーマ ・講演「まちづくりと防災を考える」北海道開発土木研究所道路部長 西村泰弘氏 ・出席者41名	04/26 ○第1回総合幹事会 ・H16年度事業計画・総会内容 ・H16年第31回技術士全国大会(札幌)第4分科会(防災)テーマについて	11/29 ○「第7回防災セミナー」 ・札幌ガーデンパレス ・講演「災害管理とリアージュ」札幌医科大学救急センター教授 浅井康文氏 ・報告「平成16年度新潟県中越地震調査報告」防災研究会副会長 松井義孝氏 ・報告「技術士全国大会(札幌)第4分科会報告」防災研究会副幹事長 城戸寛氏 ・参加者80名	09/15 ○【企画・運営】「第31回技術士全国大会(札幌)第4分科会」 ・ロイトン札幌 ・テーマ「都市型防災～明日の防災戦略を考える」 ・基調講演「これからの都市震災対策～市民一人ひとりの立場から～」 京都大学防災研究所巨大災害研究センター長 河田恵昭氏 ・パネリスト:高宮則夫氏(防災研究会会長) ・パネリスト:岡田成幸氏(北海道大学大学院工学研究科助教授)、山口豊氏(日本技術士会防災特別委員会副委員長)、山田俊満氏(日本技術士会近畿支部建設部会長) ・参加者134名	5月～3月 ○情報系部会【主研究テーマ】 ・防災意識の現状と課題・防災情報システムと現状課題・情報技術と防災対策 等	5月～3月 ○地盤系部会【主研究テーマ】 ・都市部地盤の災害要因・都市の拡大と地盤災害・今後の都市防災対策 等	5月～3月 ○交通系部会【主研究テーマ】 ・豪雨、豪雪と交通・交通ネットワークと防災対策・施設設備と防災対策 等	5月～3月 ○都市系部会【主研究テーマ】 ・札幌市地域防災計画への取り組み・防災体制と救援、拠点配置・都市計画と防災対策 等	5月～3月 ○水工系部会【主研究テーマ】 ・災害と都市河川の現状と課題・環境防災都市河川とは・水網都市と防災対策 等	
		04月～09月 ○H16技術士全国大会(札幌)第4分科会運営ワーキング ・計10回開催		11/06～11/09 ○【調査派遣】「日本技術士会新潟県中越地震防災会議 現場調査」北海道支部調査委員 防災研 副会長 松井義孝氏						
		10/29 ○第2回総合幹事会 ・防災セミナー内容・防災研究会10周年記念行事について		H17.4月 ●第V期(H15～H16)活動報告書「都市型災害に備えて-いま、都市が危ない-」発刊						

年度	防災研究会／防災委員会				情報系部会／情報部会	地盤系部会／地盤部会	交通系部会／交通部会	都市系部会／都市部会	水工系部会／水工部会	防災教育WG						
	●総会	●総合幹事会など	●防災セミナーなど	●研究成果／講演企画・運営など												
平成17年度 (2005年度)	04/27	OH17年度防災研究会「総会」 ・北海道開発土木研究所講堂 ・H16活動報告・H17活動方針 ・報告「都市型防災(第IV期・V期(H13～H16))活動報告」 ・参加者31名	04/06	○第1回総合幹事会 ・H17年度活動方針について	09/16	○【企画・運営】「第25回地域産学官と技術士との合同セミナー」(「第1回全国防災連絡会議」防災研究会設立10周年事業)共同開催 ・札幌ガーデンハルス2階「孔雀」 ・テーマ「都市型災害に備えて-減災と技術を考える-」 ・基調講演「減災と技術-災害の教訓を生かす-」独立行政法人消防研究所理事長 室崎益輝氏 ・パネルディスカッション ・コーディネーター:高宮則夫氏(防災研究会会長) ・パネリスト:長尾賢一氏(札幌市危機管理対策室長)、山口豊氏(日本技術士会防災特別委員会副委員長)、福岡悟氏(近畿支部防災研究会会長)、神田 重雄氏(東北支部防災研究会会長)、桑田雄平氏(防災研究会交通部会長) ・参加者152名	09/01	○第1回情報系部会(株)開発工芸社 会議室、8名 ・第2回総合幹事会報告(10周年事業までの体制、他) ・第VI期の今後の活動方針について	06/27	○第1回地盤系部会(株)地崎工業 6Fプロジェクト室、9名 ・新部会員紹介、総合幹事会報告、活動方法について、10周年記念事業について他 ・話題提供 ・「札幌圏の地盤災害リスク他」について:北健治部会長	04/04	○第1回交通部会(株)ドーコン、9名 ・事務局から示された活動案に関する意見交換(10周年記念事業、第VI期活動原案) ・交通部会の今後の活動方針に関する意見交換	08/24	○第1回都市系部会(札幌市水道局4階会議室、7名) ・総合幹事会報告 ・今後の部会活動:市民レベルへの防災文化としての展開、市民への情報提供、啓蒙活動の実施方法等 ・防災研究会10周年記念行事(地域産学官と技術士の合同セミナー)	07/15	○第1回水工部会(株)明治コンサルタンツ、6名 ・「二者構造から三者構造執行形態への移行」について ・(仮称)全国防災連絡会議札幌大会への協力体制について ・今後の水工部会会員の増強について
			07/20	○第2回総合幹事会 ・第25回地域産学官と技術士との合同セミナー開催概要について			10/19	○第2回情報系部会(北海道開発土木研究所 2階会議室、4名) ・第VI期の今後の活動方針について(各自のアイデアを基にディスカッション)	12/08	○第2回交通部会(株)ドーコン、8名 ・10周年記念事業の開催結果報告 ・研究テーマと研究体制に関する意見交換	09/16	○第2回水工部会(、4名) ・第25回産学官と技術士の合同セミナーの準備				
			06月～09月	○「第25回地域産学官と技術士との合同セミナー実行委員会・運営事務局会議」 ・計4回開催			11/25	○「第8回防災セミナー」 ・北海道開発土木研究所講堂 ・テーマ「都市型災害に備えて-地下空間の防災を考える-」 ・パネルディスカッション ・コーディネーター:西淳二氏(NPOシオテカフォーラム) ・パネリスト: ・「札幌駅前通地下歩行空間について」城戸寛氏(防災研究会幹事長) ・「豊平川氾濫シミュレーションについて」藤田睦博氏(北海道大学名誉教授) ・「都市地下空間における浸水被害と軽減対策について」戸田圭一氏(京都大学防災研究所) ・「都市地下空間における火災・爆発被害について」西田幸夫氏(東京理科大学総合研究所) ・「地下空間と人間心理」について:市原茂氏(首都大学東京心理学教室) ・参加者57名	08/24	○第3回情報系部会(北海道開発土木研究所 2階会議室、7名) ・第3回総合幹事会報告(活動体制として4案の提示、他) ・平成18年度研究活動について(ワーキンググループ移行案を採択) ・「情報発信WG」の親切を提案 ・研究課題1:日常から防災について考える仕組み(MLやブログなど)やあり方検討 ・研究課題2:道民及び技術者が役に立つ防災用語辞典(事典)づくり	11/18	○第2回都市系部会(札幌市下水道局5階会議室、8名) ・総合幹事会報告 ・第VI期防災研究会 平成18年度研究活動:ソフト的テーマへのシフト、他部会への配慮等 ・都市系部会の活動方針(案):啓蒙プログラム検討、双方向型啓蒙活動、防災コーディネーターの育成プログラム等			11/02	○第3回水工部会(株)ドーコン、7名 ・「平成17年度防災セミナー」について ・今期の研究テーマ及び活動体制について
			10/25	○第3回総合幹事会 ・部会活動報告・次年度研究テーマについて			09/16	○【企画・運営】「第25回地域産学官と技術士との合同セミナー」(「第1回全国防災連絡会議」防災研究会設立10周年事業)共同開催 ・札幌ガーデンハルス2階「孔雀」 ・テーマ「都市型災害に備えて-減災と技術を考える-」 ・基調講演「減災と技術-災害の教訓を生かす-」独立行政法人消防研究所理事長 室崎益輝氏 ・パネルディスカッション ・コーディネーター:高宮則夫氏(防災研究会会長) ・パネリスト:長尾賢一氏(札幌市危機管理対策室長)、山口豊氏(日本技術士会防災特別委員会副委員長)、福岡悟氏(近畿支部防災研究会会長)、神田 重雄氏(東北支部防災研究会会長)、桑田雄平氏(防災研究会交通部会長) ・参加者152名	11/09	○第3回地盤系部会(明治コンサルタンツ北海道支社、8名) ・総合幹事会及び10周年記念事業報告、防災セミナーテーマについて、平成18年度研究活動体制・テーマについて他 ・話題提供 ・「監視カメラの画像を利用した表層地盤の揺れ易さ評価と利用に関して」-既存施設の地震防災施設としての複合利用を考える-:須藤敦史(地崎工業) ・「湖岸斜面の崩壊に伴う段波解析について」:長瀬真央部会員 ・「地中連続壁工法の歴史と技術動向」:廣長周治部会員 ・「防災関連セミナー概要報告」:北健治部会長	02/01	○第4回水工部会(、8名) ・今期の研究テーマ及び活動体制について				
			12/14	○第4回総合幹事会 ・H18年度活動計画の方向性について			03/08	○「第9回防災セミナー」 ・ポールスター札幌 ・テーマ「都市型災害に備えて-札幌の地下構造を考える-」 ・講演「札幌の地下構造と地震防災を考える」北海道大学大学院都市防災学研究室 教授 鏡味洋史氏 ・パネルディスカッション ・コーディネーター:北健治氏(地盤系部会長) ・パネリスト:加治屋安彦氏(情報系部会長)、木村和之氏(交通系部会幹事)、川上忠義氏(都市系部会長)、瀬川明久氏(水工系部会長) ・参加者75名	2/14	○第4回情報系部会(北海道開発土木研究所 3階会議室、7名) ・第5回総合幹事会報告(#9防災セミナーH17活動報告、H18活動計画概要) ・H18研究活動について(総合幹事会における議論を受けて) ・ブログのタイトルを「北の暮らしに役立つ防災コラム&豆知識」とする ・ブログに災害年表も載せる						
			02/09	○第5回総合幹事会 ・H17年度活動報告・H18年度活動計画について						03/17	○第4回地盤系部会(明治コンサルタンツ北海道支社、12名) ・平成18年部会活動方針、防災研HP、技術士会北海道支部組織等について他 ・話題提供 ・「道北の活断層とサロベツ原野南部の地質構造について」:大津直部会員 ・「トンネルの最新技術周辺情報について」:河村巧幹事					

年度	防災研究会／防災委員会				情報系部会／情報部会	地盤系部会／地盤部会	交通系部会／交通部会	都市系部会／都市部会	水工系部会／水工部会	防災教育WG												
	●総会	●総合幹事会など	●防災セミナーなど	●研究成果／講演企画・運営など																		
平成18年度 (2006年度)	05/31	○H18年度防災研究会「総会」 ・寒地土木研究所講堂 ・H17活動報告・H18活動方針 ・講演「地震災害の減災対策を考える」飛鳥建設R&Dセンター主任研究員 池田 隆明氏 ・参加者33名	04/14	○第1回総合幹事会 ・H18年度活動方針について	05/18	○第1回情報部会(寒地土木研究会、6名) ・ブログ「北の暮らしに役立つ防災豆知識+コラム」検討	05/24	○第1回交通部会(榊ドーム、11名) ・今年度の活動方針(研究活動の方向性、部会の進め方)・全国大会に関する情報(首都圏大地震が及ぼす地方への影響) ・「WEB-GIS」の概要(地質地盤電子データの活用)、全地連「WEB-TITAN」および「GRASS GIS」について ・「植物プランクトンを利用した濾水シート型貯水池の漏水調査」長瀬真央氏(部会員)	04/27	○第1回都市部会(北4条ビルA会議室、8名) ・H18年度活動目標の設定・防災・減災への啓蒙プログラム検討 ・双方型啓蒙活動 ・防災コーディネータの育成プログラム	04/27	○第1回水工部会(榊ドーム、4名) ・平成18年度防災セミナーについて ・今期の研究テーマ及び活動体制について										
			06/29	○第2回総合幹事会 ・第10回記念セミナー開催計画について									07/19	○第2回情報部会((株)開発工営会議室、8名) ・「豊平川河川防災ステーション(札幌市)の活用」について検討・ブログ掲載内容の検討と担当を決定	06/16	【視察・見学会】「札幌市市民防災センター体験視察」 ・札幌市市民防災センター ・各防災施設見学・初期消火体験・模擬地震振動体験・煙非難体験 ・参加者10名	07/14	○第2回水工部会(榊明治コンサルタンツ、7名) ・「国土学と防災」について ・豊平川防災ステーション水工部会の提言について ・入札制度の動向について				
			09/29	○第3回総合幹事会 ・第VI期(H17~18)活動報告・第11回防災セミナー開催計画について									10/11	○第3回情報部会((株)ドローン会議室、7名) ・「動く津波ハザードマップ」デモ・ブログの内容検討・第VI期活動報告の取りまとめの方向性検討	08/22	○第2回地盤部会(北大地震火山研究観測センター・榊開発工営会議室、9名) ・新部会員自己紹介・総合幹事会報告・今年度活動方針・防災セミナーについて ・話題提供「北大地震火山研究観測センターの概要説明および施設見学」 ・「センター概要」センター長 茂木透氏 ・「地震観測研究について」 勝俣啓氏 ・「火山活動研究について」 青山裕氏	06/15	○第2回交通部会(榊ドーム、9名) ・全国大会に関する情報(大会プログラムほか) ・話題提供 ・「ベンタゴンレポートについて」今後の地球規模の気候変動 ・地域住民の手による防災マップ(北白石地区防災マップ)	06/16	【視察・見学会】「札幌市危機管理室の事前講座」 ・札幌市庁舎12階会議室 ・「札幌市の危機管理の現状と課題など」札幌市危機管理対策室 細川課長 ・参加者20名(地盤系部会交通系部会を含む)	10/19	○第3回水工部会(榊ドーム、9名) ・水工系部会構成員の確認 ・第10回記念防災セミナー・第33回技術士全国大会報告 ・第VI期活動報告取りまとめの方向性 ・第11回防災セミナーについて
			12/01	○第4回総合幹事会 ・第VII期(H19~20)研究テーマ・第12回防災セミナー開催計画について									12/05	○第4回情報部会((株)開発工営会議室、5名) ・ブログの内容検討・第VI期活動報告・第VII期活動計画の方向性検討・第12回防災セミナー講師検討・開催準備	02/16	○第3回地盤部会(榊開発工営会議室、10名) ・総合幹事会内容の報告・第IV期活動の取りまとめ・防災セミナーについて ・話題提供「エネルギー政策とメタンハイドレートに関して」能勢一之氏(部会員)	09/28	○第3回交通部会(榊ドーム、9名) ・前回の話題「ベンタゴンレポート(6月15日)」の補足説明 ・道路橋の耐震補強～最近の動向と設計施工上の留意点 ・札幌市総合防災訓練の参加報告	09/26	○第2回都市部会(北4条ビルA会議室、7名) ・体験視察及び事前講座受講を踏まえた自助・共助を検討・自主防災組織の活動調査と課題調査の方向性	01/17	○第4回水工部会(榊ドーム、11名) ・講演「複合型災害における災害情報」松岡技術士 ・第12回防災セミナー(水工・情報)について・第VII期研究活動テーマ(案)について
			02/13	○第5回総合幹事会 ・第VII期(H19~20)活動計画・H19年度総会開催計画について									02/16	○「第12回防災セミナー」 ・寒地土木研究所講堂 ・テーマ「市民への災害情報を考える」 ・講演1「複合型災害における災害情報について」一気象災害と気象情報の課題-財団法人日本気象協会北海道支社 松岡直基氏 ・講演2「北海道防災情報システムについて」北海道総務部危機対策局防災消防課 高木伸氏 ・参加者44名	03/22	○第4回地盤部会(寒地土木研究所2F会議室、9名) ・総合幹事会内容の報告・VI期活動成果報告・総会・第13回セミナーについて ・話題提供「遠心実験を用いた岩盤斜面評価」日下部祐基氏(部会員)	11/27	○第11回防災セミナー開催運営(交通系部会メイン担当、都市系部会との共催)	11/07	【視察・見学会】「札幌市南区澄川地区連合会自主防災活動の勉強会」 ・札幌市すみかわ地区センター ・「現地踏査と自主防災組織ヒヤリング」澄川地区連合会 大石昇司会長 ・参加者10名	02/16	○第5回水工部会(寒地土木研、4名) ・第VI期活動報告(案)について
			03/13	○第6回総合幹事会 ・防災委員会改組準備会・防災委員会組織体制について																		
平成19年度 (2007年度)	05/31	○H19年度防災委員会「総会」 ・寒地土木研究所講堂 ・H18活動報告・H19活動方針 ・講演「阪神淡路大震災が教えたもの-本当の教訓はあったのか-」北海道大学科学技術コミュニケーション養成ユニット特任教授 隈本邦彦氏 ・参加者64人	04/24	○第1回総合幹事会 ・北4条ビルA会議室 ・H19年度組織体制及び事業計画・H19年度総会及び第13回防災セミナー開催計画・今後の委員会活動に向けて	07/24	○第1回情報部会(北4条ビル4階A会議室、5名) ・第2回総合幹事会(7月10日)報告・H19年度部会研究活動について	05/18	○第1回地盤部会(寒地土木研究所3F会議室、13名) ・総合幹事会内容報告・部会組織確認について ・話題提供「有珠火山1853年噴火～火山活動の時系列進展シナリオ」堺幾久子氏(元部会員)	08/23	○第1回交通部会(Docon新札幌ビル3FALーム、8名) ・第VII期活動方針・総合幹事会報告・交通部会活動案 ・話題提供「新潟県中越沖地震の現地調査報告」京田英宏氏(構研エンジニアリング)	06/07	○第1回都市部会(北4条ビル4F 榊ドーム会議室、9名) ・第VII期都市部会活動方針について ・神戸市の見学会・阪神淡路以路に得たノウハウの学習・振り返りセミナー開催・「27の提言」のフォローアップ	07/20	○第1回水工部会(榊明治コンサルタンツ会議室、5名) ・第VI期活動報告・第2回総合幹事会報告・今後の活動テーマについて								
			07/10	第2回総合幹事会 ・北4条ビルA会議室 ・第3回全国防災連絡会議参加に向けて・第14回防災セミナー開催計画・今後の委員会活動に向けて	08/22	○第2回情報部会(Docon新札幌ビル3階Dルーム、8名) ・ブログ(防災豆知識+コラム)の内容と充実について・サバイバルカード作成について(第14回防災セミナー対応)	07/20	○第2回地盤部会(寒地土木研究所2F会議室、10名) ・新部会員自己紹介・総合幹事会内容報告 ・話題提供「札幌市の表層地盤の特徴について」松本和正氏(新部会員)	11/29	○第2回交通部会(Docon新札幌ビル3FDルーム、7名) ・第VII期活動方針「技術士からの「27の提言」の更新・見直し」の地域防災への取組み ・話題提供「神戸市復興状況視察調査団への参加報告」桑田雄平氏(部会長)	08/09	○第2回都市部会(北4条ビル4F 榊ドーム会議室、8名) ・第VII期都市部会の活動方針について ・話題提供「あれから12年 再び神戸の500日～私にとつての阪神・淡路大震災～」飛鳥建設 柴田登氏	10/23	○第2回水工部会(Docon新札幌ビル会議室、10名) ・第3回総合幹事会報告・第14回防災セミナーについて・過去の活動報告・今後の活動テーマについて								
			10/22	○第3回 総合幹事会 ・北4条ビルB会議室 ・第3回全国防災連絡会議報告・第14回防災セミナー開催シナリオについて	11/05	○「第14回防災セミナー」 ・札幌ガーデンバース2F「孔雀」 ・テーマ「都市型災害に備えて-今後の災害情報と防災教育を考える-」 ・講演「被害軽減に向けた災害情報のあり方について」群馬大学大学院工学研究科教授 片田敏孝氏 ・パネルディスカッション ・コーディネーター:城戸寛氏(防災委員会幹事長) ・パネリスト:隈本邦彦氏(北海道大学科学技術コミュニケーション養成ユニット特任教授)、佐々木貴子氏(北海道教育大学教育学部札幌校准教授)、加治屋安彦氏(防災委員会情報部長) ・参加者121人	10/03	○第3回情報部会(寒地土木研究所会議室、7名) ・サバイバルカード作成について(第14回防災セミナー対応)・ブログ(防災豆知識+コラム)の内容と充実について	07/27	○第13回防災セミナー開催運営(地盤部会メイン担当、交通部会との共催)	11/09~10	【視察・見学会】防災研修会(1泊2日)「神戸市復興状況視察」 ・区画整理と再開発事業の現地見学(長田区新長田、こづままちづくりセンター)・K-TECメンバーとの意見交換会 ・人と防災未来センター見学会・技術士会西日本大会第二分科会の聴講 ・参加者10名	11/05	○第14回防災セミナー開催運営(水工部会メイン担当、情報部会との共催)								
			12/19	○第4回総合幹事会 ・北4条ビルB会議室 ・第14回防災セミナー開催結果・今後の委員会活動について	02/14	○「第15回防災セミナー」 ・テーマ「都市型災害に備えて-札幌市の防災力を知る-」 【見学】 ・札幌市民防災センター ・参加者28人 【講演】 ・Docon新札幌ビル3F会議室 ・講演1「神戸市復興状況視察」飛鳥建設 柴田登氏 ・講演2「札幌市の防災計画について」札幌市危機管理対策室 堀義文氏 ・参加者49人	01/28	○第4回情報部会(北4条ビル4階会議室、6名) ・第4回総合幹事会(12月19日)報告・H20年度活動計画(活動報告書)とスケジュールについて・第VII期活動方針について	01/23	○第3回地盤部会(寒地土木研究所1F会議室、10名) ・総合幹事会内容報告・今後の部会活動について ・話題提供 ・「パネルの地震災害について」北健治氏(部会長) ・「地球温暖化とエネルギー」について:能勢一之氏(部会員)	11/29	○第3回都市部会(北4条ビル4F 榊ドーム会議室、9名) ・第3回総合幹事会概要報告・第15回防災セミナー実施計画の検討	02/27	○第3回水工部会(Docon新札幌ビル会議室、6名) ・第4回総合幹事会報告・第15回防災セミナー報告・反省会・今後の活動テーマについて								
			03/18	○第5回総合幹事会 ・北4条ビルB会議室 ・H20年度活動計画について・H20年度総会開催計画について																		

年度	防災研究会／防災委員会				情報系部会／情報部会	地盤系部会／地盤部会	交通系部会／交通部会	都市系部会／都市部会	水工系部会／水工部会	防災教育WG								
	●総会	●総合幹事会など	●防災セミナーなど	●研究成果／講演企画・運営など														
平成20年度 (2008年度)	06/24	○H20年度防災委員会「総会」 ・寒地土木研究所講堂 ・H19活動報告・H20活動方針 ・講演「北海道における主な防災対策の取り組み」北海道総務部危機対策局防災消防課防災グループ主幹 石山敏行氏 ・参加者53人	05/20	○第1回総合幹事会 ・北4条ビル4階A会議室 ・H20年度事業計画・H20年度総会開催計画・第16回防災セミナー開催計画について ・今後の委員会活動に向けて	07/17	○「第16回防災セミナー」 ・寒地土木研究所講堂 ・講演「阪神・淡路大震災から学ぶこと」神戸防災技術者の会(K-TEC) 片瀬範男氏・栗田聡也氏 ・参加者76人	09/02	○第1回情報部会 (Docon新札幌ビル3階Eルーム、5名) ・第17回防災セミナーについて ・H20年度研究活動報告書の作成について	06/12	○第1回地盤部会 (札幌管区気象台、10名) 【視察・見学会】「地震・火山・気象等の観測や予報システム見学」 ・札幌管区気象台 ・参加者10名	06/10	○第1回交通部会 (北4条ビル4階A会議室、8名) ・第VII期活動計画：ワーキンググループ配置 (①内環状の耐震性、②地下鉄・駅、③港湾・空港、④雪害、⑤市民モラル、⑥総合交通ネットワーク) ・活動の工程計画：12月末を目標、部会を3回程度開催	07/24	○第1回都市部会 (北4条ビル4階A会議室、8名) ・昨年度出納報告・今年度の部会名簿等について・総合幹事会・総会の実施概要・今年度の都市部会活動方針について ・「27の提言」のフォローアップの推進体制(案)とスケジュール・WG構成とメンバーの配置について	07/20	○第1回水工部会 (明治コンサルタント会議室、7名) ・第VII期活動工程表・報告書作成ワーキング内容(案)・その他(新メンバー紹介・休会者の取り扱い)		
			06/24	○第2回総合幹事会 ・寒地土木研究所講堂 ・H20年度総会について ・第16回防災セミナー開催計画について			10/22	○第2回情報部会 (Docon新札幌ビル3階Dルーム、4名) ・第17回防災セミナーの進捗状況について ・H20年度研究活動報告書の内容と構成について	08/27	○第2回地盤部会 (寒地土木研究所、11名) ・H20活動報告書とりまとめの作業日程・分担など ・話題提供 ・「岩手宮城内陸地震被害視察・中越及び中越沖地震復旧状況」長瀬真央氏(地盤部会員) ・「最近のVHF電波伝搬異常ー浦河沖～青森東方沖の地震活動との関係」北大地震火山研究観測センター研究員 森谷武男氏	07/17	○第16回防災セミナー開催運営(交通部会メイン担当、都市部会との共催)	08/28	○第2回都市部会 (北4条ビル4階B会議室、8名) ・「27の提言」のフォローアップ作業について・各WGにおける取組内容・作業方法の検討方針について ・今年度の成果の取りまとめ方について	09/24	○第2回水工部会 (北4条ビル4階A会議室、12名) ・報告書作成ワーキング内容の確認		
			11/11	○第3回総合幹事会 ・寒地土木研究所講堂 ・第VII期活動報告・第VII期の委員会活動について			11/11	○「第17回防災セミナー」 ・寒地土木研究所講堂 ・講演1「2008年冬期に北海道で発生した吹雪災害の状況と課題について」寒地土木研究所寒地道路研究グループ雪氷チーム主任研究員 伊東靖彦氏 ・講演2「近年の爆弾低気圧の傾向について」財団法人気象協会北海道支社防災対策室長 松岡直基氏 ・参加者55人	11/11	○第17回防災セミナー開催運営(情報部会メイン担当、地盤部会との共催)	10/05	【講演講師】「札幌市北区南麻生町内会第9回防災訓練」 ・札幌サンパザ(午後は市民防災センター見学) ・講演：「地震の基礎知識・北海道札幌における地震と今後の見通し」北健治氏(地盤部会長) ・参加者約30名(町内会役員・住民の方々)	08/28	○第2回交通部会 (北4条ビル4階A会議室、11名) ・各WGの進捗状況報告及び意見交換(空港港湾の災害対応能力を強化、官側のBCPへの取り組み、地域の取り組み(白石まちづくりセンターへのヒアリング)、緊急輸送道路の情報発信、総合交通ネットワークの必要性)	02/19	○第3回都市部会 (北4条ビル4階B会議室、7名) ・「27の提言」のフォローアップ作業について・各WGにおける作業状況の中間チェック・今後の防災委員会の活動方向性について	12/03	○第3回水工部会 (北4条ビル4階A会議室、12名) ・報告書作成ワーキング内容の確認・次期以降の研究会活動基本方針の意見交換
			12/16	○第4回総合幹事会 ・R&Bパーク札幌大通りサテライト会議室 ・第VIII期委員会活動について					12/10	○第3回情報部会 (清水建設(株)第1会議室(時計台ビル)、6名) ・第17回防災セミナー開催結果報告・反省・コンサルタンツ北海道への投稿について ・H20年度研究活動報告書の作成について	10/30	○第3回地盤部会 ((株)開発工営社、10名) ・H20年度防災委員会中間事業報告・地震予知に関する記事・産総研講演・南麻布町内会防災訓練他報告 ・提言事項の見直し及び各WG進捗確認・WG編成・分担等について	11/20	○第3回交通部会 (北4条ビル4階A会議室、11名) ・各WGの進捗状況報告及び意見交換(検討の流れとしては「10年間の動き」→「現在の状況」→「将来に向けての課題・提案」、阪神淡路大震災時に比較して進んだ対策及び課題、総合交通ネットワークにおける各施設の位置づけの明確化、年内メドに各WGの骨子取りまとめ)	3月	○第4回都市部会 ・活動報告書の原稿取りまとめ	01/28	○第4回水工部会 (北4条ビル4階A会議室、13名) ・特別講演「石狩川下流の開発と堤防整備の歴史について」瀧川明久氏(水工部会長) ・報告書作成ワーキング内容確認・次期以降の研究会活動基本方針の意見交換
			03/11	○第5回総合幹事会 ・R&Bパーク札幌大通りサテライト会議室 ・H21年度事業計画・予算案について・H21年度総会開催案について					2月	○第4回情報部会 ・活動報告書の取りまとめ及び次期活動計画	02/18	○第4回地盤部会 (寒地土木研究所、10名) ・今後の委員会活動の方向性について・各WGの作業状況の確認・取りまとめ方針の確認 ・話題提供 ・「温暖化、CO2の課題」(講演会報告)北健治氏(地盤部会長) ・「社会科学の総合技術管理概念の重要性、技術者倫理教育、宗教観の問題、幕末～明治の指導的人物像やその役割」能勢一之氏(地盤部会員)	2月	○第4回交通部会 ・各WGの執筆作業進捗状況の確認と全体の内容調整		3月	○第5回水工部会 (北4条ビル4階A会議室) ・報告書最終確認	
3月				3月	○第5回情報部会 ・活動報告書の取りまとめ及び次期活動計画	3月	○第5回地盤部会 ・活動報告書の原稿取りまとめ ・話題提供	3月	○第5回交通部会 ・活動報告書の最終原稿取りまとめ									

年度	防災研究会／防災委員会				情報系部会／情報部会	地盤系部会／地盤部会	交通系部会／交通部会	都市系部会／都市部会	水工系部会／水工部会	防災教育WG							
	●総会	●総合幹事会など	●防災セミナーなど	●研究成果／講演企画・運営など													
平成21年度 (2009年度)	05/27	OH21年度防災委員会「総会」 ・寒地土木研究所講堂 ・H20活動報告・H21活動方針 ・報告「中国四川大地震から1年が過ぎて～地震復興と技術協力～」防災支援委員会副委員長 松井義孝氏 ・参加者：42名	05/12	○第1回総合幹事会 ・R&Bパーク札幌大通りサテライト ・H21年度活動体制・H21年度総会開催について・第VII期活動報告書について・ワーキング設置について	07/31	○「第18回防災セミナー」 ・KKRホテル札幌 ・講演「BCPの概要と全国的な動向について」清水建設(株)技術ソリューション本部主査 橋元正美氏 ・講演「北海道開発局のBCPへの取り組みについて」北海道開発局事業振興部防災課長 矢野明夫氏 ・参加者114名		09/27	【講演講師】札幌市北区南麻生町内会第10回防災訓練 ・札幌サンラザ ・講演「地震防災マップと南麻生町内会住民としての対応」北健治氏(地盤部会長) ・参加者約30名(町内会役員・住民の方々)	07/31	○第18回防災セミナー開催運営	05/27	○第1回都市部会(寒地土木研究所講堂、7名) ・今年度の部会名簿等について・都市部会の活動方針について	07/16	○第1回水工部会(ドーコン本社3階A会議室、8名) ・部会運営体制確認・運営方針(案)意見交換	08/22	○清田区防災セミナー「震災に備えて」(清田区民センター事業支援) ・清田区民センター視聴覚室 ・講演「阪神・淡路大震災を知ろう」城戸寛副委員長、「清田区の防災対策について」小田直正部会長、「札幌直下型地震が起きたら」大浦宏照部会長、「防災・減災カードを活用しよう！」城戸寛副委員長 ・参加者38名
			07/01	○第2回総合幹事会 ・R&Bパーク札幌大通りサテライト ・第18回防災セミナー開催について・部会活動報告			10/29	○第1回地盤部会(R&Dパーク札幌大通りサテライト会議室、10名) ・H21年度委員会活動について・技術士リングネット紹介・ジオネットオンライン検索について ・話題提供 ・「南麻生町内会第10回防災訓練の内、研修講座内容について」北健治氏(地盤部会長) ・「台湾における8月台風の被害について」高橋輝明氏(地盤部会長)	11/19	○第1回交通部会(ドーコン3F会議室、7名) ・第VIII期活動テーマの意見交換(新たな視点として、高齢化社会における災害対策・北海道の特性を考えた広域分散型社会を維持するための対策・救急医療体制と道路ネットワーク・命の交通ネットワークを維持して行くための対策) ・総合幹事会報告(防災教育ワーキング活動報告・技術士全国大会・全国防災連絡会議報告など)	11/12～14	【視察・見学会】防災研修会(2泊3日)「南海地震防災関連施設等研修どいなむらの火を訪ねて」 ・三重県大紀町(錦タワー視察)・三重県尾鷲市(津波避難に関する行政機関ヒアリング)・和歌山県那智勝浦市(那智勝浦バイパス視察)・和歌山県有田郡広川町(稲村の火の館、濱口悟哉記念館視察) ・参加者8名	08/07	○第2回水工部会(ドーコン本社3階A会議室、5名) ・部会活動内容の意見交換	02/27	○東区防災セミナー「震災に備えて」(東区民センター事業支援) ・東区民センター視聴覚室 ・講演「阪神・淡路大震災を知ろう」城戸寛副委員長、「東区の防災対策について」小田直正部会長、「札幌直下型地震が起きたら」大浦宏照部会長、「防災・減災カードを活用しよう！」城戸寛副委員長 ・参加者47名	
			11/19	第3回総合幹事会 ・R&Bパーク札幌大通りサテライト ・全国防災連絡会議について・防災教育WGについて・第19回防災セミナー開催について・部会活動報告	01/20	○「第19回防災セミナー」 ・札幌エルプラザ ・講演「南海地震防災関連施設等研修報告」椛澤勝則氏(都市部会長)、三木田正則氏(都市部会長)、柴田登(都市部会長) ・報告1「技術士全国大会参加報告」高宮則夫氏(防災委員会委員長) ・報告2「防災教育WG活動報告」城戸寛氏(防災委員会副委員長) ・参加者35名		04/20	○第2回地盤部会(R&Dパーク札幌大通りサテライト会議室、10名) ・総会日程及び総合幹事会報告 ・話題提供 ・「サイエンスカフェ(地震・火山噴火その仕組みに迫る)について」北健治氏(地盤部会長) ・「GNO(ジオネットオンライン)及び産総研の地質地盤情報協議会他について」榎本義一氏(地盤部会長) ・「NPO法人ローア極東研及び大前研一関連書籍・記事の紹介」能勢一之氏(地盤部会長)	03/19	○第2回交通部会(寒地土木研究所、8名) ・話題提供(佐藤馨一先生(北海道大学教授)) ・「電気自動車普及による舗装面への影響」 ・「災害情報の市民への提供の仕方について」 ・「直交多属性効用関数による定住意識分析について」	12/7	○第2回都市部会(ドーコン3階Eルーム、8名) ・総合幹事会概要報告・三重・和歌山視察概要報告 ・第19回防災セミナーに向けて	01/15	○第3回水工部会(東横イン札幌駅北口第1会議室、10名) ・講演「石狩川下流の樋門周辺堤防の変状と被災メカニズム」瀧川明久氏(水工部会長)		
			03/09	○第4回総合幹事会 ・R&Bパーク札幌大通りサテライト ・H21事業報告・決算について・H22事業計画・予算について・部会活動報告						01/20	○第19回防災セミナー開催運営	3月	○第4回水工部会(ドーコン本社3階A会議室) ・次期活動方針の確認				
平成22年度 (2010年度)	05/20	OH22年度防災委員会「総会」 ・札幌市民ホール第2会議室 ・H21活動報告・H22活動方針 ・講演「気象庁の津波防災への取り組み」札幌管区気象台地震情報官 山本剛靖氏 ・参加者42名	05/12	○第1回総合幹事会 ・R&Bパーク札幌大通りサテライト ・H21年度活動体制・H21年度総会開催について ・第20回記念防災セミナー開催について・部会活動報告	09/07	○「第20回記念防災セミナー」 ・札幌ガーデンパレス ・主催者挨拶「防災・減災に向けた取り組み」高宮則夫委員長 ・講演1「気象災害予測のためのシミュレーションの最前線」(独)海洋研究開発機構 高橋桂子氏 ・講演2「地域防災力の向上を目指して～尾鷲市の取り組みについて～」三重県尾鷲市防災危機管理室 川口明則氏 ・参加者150名		H23.04/13	○第1回地盤部会(寒地土木研究所 3F会議室、11名) ・防災委員会総合幹事会報告、防災委員会第21回防災セミナー報告、防災委員会三役・部会長会議報告他 ・話題提供 ・「北大地震火山研究観測センターホンカム及び東北地方太平洋沖緊急報告会関連、森谷先生のVHF観測について」北健治部会長 ・「北海道のイノベーション、MH資源開発、国際的リスクマネジメント等」能勢一之部会長	05/20	○第1回交通部会(札幌市民ホール第2会議室、6名) 札幌市が地域防災計画(震災編)修正素案についての意見交換会を行い、札幌市に対して修正素案に対する意見を述べた。	05/31	【投稿：研修報告】平成21年度防災研修会(南海地震防災関連施設等視察調査報告) コンサツタツ北海道124号 柴田部会長	07/23	○第1回水工部会(榊明治コンサルタンツ会議室、11名) ・津波防災に関する話題・学習	07/24	○清田区防災セミナー「震災に備えて」(清田区民センター事業支援) ・清田区民センター視聴覚室 ・講演「阪神・淡路大震災を知ろう」城戸寛副委員長、「清田区の防災対策について」小田直正部会長、「札幌直下型地震が起きたら」大浦宏照部会長、「わかりやすい緊急地震速報」松岡直樹部会長 ・参加者17名
			04月～08月	○「第20回記念防災セミナー実行WG」 ・計3回開催								10/15～16	○第2回水工部会 【視察・見学会】「留萌川大和田遊水地、留萌ダム、留萌港」 ・参加者8名				
			07/29	○第2回総合幹事会 ・R&Bパーク札幌大通りサテライト ・第20回記念防災セミナー開催について・部会活動報告 ・技術士会BCPと防災支援委員会BCPについて	03/03	○「第21回防災セミナー」 ・Doccon新札幌ビル3F ・講演1「富良野川大正泥流の聞き取り調査」福間博史氏(水工部会幹事) ・講演2「地域に眠る災害情報と防災専門家の役割」NPO環境防災研究機構北海道理事 新谷融氏 ・参加者41名			09/17	○第2回交通部会(寒地土木研究所 2F会議室、8名) ①冬期道路および寒地道路連続セミナーに関する勉強(浅野氏講師)②交通部会として札幌市地域防災計画に対して意見を提出した結果について説明(木村)、③今後の活動についての意見交換	05/20	○第1回都市部会(札幌市民ホール第2会議室、8名) ・第20回記念防災セミナーについて：尾鷲市から講師を招聘する ・防災研修会の計画準備 ・防災教育WGへの都市部会メンバーの参加：小田さんに加えて村瀬さんも参加	03/03	○第21回防災セミナー開催運営			
			02/01	○第3回総合幹事会 ・R&Bパーク札幌大通りサテライト ・第21回防災セミナーについて・全国防災連絡会議報告・部会活動報告								09/16～18	【視察・見学会】防災研修会(2泊3日)「環境モデル都市富山市、黒部ダムと中越地震の爪あとを訪ねる」 ・参加者：8名 ①富山県富山市役所(富山ライトレール試乗、ヒアリング) ②黒部ダム(電源開発と自然景観) ③新潟県長岡市古志村(中越地震と地域復興)				
03/28	○三役・部会長会議 ・R&Bパーク札幌大通りサテライト ・東日本大震災に向けた対応について																

年度	防災研究会/防災委員会				情報系部会/情報部会	地盤系部会/地盤部会	交通系部会/交通部会	都市系部会/都市部会	水工系部会/水工部会	防災教育WG										
	●総会	●総合幹事会など	●防災セミナーなど	●研究成果/講演企画・運営など																
平成23年度 (2011年度)	05/18	OH23年度防災委員会「総会」 ・かでの2・7 10F・1060会議室 ・H23活動報告・H23活動方針 ・話題1「東北地方太平洋沖地震関連の話題提供」 ・『建設専門紙記者から見た被災の現場』(株)北海道建設新聞社 第一報道部次長 矢部育夫氏	04/20	○三役・部会長会議 ・R&B/パーク札幌大通りサテライト ・東日本大震災への対応について ・H23年度総会開催について	10/26	○「第22回防災セミナー」(第31回地域産学官と技術士との合同セミナー) ・テーマ「東日本大震災に学ぶ」 ・札幌ガーデンパレス 2階 孔雀 ・講演1「歴史的偉人に学ぶ ～「稲むらの火」の今日的意義～」北電総合設計 柴田 登氏 ・講演2「東日本大震災の対応状況 ～大震災の教訓～」北海道開発局開発監理部 次長 川崎博巳氏(前 東北地方整備局仙台河川国道事務所所長) ・講演3「想定外を生き抜く力～大津波から生き抜いた釜石市の児童・生徒の主体的行動に学ぶ～」群馬大学大学院 教授 片田敏孝氏 ・参加者180名	09/15	○【意見交換会】独立行政法人土木研究所寒地土木研究所との防災に関する意見交換会 ・寒地土木研究所2階会議室 ・防災委員会の活動、地盤被災を中心とした現地視察状況、北海道における500年周期津波想定等の紹介 ・道内、東北等の被災地の調査結果等の紹介 ・積雪寒冷地である北海道における、防災に関する今後の調査や研究、検討について、フリーディスカッション ・参加者20名(寒地土研11名、防災委員会9名)					07/02	○清田区防災セミナー「震災に備えて」(清田区民センター事業支援) ・清田区民センター視聴覚室 ・講演「東日本大震災と緊急地震速報」松岡直基部会員、「札幌直下型地震が起きたら・・・」大浦宏照部会員、「清田区の防災対策について」村瀬直久部会員、「自助・共助のすすめ」城戸寛副委員長 ・参加者60名						
			05/11	○第1回総合幹事会 ・R&B/パーク札幌大通りサテライト ・H23年度活動体制について ・H23年度総会開催について ・東日本大震災に向けた取り組みについて				07/26	○第1回地盤部会(土木研究所寒地土木研究所 2F会議室、17名) ・H23年度防災委員会活動について他 ・話題提供 ・「北海道で想定されている500年周期メガ津波について」地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 地質研究所 地域地質部 地質情報グループ 大津直氏 ・「東日本大震災における地盤被害状況について」HRS株式会社 大浦宏照氏 ・「北海道の国際化イノベーションについて」(前回に引続き)株式会社グローバル社会経済研究所 能勢一之氏			04/13	○第1回都市部会(かでの2・7・5名) ・今年度の部会名簿等について ・今年度の都市部会の活動方針について	04/14	○第1回水工部会(ドーコン本社3階会議室、8名) ・部会運営体制確認 ・東日本大震災を受けた情報交換	08/02	○中央区まちづくり会議 ・講演「自助・共助のすすめ」城戸寛副委員長 ・参加者80名			
			06月～8月	○「第31回地域産学官と技術士との合同セミナー実行委員会(参画)」 ・計2回開催		10月	●「防災・減災カード」(東日本大震災を踏まえて一部改訂)配布							10/26	○第2回都市部会(かでの2・7・6名) ・東日本大震災の支部対応に関する意見交換 ・防災委員会総会報告(H23活動報告とH24活動予定)	07/07	○第2回水工部会(明治コンサルタント(株)本店会議室、9名) ・総合幹事会報告 ・東日本大震災に関する情報交換	11/16	○清田区防災リーダー研修(第1/2回目)[災害に備えて] ・清田区民センター視聴覚室 ・講演「東日本大震災と緊急地震速報」松岡直基部会員、「自助・共助のすすめ」城戸寛副委員長 ・参加者77名	
			06月～03月	○事務局三役会議 ・R&B/パーク札幌大通りサテライト ・東日本大震災の復興支援への取り組み状況について ・東日本大震災を踏まえたH23活動報告とまとめ方法、H24活動内容・体制(東日本大震災を踏まえた提言書作成実行委員会)について ・計4回開催	02/20	○「第23回防災セミナー」 ・TKPガーデンシティ札幌きょうさいサロン 7F「飛鳥」 ・講演「世界的な北海道の地質～変動する島弧-海溝系の地質システム～」北海道大学理学部 准教授 新井田清信氏 ・参加者43名			02/20	○第23回防災セミナー開催運営					10/26	○第31回地域産学官と技術士との合同セミナーへの講師派遣 講演者：柴田登部会員 テーマ：東日本大震災に学ぶ：歴史的偉人に学ぶ～「稲むらの火」の今日的意義～ ・話題提供 ・「東日本大震災現地視察報告」構研エンジニアリング 伊藤 雄二氏 ・「復興まちづくりコンベへの提案」エムケイコンサルタン ト 川村 政良氏 ・「北斗市の高台マップについて」構研エンジニアリング 木村 和之氏	12/19	○第3回水工部会(ドーコン本社3階会議室、6名) ・総合幹事会報告 ・東日本大震災に関する情報交換	11/18	○清田区防災リーダー研修(第2/2回目)[災害に備えて] ・清田区民センター視聴覚室 ・講演「札幌直下型地震が起きたら」大浦宏照部会員、「清田区の防災対策について」村瀬直久部会員 ・参加者80名
			09/02	○第2回総合幹事会 ・R&B/パーク札幌大通りサテライト ・第7回全国防災連絡会議報告 ・第31回地域産学官と技術士との合同セミナー(第22回防災セミナーを兼ねる)について ・第23回防災セミナーについて ・部会活動報告			11/07	○【協定締結】独立行政法人土木研究所寒地土木研究所と「連携・協力協定」を締結(日本技術士会北海道本部) ・目的：両者相互において研究成果や技術を地域に還元するとともに、地域の技術力向上を支援し、 もって良質な社会資本の効率的な整備、 地域の防災・減災 及び産業育成並びに科学技術の振興に資すること ・主な内容：各種セミナー・講演会の開催、道内各地での技術者交流フォーラムの開催、科学技術への興味を高める一般・子供向けの啓発活動など									11/19	○中央区防災リーダー研修[災害に備えて] ・中央消防署講堂 ・講演「自助・共助のすすめ」城戸寛副委員長 ・参加者77名		
			03/09	○第3回総合幹事会 ・R&B/パーク札幌大通りサテライト ・H23事業報告・決算について ・H24活動内容・体制について ・H24事業計画・予算について ・部会活動報告						H24.04/04	○第2回地盤部会(土木研究所寒地土木研究所 2F会議室、11名) ・防災委員会総会日程、総合幹事会報告、提案書作成に向けた地盤部会の役割について ・話題提供「新・エネルギー戦略及び天然ガス資源等について」株式会社グローバル社会経済研究所 能勢一之氏						11/22	○豊平区防災リーダー研修(第1/2回目)[災害に備えて] ・豊平区民センター視聴覚室 ・講演「東日本大震災と緊急地震速報」松岡直基部会員、「自助・共助のすすめ」城戸寛副委員長 ・参加者50名		
																	11/24	○豊平区防災リーダー研修(第2/2回目)[災害に備えて] ・豊平区民センター視聴覚室 ・講演「札幌直下型地震が起きたら」大浦宏照部会員、「豊平区の防災対策について」小田直正部会員 ・参加者73名		
																	03/06	○北野防災研究会サポート(NPO法人環境防災総合政策研究機構に協力) ・札幌市北野地区会館 ・地震想定DIGのファシリテーター：板谷利久部会員、大浦宏照部会員、村瀬尚久部会員 ・参加者40名		

年度	防災研究会／防災委員会					情報系部会／情報部会	地盤系部会／地盤部会	交通系部会／交通部会	都市系部会／都市部会	水工系部会／水工部会	防災教育WG					
	●総会	●総会幹事会など	●防災セミナーなど	●研究成果／講演企画・運営など												
平成24年度 (2012年度)	05/15	OH24年度防災委員会「総会」 ・TKPガーデンシティ札幌きょうさいサロン ・H23活動報告・H24活動方針 ・講演「北海道における巨大地震と大津波」北海道大学大学院理学研究院地震火山研究観測センター 教授・センター長 谷岡勇市郎氏 ・参加者41名	04/17	○第1回総合幹事会 ・R&Bパーク札幌大通りサテライト ・H24取り組み方針 (提言書作成実行委員会など) ・H24事業計画・予算 ・H24総会開催内容について	11/29	○「第24回防災セミナー」 ・テーマ「北海道における防災・減災のあり方～東日本大震災の経験を踏まえて～」 ・札幌ガーデンパレス2階 孔雀 ・基調講演「緊急支援物資のロジスティクス-東日本大震災の記録-」東北大学大学院情報科学 研究科 教授 桑原雅夫氏 ・講演1「このころのケアという観点から見る大規模災害への備え」室蘭工業大学大学院工学研究科 ひと文化系領域 准教授 前田潤氏 ・講演2「防災まちづくりに向けて」北海道建設部 まちづくり局都市計画課長 上谷誠司氏 ・参加者108名										
			06/25	○「第1回東日本大震災プロジェクト実行委員会」 ・R&Bパーク札幌大通りサテライト ・設立趣旨等について ・作業進捗について ・出席者13名												
			08/31	○第2回総合幹事会 ・R&Bパーク札幌大通りサテライト ・提言書作成の各部会の進捗状況について ・第24回防災セミナー講演企画について ・H25年技術士会全国大会(札幌)第4分科会(防災)・基調講演等企画について												
			09/14	○「第2回東日本大震災プロジェクト実行委員会」 ・R&Bパーク札幌大通りサテライト ・提言書(前半)作成(案)の進捗確認及び審議について ・出席者10名												
			12/11	○第3回総合幹事会 ・R&Bパーク札幌大通りサテライト ・提言書作成の各部会の進捗状況について ・提言書のとりまとめ方針について ・H25年技術士会全国大会(札幌)第4分科会(防災)及び全国防災連絡会議(札幌)企画												
			03/07	○第4回総合幹事会 ・R&Bパーク札幌大通りサテライト ・提言書のとりまとめ・進捗状況について ・H25年技術士会全国大会(札幌)第4分科会(防災)及び全国防災連絡会議(札幌)企画 ・H24事業報告・決算、H25活動内容・体制について ・H25総会開催内容(講演、日程等)												
			07/24	○第1回地盤部会(R&Bパーク札幌大通りサテライト、12名) ・H24年度防災委員会活動について ・提言書の執筆に関しての意見交換および執筆の分担についての承認など												
			09/26	○第2回地盤部会(土木研究所寒地土木研究所2F会議室、9名) ・「第4章東日本大震災の検証と教訓」作業状況について ・提案書作成に向けた地盤部会の役割について ・提言書の執筆の進行状況とまとめに関する意見交換 ・話題提供「新・エネルギーとしての新しい原子力発電について」株式会社グローバル社会経済研究所 能勢一之氏												
07/23	○第1回交通部会(R&Bパーク札幌大通りサテライト、8名) ・今年度の交通部会体制及び活動方針について ・東日本大震災プロジェクト実行委員会報告について ・部会執筆担当の「東日本大震災の検証と教訓」作業について															
09/21	○第2回交通部会(R&Bパーク札幌大通りサテライト、8名) ・総合幹事会報告 ・「第4章東日本大震災の検証と教訓」作業状況について ・第24回防災セミナー開催について															
11/29	○第24回防災セミナー開催運営															
04/11	○第1回都市部会(R&Bパーク札幌大通りサテライト、9名) ・今年度の部会名簿・活動方針について ・全国大会提言書作成スケジュール確認、担当設定															
05/21	○第2回都市部会(R&Bパーク札幌大通りサテライト、8名) ・提言書第3章の目次設定、今後の工程確認															
06/18	○第3回都市部会(R&Bパーク札幌大通りサテライト、7名) ・提言書第3章の目次設定、今後の工程確認															
07/26	○第4回都市部会(R&Bパーク札幌大通りサテライト、8名) ・提言書第3章原稿に対する討議、工程確認 ・H24年度防災研修会実施案検討															
10/09	○第5回都市部会(R&Bパーク札幌大通りサテライト、10名) ・提言書第3章原稿に対する討議、今後の工程確認 ・H24年度防災研修会意見交換会・質問事項検討															
11/15～17	【視察・見学会】防災研修会(2泊3日)「東日本大震災の被災地を訪れて(宮城県内6市町)」 ・現地視察(大川小学校(石巻市)、荒浜地区(仙台市)、岡上地区(宮城県名取市)) ・現地視察・意見交換会(南三陸町復興まちづくり支援事務所、東松島市復興政策部復興都市計画課) ・参加者11名															
01/15	○第6回都市部会(R&Bパーク札幌大通りサテライト、10名) ・提言書第3章原稿に対する討議、今後の工程確認 ・H24年度防災研修会報告作成要領等の討議															
03/28	○第7回都市部会(R&Bパーク札幌大通りサテライト、4名(防災研修会報告会作業部会)) ・防災研修会報告会担当設定、初稿に対する討議、今後の工程確認															
04/10	○第1回水工部会(ドーコン本社3階会議室、8名) ・部会運営体制確認 ・H24年度提言書の作成に向けて(素案)の取り組み方針の確認 ・提言書の対象、方法、内容について議論															
05/23	○第2回水工部会(ドーコン本社3階会議室、9名) ・提言書(事務局案)目次に沿った執筆配置 ・水工部会担当章(特に第1章)について具体的議論															
07/19	○第3回水工部会(ドーコン本社3階会議室、6名) ・提言書作業進捗状況確認及び内容について議論															
01/17	○第4回水工部会(ドーコン本社3階会議室、8名) ・提言書内容及びチェックシート作成に関する議論															
11/19	○清田区防災リーダー研修(第1/2回目)[震災に備えて] ・清田区役所会議室 ・講演「防災対策のススメ」村瀬尚久部会員 ・参加者55名															
11/20	○清田区防災リーダー研修(第2/2回目)[震災に備えて] ・清田区役所会議室 ・講演「札幌直下型地震が起きたら」大浦宏照部会員 ・参加者60名															
11/28	○厚別区要援護者支援事業[災害時の助け合い活動] ・厚別区民センター ・講演「近年の地震災害と気象災害」松岡直基部会員 ・参加者17名															
11/28	○豊平区防災リーダー研修(第1/2回目)[震災に備えて] ・豊平区民センター ・講演「自助・共助の進め」城戸寛部会員 ・参加者67名															
11/30	○豊平区防災リーダー研修(第2/2回目)[震災に備えて] ・豊平区民センター ・講演「札幌直下型地震が起きたら」大浦宏照部会員、「防災対策のすすめ」小田直正部会員 ・参加者54名															
01/19	○白石区防災リーダー研修(中級)[風水害に備えて] ・白石区民センター ・講演「近年の気象災害」松岡直基部会員、「札幌直下型地震が起きたら」大浦宏照・長谷川圭部会員 ・参加者75名															

年度	防災研究会／防災委員会				情報系部会／情報部会	地盤系部会／地盤部会	交通系部会／交通部会	都市系部会／都市部会	水工系部会／水工部会	防災教育WG		
	●総会	●総合幹事会など	●防災セミナーなど	●研究成果／講演企画・運営など								
平成25年度 (2013年度)	05/17	○H25年度防災委員会「総会」 ・TKPカーデンシティ札幌きょうさいサロン ・H24活動報告・H25活動方針 ・東日本大震災を教訓とした『北海道の防災』教訓と提言の作成進捗報告 ・講演「H24年度防災研修会報告」～東日本大震災の被災地を訪れて～ ・研修会の概要(星野利幸 都市部会長) ・現地視察(宮川隆雄 都市部会員)	○第1回総合幹事会 ・R&B/パーク札幌大通りサテライト ・H25年度総会(講演、日程等)について ・H24事業報告・決算、H25活動内容・体制について ・提言書の進捗状況について ・第3回東日本大震災プロジェクト実行委員会の開催について ・H25技術士全国大会(札幌)第4分科会(防災)及び全国防災連絡会議(札幌)の企画について	●「東日本大震災を教訓とした『北海道の防災』-教訓と提言-」発刊 ●「東日本大震災を教訓とした『北海道の防災』-地震災害に関するQ&A集-」発刊 ●「防災・減災カード」(東日本大震災の教訓を踏まえて一部改訂)配布	○「第3回東日本大震災プロジェクト実行委員会」 ・R&B/パーク札幌大通りサテライト ・提言書作成の中間報告及び内容審議について ・提言書最終稿作成に向けた進め方・スケジュールについて ・出席者10名	09月	07/04	05/09	04/11	05/15	07/06	○清田区防災セミナー(都市型災害に備えて) ・清田区民センター視聴覚室 ・講演「自助・共助のすすめ」城戸寛部会長、「札幌市の防災対策」小田直正部会長、「水害が起きたらどうしますか」大浦宏照部会長 ・参加者19名
		○第2回総合幹事会 ・NPO公共環境研究機構cero事務所 ・提言書作成(中間)の進捗状況・作業対象範囲について ・Q&A集作業の進め方・分担・スケジュールについて ・Q&A集作成の進捗状況について ・今後の作業の進め方、修正等受渡方法について ・計2回開催 ・出席者10名、9名	○「第3回東日本大震災プロジェクト実行委員会」 ・R&B/パーク札幌大通りサテライト ・提言書作成の中間報告及び内容審議について ・提言書最終稿作成に向けた進め方・スケジュールについて ・出席者10名	○「企画・運営」第9回全国防災連絡会議(札幌) ・ロイトン札幌 ・テーマ「巨大地震に備えて～技術士は何をすべきか、全国防災連絡会議を振り返る～」 ・報告 ・「東日本大震災復興支援等への取り組み～リスクコミュニケーションの必要性～」統括本部防災支援委員会委員 旭勝臣氏 ・「福島県外避難者交流会・相談会支援への取り組み」統括本部防災支援委員会委員 阿部定好氏 ・「丘陵地造成宅地の耐震評価技術が果たした役割と今後の地震防災対策への取り組み」東北本部防災支援委員会委員 佐藤真吾氏 ・「市民向け防災教育を旨とした取り組み」北海道本部防災委員会防災教育WGリーダー 城戸寛氏 ・「南海トラフ巨大地震」襲来に備えた技術士グループの取り組み」近畿本部防災支援委員会委員長 石川浩次氏 ・パネディスカッション ・コーディネーター 小林正明氏(北海道本部防災委員会幹事長) ・パネリスト:大元守氏(統括本部防災支援委員会委員長)、神田重雄氏(東北本部防災委員会委員長)、高宮則夫氏(北海道本部防災委員会委員長)、石川浩次氏(近畿本部防災支援委員会委員長) ・参加者93名	○「企画・運営」第9回全国防災連絡会議(札幌) ・ロイトン札幌 ・テーマ「巨大地震に備えて～技術士は何をすべきか、全国防災連絡会議を振り返る～」 ・報告 ・「東日本大震災復興支援等への取り組み～リスクコミュニケーションの必要性～」統括本部防災支援委員会委員 旭勝臣氏 ・「福島県外避難者交流会・相談会支援への取り組み」統括本部防災支援委員会委員 阿部定好氏 ・「丘陵地造成宅地の耐震評価技術が果たした役割と今後の地震防災対策への取り組み」東北本部防災支援委員会委員 佐藤真吾氏 ・「市民向け防災教育を旨とした取り組み」北海道本部防災委員会防災教育WGリーダー 城戸寛氏 ・「南海トラフ巨大地震」襲来に備えた技術士グループの取り組み」近畿本部防災支援委員会委員長 石川浩次氏 ・パネディスカッション ・コーディネーター 小林正明氏(北海道本部防災委員会幹事長) ・パネリスト:大元守氏(統括本部防災支援委員会委員長)、神田重雄氏(東北本部防災委員会委員長)、高宮則夫氏(北海道本部防災委員会委員長)、石川浩次氏(近畿本部防災支援委員会委員長) ・参加者93名	10/03	12/26	07/25	10/15	09/04	10/28	○豊平区防災リーダー研修(第1/2回目) ・豊平区民センター ・講演「自助・共助のすすめ」城戸寛部会長 ・参加者39名
		○第3回総合幹事会 ・NPO公共環境研究機構cero事務所 ・提言書の進捗状況(「教訓と提言-Q&A」)について ・防災・減災カードの更新について ・全国大会パネル展示・スケジュールについて	○「第3回東日本大震災プロジェクト実行委員会」 ・R&B/パーク札幌大通りサテライト ・提言書作成の中間報告及び内容審議について ・提言書最終稿作成に向けた進め方・スケジュールについて ・出席者10名	○「企画・運営」第40回技術士全国大会(札幌)第4分科会(防災) ・ロイトン札幌 ・テーマ「未曾有の災害に備えて～よく知り、よく備え、正しく恐れよう～」 ・話題提供 ・「技術経営(MOT)に関する資料紹介」三和開発工業(株)能勢一之氏 ・「H24・H25中山峠災害対応について」岩田地崎建設(株)河村巧氏	○「企画・運営」第40回技術士全国大会(札幌)第4分科会(防災) ・ロイトン札幌 ・テーマ「未曾有の災害に備えて～よく知り、よく備え、正しく恐れよう～」 ・話題提供 ・「技術経営(MOT)に関する資料紹介」三和開発工業(株)能勢一之氏 ・「H24・H25中山峠災害対応について」岩田地崎建設(株)河村巧氏	10/04	H26.05/21	11/28	11/21～22	11/05	11/05	○豊平区防災リーダー研修(第2/2回目) ・豊平区民センター ・講演「自助・共助のすすめ」城戸寛部会長 ・参加者51名
		○第4回総合幹事会 ・NPO公共環境研究機構cero事務所 ・提言書・Q&A・防災減災カード・パネル展示の進捗状況について ・技術士全国大会(札幌)事前・当日分担等について ・第4分科会(防災)及び全国防災連絡会議(札幌)の配布資料について	○「第3回東日本大震災プロジェクト実行委員会」 ・R&B/パーク札幌大通りサテライト ・提言書作成の中間報告及び内容審議について ・提言書最終稿作成に向けた進め方・スケジュールについて ・出席者10名	○「企画・運営」第40回技術士全国大会(札幌)第4分科会(防災) ・ロイトン札幌 ・テーマ「未曾有の災害に備えて～よく知り、よく備え、正しく恐れよう～」 ・話題提供 ・「技術経営(MOT)に関する資料紹介」三和開発工業(株)能勢一之氏 ・「H24・H25中山峠災害対応について」岩田地崎建設(株)河村巧氏	○「企画・運営」第40回技術士全国大会(札幌)第4分科会(防災) ・ロイトン札幌 ・テーマ「未曾有の災害に備えて～よく知り、よく備え、正しく恐れよう～」 ・話題提供 ・「技術経営(MOT)に関する資料紹介」三和開発工業(株)能勢一之氏 ・「H24・H25中山峠災害対応について」岩田地崎建設(株)河村巧氏	10/04	H26.05/21	11/28	11/21～22	11/05	11/05	○清田区防災リーダー研修(第1/2回目) ・清田区民センター ・講演「自助・共助のすすめ」村瀬尚久部会長 ・参加者58名
		○第5回総合幹事会 ・NPO公共環境研究機構cero事務所 ・技術士全国大会終了後のH25活動について ・H26以降の活動方針・内容について	○「第3回東日本大震災プロジェクト実行委員会」 ・R&B/パーク札幌大通りサテライト ・提言書作成の中間報告及び内容審議について ・提言書最終稿作成に向けた進め方・スケジュールについて ・出席者10名	○「企画・運営」第40回技術士全国大会(札幌)第4分科会(防災) ・ロイトン札幌 ・テーマ「未曾有の災害に備えて～よく知り、よく備え、正しく恐れよう～」 ・話題提供 ・「技術経営(MOT)に関する資料紹介」三和開発工業(株)能勢一之氏 ・「H24・H25中山峠災害対応について」岩田地崎建設(株)河村巧氏	○「企画・運営」第40回技術士全国大会(札幌)第4分科会(防災) ・ロイトン札幌 ・テーマ「未曾有の災害に備えて～よく知り、よく備え、正しく恐れよう～」 ・話題提供 ・「技術経営(MOT)に関する資料紹介」三和開発工業(株)能勢一之氏 ・「H24・H25中山峠災害対応について」岩田地崎建設(株)河村巧氏	10/04	H26.05/21	11/28	11/21～22	11/05	11/05	○清田区防災リーダー研修(第2/2回目) ・清田区民センター ・講演「自助・共助のすすめ」大浦宏照部会長 ・参加者36名
		○第6回総合幹事会 ・NPO公共環境研究機構cero事務所 ・H25事業報告・決算について ・H26活動内容・体制について ・H26総会開催内容(講演、日程等)について	○「第3回東日本大震災プロジェクト実行委員会」 ・R&B/パーク札幌大通りサテライト ・提言書作成の中間報告及び内容審議について ・提言書最終稿作成に向けた進め方・スケジュールについて ・出席者10名	○「企画・運営」第40回技術士全国大会(札幌)第4分科会(防災) ・ロイトン札幌 ・テーマ「未曾有の災害に備えて～よく知り、よく備え、正しく恐れよう～」 ・話題提供 ・「技術経営(MOT)に関する資料紹介」三和開発工業(株)能勢一之氏 ・「H24・H25中山峠災害対応について」岩田地崎建設(株)河村巧氏	○「企画・運営」第40回技術士全国大会(札幌)第4分科会(防災) ・ロイトン札幌 ・テーマ「未曾有の災害に備えて～よく知り、よく備え、正しく恐れよう～」 ・話題提供 ・「技術経営(MOT)に関する資料紹介」三和開発工業(株)能勢一之氏 ・「H24・H25中山峠災害対応について」岩田地崎建設(株)河村巧氏	10/04	H26.05/21	11/28	11/21～22	11/05	11/05	○清田区防災リーダー研修(第2/2回目) ・清田区民センター ・講演「自助・共助のすすめ」大浦宏照部会長 ・参加者36名
		○第7回総合幹事会 ・NPO公共環境研究機構cero事務所 ・H25事業報告・決算について ・H26活動内容・体制について ・H26総会開催内容(講演、日程等)について	○「第3回東日本大震災プロジェクト実行委員会」 ・R&B/パーク札幌大通りサテライト ・提言書作成の中間報告及び内容審議について ・提言書最終稿作成に向けた進め方・スケジュールについて ・出席者10名	○「企画・運営」第40回技術士全国大会(札幌)第4分科会(防災) ・ロイトン札幌 ・テーマ「未曾有の災害に備えて～よく知り、よく備え、正しく恐れよう～」 ・話題提供 ・「技術経営(MOT)に関する資料紹介」三和開発工業(株)能勢一之氏 ・「H24・H25中山峠災害対応について」岩田地崎建設(株)河村巧氏	○「企画・運営」第40回技術士全国大会(札幌)第4分科会(防災) ・ロイトン札幌 ・テーマ「未曾有の災害に備えて～よく知り、よく備え、正しく恐れよう～」 ・話題提供 ・「技術経営(MOT)に関する資料紹介」三和開発工業(株)能勢一之氏 ・「H24・H25中山峠災害対応について」岩田地崎建設(株)河村巧氏	10/04	H26.05/21	11/28	11/21～22	11/05	11/05	○清田区防災リーダー研修(第2/2回目) ・清田区民センター ・講演「自助・共助のすすめ」大浦宏照部会長 ・参加者36名
		○第8回総合幹事会 ・NPO公共環境研究機構cero事務所 ・H25事業報告・決算について ・H26活動内容・体制について ・H26総会開催内容(講演、日程等)について	○「第3回東日本大震災プロジェクト実行委員会」 ・R&B/パーク札幌大通りサテライト ・提言書作成の中間報告及び内容審議について ・提言書最終稿作成に向けた進め方・スケジュールについて ・出席者10名	○「企画・運営」第40回技術士全国大会(札幌)第4分科会(防災) ・ロイトン札幌 ・テーマ「未曾有の災害に備えて～よく知り、よく備え、正しく恐れよう～」 ・話題提供 ・「技術経営(MOT)に関する資料紹介」三和開発工業(株)能勢一之氏 ・「H24・H25中山峠災害対応について」岩田地崎建設(株)河村巧氏	○「企画・運営」第40回技術士全国大会(札幌)第4分科会(防災) ・ロイトン札幌 ・テーマ「未曾有の災害に備えて～よく知り、よく備え、正しく恐れよう～」 ・話題提供 ・「技術経営(MOT)に関する資料紹介」三和開発工業(株)能勢一之氏 ・「H24・H25中山峠災害対応について」岩田地崎建設(株)河村巧氏	10/04	H26.05/21	11/28	11/21～22	11/05	11/05	○清田区防災リーダー研修(第2/2回目) ・清田区民センター ・講演「自助・共助のすすめ」大浦宏照部会長 ・参加者36名
		○第9回総合幹事会 ・NPO公共環境研究機構cero事務所 ・H25事業報告・決算について ・H26活動内容・体制について ・H26総会開催内容(講演、日程等)について	○「第3回東日本大震災プロジェクト実行委員会」 ・R&B/パーク札幌大通りサテライト ・提言書作成の中間報告及び内容審議について ・提言書最終稿作成に向けた進め方・スケジュールについて ・出席者10名	○「企画・運営」第40回技術士全国大会(札幌)第4分科会(防災) ・ロイトン札幌 ・テーマ「未曾有の災害に備えて～よく知り、よく備え、正しく恐れよう～」 ・話題提供 ・「技術経営(MOT)に関する資料紹介」三和開発工業(株)能勢一之氏 ・「H24・H25中山峠災害対応について」岩田地崎建設(株)河村巧氏	○「企画・運営」第40回技術士全国大会(札幌)第4分科会(防災) ・ロイトン札幌 ・テーマ「未曾有の災害に備えて～よく知り、よく備え、正しく恐れよう～」 ・話題提供 ・「技術経営(MOT)に関する資料紹介」三和開発工業(株)能勢一之氏 ・「H24・H25中山峠災害対応について」岩田地崎建設(株)河村巧氏	10/04	H26.05/21	11/28	11/21～22	11/05	11/05	○清田区防災リーダー研修(第2/2回目) ・清田区民センター ・講演「自助・共助のすすめ」大浦宏照部会長 ・参加者36名
		○第10回総合幹事会 ・NPO公共環境研究機構cero事務所 ・H25事業報告・決算について ・H26活動内容・体制について ・H26総会開催内容(講演、日程等)について	○「第3回東日本大震災プロジェクト実行委員会」 ・R&B/パーク札幌大通りサテライト ・提言書作成の中間報告及び内容審議について ・提言書最終稿作成に向けた進め方・スケジュールについて ・出席者10名	○「企画・運営」第40回技術士全国大会(札幌)第4分科会(防災) ・ロイトン札幌 ・テーマ「未曾有の災害に備えて～よく知り、よく備え、正しく恐れよう～」 ・話題提供 ・「技術経営(MOT)に関する資料紹介」三和開発工業(株)能勢一之氏 ・「H24・H25中山峠災害対応について」岩田地崎建設(株)河村巧氏	○「企画・運営」第40回技術士全国大会(札幌)第4分科会(防災) ・ロイトン札幌 ・テーマ「未曾有の災害に備えて～よく知り、よく備え、正しく恐れよう～」 ・話題提供 ・「技術経営(MOT)に関する資料紹介」三和開発工業(株)能勢一之氏 ・「H24・H25中山峠災害対応について」岩田地崎建設(株)河村巧氏	10/04	H26.05/21	11/28	11/21～22	11/05	11/05	○清田区防災リーダー研修(第2/2回目) ・清田区民センター ・講演「自助・共助のすすめ」大浦宏照部会長 ・参加者36名

年度	防災研究会／防災委員会				情報系部会／情報部会	地盤系部会／地盤部会	交通系部会／交通部会	都市系部会／都市部会	水工系部会／水工部会	防災教育WG								
	●総会	●総会幹事会など	●防災セミナーなど	●研究成果／講演企画・運営など														
平成26年度 (2014年度)	05/26	04/18	○第1回総合幹事会 ・NPO公共環境研究機構cero事務所 ・H25事業報告・決算について ・H26活動内容・体制について ・H26総会開催内容(講演、日程等)について	07/30	○「第25回防災セミナー」 ・テーマ「誰が生徒か?先生か?～防災教育に果たすエンジニアの役割を考える～」 ・TKP札幌ビジネスセンター赤レンガ前 ・基調講演「これからの地震防災教育-学ぶ側からアクターへ!」(慶応義塾大学環境情報学部准教授 大木聖子氏) ・パネルディスカッション「エンジニアの防災教育における役割を考える」 ・ファシリテーター: 大浦宏照氏(防災委員会副幹事長) ・パネリスト: 大木聖子准教授、城戸寛氏(防災教育WG代表)、北健治氏(地盤部会員) ・参加者103名	10/22	○【加盟】ほっかいどう防災教育協働ネットワーク(事務局:北海道総務部危機対策局危機対策課)構成員として参加登録(日本技術士会北海道本部防災委員会) ・目的:豊かな自然を有する北海道において、道民一人ひとりがその恩恵と災害の二面性を理解し、さまざまな災害に備える必要があることから、幅広い各層に防災教育が浸透し、自助・共助・公助の連携する社会を目指し、防災教育に関する様々な取組を加速化するため。 ・役割:防災教育を推進する個人・企業及び関係団体、行政機関、大学・研究機関、ボランティア・NPO等(以下「構成員」という。)による密接な連携協力関係を構築するとともに、目的の達成に必要な情報共有、意見交換、調査検討等を行う。						07/26	○清田区防災セミナー[一緒に考えよう!災害に備えて] ・清田区民センター視聴覚室 ・講演「自助・共助のすすめ」城戸寛部会員、「札幌市の防災対策」小田直正部会員、「地震についてジンがないから考えよう」大浦宏照部会員 ・参加者177名				
		06/19	○第2回総合幹事会 ・NPO公共環境研究機構cero事務所 ・第25回防災セミナーについて ・第26回防災セミナー計画について								07/30	○第25回防災セミナー開催運営(防災教育WGとの共催)	07/30	○第25回防災セミナー開催運営(都市部会との共催)				
		09/09	○第3回総合幹事会 ・NPO公共環境研究機構cero事務所 ・第26回防災セミナー計画について ・「ほっかいどう防災教育協働ネットワークへの加盟について」	11/04	○「第26回防災セミナー」 ・テーマ「宮城県に学ぶ震災復興～北海道の防災を考える～」 ・TKP札幌ビジネスセンター赤レンガ前 ・講演1「宮城県における震災復興」宮城県土木部 部長 遠藤信哉氏 ・講演2「東松島市への災害応援派遣を振り返る」空知総合振興局札幌建設管理部 滝川出張所 技術係 道路第2係長 松本範之 氏 ・参加者107名							09/02	○第2回水工部会(ドーナコン本社3階会議室、10名) ・第26回防災セミナー準備について ・話題提供「最近の北海道の気象・災害について」一般財団法人日本気象協会北海道支社 松岡直基氏	11/13	○豊平区防災リーダー研修(第1/2回目) ・豊平区民センター ・講演「自助・共助のすすめ」城戸寛部会員、「札幌市の避難所計画」小田直正部会員 ・参加者68名			
		11/18	○第4回総合幹事会 ・NPO公共環境研究機構cero事務所 ・H26事業報告・決算(中間)について ・H27事業計画・予算(案)について ・部会活動報告		H27.03月	●「技術士とは?～技術士は科学技術のお医者さん。」「防災委員会/防災教育WGとは?～科学技術でマテを守る。」広報チラシ作成					02/20	○第2回交通部会(KKR札幌4F会議室、11名) ・研究報告(講義)「避難行動の観測とシミュレーション～室蘭シェイクアウト訓練の事例～」有村幹治 准教授(室蘭工業大学建設社会基盤系)	07/30	○第3回都市部会(KKR札幌、8名) ・防災セミナー実施要領	09/29	○第3回水工部会(ドーナコン本社3階会議室、6名) ・第26回防災セミナー準備について	11/14	○豊平区防災リーダー研修(第2/2回目) ・豊平区民センター ・講演「災害図上演習～平成26年9月11日豪雨を振り返る」大浦宏照・橋詰知喜・長谷川圭一・中田光治・千葉幹 部会員 ・参加者31名
		03/04	○第5回総合幹事会 ・NPO公共環境研究機構cero事務所 ・H26事業報告・決算について ・H27活動内容・体制について ・H27総会開催内容(講演、日程等)について ・災害対策士業連絡会への加入について					01/27	○第2回地盤部会(土木研究所寒地土木研究所2F会議室、11名) ・遅延した「幌延見学会」の開催(季節の良い6月、7月頃へ)について ・次年度防災セミナー当番及び講師決め他準備について ・話題提供 「地盤情報の最近～総務省などのデータ公開の最近の取り組み、国交省のCIM2-1に関する動き、産総研サービスの大幅更新について～」藤沼オネット・オンライン企画技術部札幌事務所 榎本義一氏 「9月11日支笏湖路線R453被災対応の概要報告」岩田地崎建設機技術部 河村巧氏 「防災講演会(5月中旬～6月初旬)の企画内容について」榎北創研 高橋輝明氏		01/29	○第1回交通部会(KKR札幌4F会議室、11名) ・研究報告(講義): 岸邦宏 准教授(北海道大学大学院工学研究科) 「食糧供給機能に着目した北海道の道路ネットワークについて」 「冬季における避難の課題について」 ・話題提供「JR日高線の一部運休と地域交通のあり方」木村和之 部会長	07/30	○第3回水工部会(ドーナコン本社3階会議室、10名) ・研究報告(講義)「避難行動の観測とシミュレーション～室蘭シェイクアウト訓練の事例～」有村幹治 准教授(室蘭工業大学建設社会基盤系)	10/09～11	○第4回水工部会(ドーナコン本社3階会議室、20名) ・第26回防災セミナー準備最終確認 ・話題提供「泥炭性軟弱地盤上にある樋門周辺堤防の安全性に関する研究」萩原建設 瀬川明久氏	11/20	○清田区防災リーダー研修(第1/2回目) ・清田区民センター ・講演「最新の気象情報・気象現象について」松岡直基部会員、「札幌市の避難所計画」小田直正部会員 ・参加者51名
										01/31	○第2回交通部会(KKR札幌4F会議室、10名) ・研究報告(講義)「避難行動の観測とシミュレーション～室蘭シェイクアウト訓練の事例～」有村幹治 准教授(室蘭工業大学建設社会基盤系)	11/08	【視察・見学会】防災研修会(2泊3日)「主に岩手県の被災地を訪れて」 ・実施場所「岩手県宮古市・山田町・釜石市・南三陸町・大船渡市・大槌町・陸前高田市、宮城県気仙沼市」 ・研修内容「被災規模、復興状況など」 ・参加者8名	10/28	○第4回水工部会(ドーナコン本社3階会議室、20名) ・第26回防災セミナー準備最終確認 ・話題提供「泥炭性軟弱地盤上にある樋門周辺堤防の安全性に関する研究」萩原建設 瀬川明久氏	11/21	○清田区防災リーダー研修(第2/2回目) ・清田区民センター ・講演「災害図上演習～平成26年9月11日豪雨を振り返る」大浦宏照・橋田寛・長谷川圭一・村瀬尚久 部会員 ・参加者43名	

年度	●総会		●総合幹事会など		●防災セミナーなど		●研究成果/講演企画・運営など		情報系部会/情報部会	地盤系部会/地盤部会	交通系部会/交通部会	都市系部会/都市部会	水工系部会/水工部会	防災教育WG									
	防炎研究会/防炎委員会	●総会	●総合幹事会など	●防災セミナーなど	●研究成果/講演企画・運営など	●総合幹事会など	●防災セミナーなど	●研究成果/講演企画・運営など															
平成27年度 (2015年度)	05/13	OH27年度防炎委員会「総会」 ・TKPガーデンシティ札幌駅前 3B室 ・H26活動報告・H27活動方針 ・講演「平成26年広島災害からみた北海道の土砂災害」(株)ドーコン環境事業本部 技術顧問 田近淳氏 ・参加者52名	04/15	○第1回総合幹事会 ・NPO公共環境研究機構cero事務所 ・H27活動内容・体制について ・H27総会開催内容(講演、日程等)について ・H26事業報告・決算について ・地域の災害対策士業連絡会への加入について	08/25	○「第27回防炎セミナー」 ・テーマ「防災の基本は地形を知ること」 ・TKP札幌駅前カンファレンスセンター ・講演 I 「デジタル地理情報の地形学と土砂災害への応用」東京大学空間情報科学研究センター長・教授 小口高氏 ・講演 II 「防災マップにおける地図表現と手法」北海道地図(株)開発企画室 室長 関洋祐氏 ・参加者95名	H28.04/30	●「防炎研究会/防炎委員会設立20周年記念誌」発刊											○清田区防災セミナー「一緒に考えよう！災害に備えて」 ・清田区民センター視聴覚室 ・講演「自助・共助のすすめ」城戸寛 部会長 ・参加者:91名				
			06/23	○第2回総合幹事会 ・NPO公共環境研究機構cero事務所 ・第27回防炎セミナーの内容について ・防炎委員会20周年記念事業について ・全国大会第1分科会(防災)と第11回全国防炎連絡会議(富山)の企画案について ・部会活動報告												05/07	第1回水工部会(ドーコン3階会議室、10名) ・部会運営体制及びH27年度活動方針確認						
			09/14	○第3回総合幹事会 ・NPO公共環境研究機構cero事務所 ・第11回全国防炎連絡会議(富山)に向けた「模擬WS」開催 ・第27回防炎セミナー ・収支報告・投稿について ・防炎委員会20周年記念事業について																		○Air-G (FM北海道) Hallo! HOKKS出演 ・FM放送(北海道ローカル) ・「インタビュー:冬の防災について」大浦宏照 部会長 ・出席者:1名	
			10/30	○第4回総合幹事会 ・TKPガーデンシティ札幌駅前 ・防炎委員会20周年記念誌の作成企画案について ・第11回全国防炎連絡会議(富山)WSの概要報告について																			
			12/09	○第5回総合幹事会 ・NPO公共環境研究機構cero事務所 ・防炎委員会20周年記念誌作成の進捗・座談会企画等について ・H27事業報告・決算、H28事業計画・予算について ・H28総会開催内容(講演、日程等)について																			
			02/27	○防炎委員会設立20周年記念誌・座談会(ワークショップ形式) ・TKPガーデンシティ札幌駅前 ・防炎委員会のこれまでの活動、これからの活動について																			
			03/04	○第6回総合幹事会 ・NPO公共環境研究機構cero事務所 ・20周年記念誌進捗・座談会概要 ・本部創立50周年投稿について ・H28総会開催内容																			
										06/30					05/31								
											08/25												

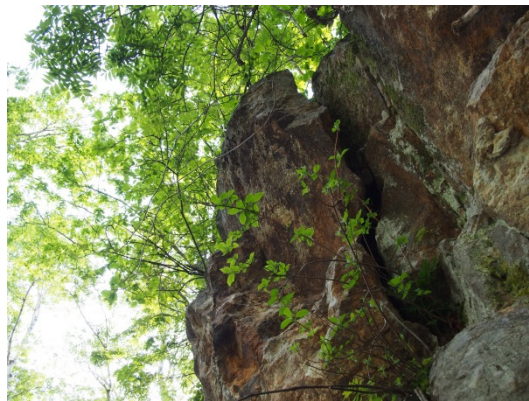
公益社団法人 日本技術士会北海道本部 防災委員会

創立 20 周年記念誌「技術者の心、絆」

平成 28 年 4 月 30 日発行

発行 公益社団法人 日本技術士会北海道本部 防災委員会

防災委員会 20周年記念誌



平成28年4月